（案）

ジノテフラン
農薬蜜蜂影響評価書

２０２６年９月１０日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

目　次

＜経緯＞ 2

＜農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿＞ 2

I. 評価対象農薬の概要 3

1. 有効成分の概要 3
2. 有効成分の物理的・化学的性状 4
3. 申請に係る情報 5
4. 作用機作 5
5. 適用病害虫の範囲及び使用方法 5

II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要 10

1. ミツバチに対する安全性に係る試験 10
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標） 12
3. 花粉･花蜜残留試験 19
4. 蜂群への影響試験 23

III. 毒性指標 27

1. 毒性試験の結果概要 27
2. 毒性指標値 27
3. 毒性の強さから付される注意事項 28

IV. 暴露量の推計及び暴露ごとのリスク評価結果 28

1. ミツバチが暴露しないと想定される適用 28
2. ミツバチが暴露する可能性がある適用 30

V. リスク評価結果（まとめ） 67

評価資料 71

評価資料（公表文献） 72

＜経緯＞

令和 4 年（2022年）12月 14 日	農業資材審議会への諮問
令和 5 年（2023年）12月 26 日	農業資材審議会農薬蜜蜂影響評価部会（第11回）
令和 7 年（2025年）12月 22 日	農業資材審議会農薬蜜蜂影響評価部会（第19回）
令和 8 年（2026年） 5月 28 日	農業資材審議会農薬蜜蜂影響評価部会（第21回）
令和 8 年（2026年） 9月 10 日	農業資材審議会農薬蜜蜂影響評価部会（第22回）

＜農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿＞（第 11 回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）
五箇　公一	山本　幸洋	稲生　圭哉
與語　靖洋		永井　孝志
		中村　　純
		横井　智之

＜農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿＞（第 19 回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
五箇　公一	中村　　純	永井　孝志	並木小百合
山本　幸洋		横井　智之	與語　靖洋

＜農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿＞（第 21 回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
五箇　公一	中村　　純	永井　孝志	並木小百合
山本　幸洋		横井　智之	與語　靖洋

＜農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿＞（第 22 回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
五箇　公一	横井　智之	永井　孝志	與語　靖洋
山本　幸洋		中村　佳子	
		並木　小百合	

ジノテフラン

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1　申請者　三井化学クロップ＆ライフソリューション株式会社

1.2　登録名　ジノテフラン
(*RS*)-1-ﾒﾁﾙ-2-ﾆﾄﾛ-3-(ﾃﾄﾗﾋﾄﾞﾛ-3-ﾌﾘﾙﾒﾁﾙ)ｸﾞｱﾆｼﾞﾝ

1.3　一般名　dinotefuran（ISO）

1.4　化学名

IUPAC名：　(*EZ*)-(*RS*)-1-methyl-2-nitro-3-[(tetrahydro-3-furyl)methyl]guanidine

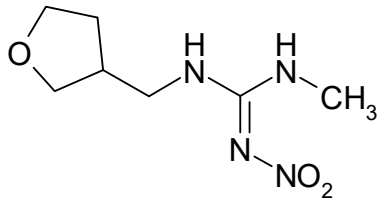
CAS名　：　*N*-methyl-*N'*-nitro-*N''*-[(tetrahydro-3-furanyl)methyl]guanidine
（CAS No. 165252-70-0）

1.5　コード番号　MTI-446

1.6　分子式、構造式、分子量

分子式　　$C_7H_{14}N_4O_3$

構造式



分子量　　202.22

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果
色調・形状			99.6	目視	白色・固体(結晶)
臭気			99.6	官能法	無臭
融点			99.7	OECD 102	107.5 ℃
沸点			99.7	OECD 103	測定不能 (208.3 ℃で分解)
密度			99.7	OECD 109	1.40 g/cm^3 (20 ℃)
蒸気圧			99.7	OECD 104	<1.7 × 10^{-6} Pa (30 ℃)
熱安定性			99.7	OECD 113	150 ℃まで安定
溶解度	水		99.7	OECD 105	39800 mg/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	ヘキサン	99.7	OECD 105	0.0090 mg/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	ヘプタン	99.7	OECD 105	0.0105 mg/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	キシレン	99.7	OECD 105	71.8 mg/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	トルエン	99.7	OECD 105	149 mg/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	ジクロロメタン	99.7	OECD 105	60.9 g/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	アセトン	99.7	OECD 105	57.8 g/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	メタノール	99.7	OECD 105	57.2 g/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	エタノール	99.7	OECD 105	19.4 g/L (20 ℃)
溶解度	有機溶媒	酢酸エチル	99.7	OECD 105	5.17 g/L (20 ℃)
解離定数 (pK$_a$)			99.7	OECD 112	12.6 (20 ℃)
1-オクタノール／水分配係数 (log P$_{ow}$)			99.7	OECD 107	-0.549 (25 ℃)

<table>
<tr><th>試験項目</th><th>純度
(%)</th><th>試験方法</th><th>試験結果</th></tr>
<tr><td>加水分解性</td><td>99.6</td><td>OECD 111</td><td>安定(25 ℃、60 日間、pH 4、7 及び 9)
半減期 1 年以上</td></tr>
<tr><td>水中光分解性</td><td>99.6</td><td>9農産
第5089号</td><td>半減期 3.8時間
(滅菌精製水、25 ℃、400 W/m^2、300~800 nm)</td></tr>
<tr><td>紫外可視吸収
(UV/VIS)
スペクトル</td><td>99.7</td><td colspan="2"><table>
<tr><th>極大吸収波長
(nm)</th><th>吸光度</th><th>モル吸光係数
(L mol^{-1} cm^{-1})</th></tr>
<tr><td colspan="3">中性 (pH7)</td></tr>
<tr><td>268.6</td><td>1.3017</td><td>12500</td></tr>
<tr><td colspan="3">酸性 (pH2)</td></tr>
<tr><td>268.3</td><td>1.0469</td><td>12600</td></tr>
<tr><td colspan="3">アルカリ性 (pH11)</td></tr>
<tr><td>267.9</td><td>0.8869</td><td>10700</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><th colspan="2">試験項目</th><th>試験方法</th><th>試験結果</th></tr>
<tr><td colspan="2">土壌吸着係数</td><td>OECD 106</td><td>K^{ads}_{Foc} = 6~64 (6種類の土壌)</td></tr>
<tr><td colspan="2">土壌残留性</td><td>記載なし</td><td>・粒剤、水田土壌：半減期 1.0日または6.2日
(土壌の深さ0~10 cm、DFOPモデルによる推定値)
・粒剤及び水溶剤、畑地土壌：半減期 12.3日または20.2日
(土壌の深さ0~10 cm、DFOPモデルによる推定値)</td></tr>
</table>

3. 申請に係る情報

ジノテフランは、海外において、2004 年に米国でレタス、葉菜類に登録された。2023 年現在、豪州、ブラジルを含む南北アメリカ諸国、韓国、中国、インド、その他のアジア各国、サウジアラビア、チュニジアを含む中東でも登録を取得している。

4. 作用機作

ジノテフランは、昆虫神経のシナプス後膜のニコチン性アセチルコリン受容体に作用し、シナプス伝達の遮断を起こし、殺虫作用を示す。

（IRAC：4A※）

※参照：https://irac-online.org/

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（93 製剤、別添 1 参照）

・スタークル粒剤、アルバリン粒剤、ホクコースタークル粒剤、三井東圧アルバリン粒剤及びスターガード粒剤
（ジノテフラン 1.0 %粒剤）

・スタークル箱粒剤及び三井東圧アルバリン箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %粒剤）
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、ホクコースタークル顆粒水溶剤、三井東圧アルバリン顆粒水溶剤及びわさび用緑風 SG
（ジノテフラン 20.0 %水溶剤）
・スタークル粉剤 DL、アルバリン粉剤 DL、ホクコースタークル粉剤 DL 及び三井東圧アルバリン粉剤 DL
（ジノテフラン 0.50 %粉剤）
・スタークルトレボン粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.30 %・ジノテフラン 0.50 %粉剤）
・ホクコーラブサイドスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フサライド 2.5 %粉剤）
・ビームスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）
・ビームバシスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・メプロニル 3.0 %粉剤）
・側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤
（ジノテフラン 4.0 %・プロベナゾール 48.0 %水和剤）
・スタークル L 粉剤 DL 及びスタークルメイト L 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %粉剤）
・スタークル液剤 10、スタークルメイト液剤 10 及びアルバリン液剤 10
（ジノテフラン 10.0 %液剤）
・スタークル１キロ H 粒剤及びスタークルメイト１キロ H 粒剤
（ジノテフラン 3.0 %粒剤）
・ビルダースタークル箱粒剤及びホクコービルダースタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）
・スタークルエアー50、スタークルメイトエアー50 及びファームスター顆粒水溶剤 50
（ジノテフラン 50.0 %水溶剤）
・ホクコーラブサイドスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0 %・フサライド 12.0 %水和剤）
・ワイドナーエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）
・コラトップスタークル１キロ粒剤
（ジノテフラン 5.0 %・ピロキロン 15.0 %粒剤）
・イモチエーススタークル粒剤及びホクコーイモチエーススタークル粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・メトミノストロビン 4.0 %粒剤）
・トレボンスター粉剤 DL

（エトフェンプロックス 0.40 %・ジノテフラン 0.20 %粉剤）
・ビームエイトスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤
・トレボンスターフロアブル
（エトフェンプロックス 7.0 %・ジノテフラン 3.0 %水和剤）
・日農ビームアプロードスタークル粉剤５DL 及びクミアイビームアプロードスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）
・ビームモンセレンスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉剤）
・サジェスト微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉粒剤）
・ビームモンカットスタークル F 粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）
・スタークル豆つぶ、クミアイスタークル豆つぶ及びスタークルメイト豆つぶ
（ジノテフラン 12.0 %剤）
・Dr. オリゼスタークル箱粒剤、明治 Dr. オリゼスタークル箱粒剤及びオリザエートスター箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 25.0 %粒剤）
・ビームスタークル微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉粒剤）
・ダブルカットスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.11 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）
・ホクコートップジンスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・チオファネートメチル 2.0 %粉剤）
・MIC ビルダーフェルテラスタークル箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）
・クミアイアプロードスタークルゾル及びアプロードスタークルゾル
（ジノテフラン 9.0 %・ブプロフェジン 18.0 %水和剤）
・キックオフ顆粒水和剤
（クロラントラニリプロール 4.0 %・ジノテフラン 15.0 %水和剤）
・アプロードモンカットスタークル F 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）
・ホクコートップジンスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0 %・チオファネートメチル 20.0 %水和剤）
・ダブルカットバリダスタークル粉剤３DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・

バリダマイシン 0.30 %粉剤）
・ダブルカットスタークルフロアブル
（ジノテフラン 10.0 %・カスガマイシン 1.37 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤）
・アトラクトン箱粒剤及びスターダム箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %粒剤）
・Dr．オリゼスタークル箱粒剤 OS、明治 Dr．オリゼスタークル箱粒剤 OS 及びロングリーチ箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・プロベナゾール 24.0 %粒剤）
・イッカツエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン 0.30 %粉剤）
・フェルテラスタークル箱粒剤 CU
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %粒剤）
・スケルカット顆粒水和剤及びスケルノック顆粒水和剤
（ジノテフラン 40.0 %水和剤）
・スターガードプラス AL
（ジノテフラン 0.010 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）
・トライスタークル粉剤 DL 及びクミアイトライスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフロキン 1.0 %粉剤）
・オールスタースプレー
（ジノテフラン 0.010 %液剤）
・ウッドスター及びウッドセーバー
（ジノテフラン 8.0 %液剤）
・ハイポネックス原液 殺虫剤入り
（ジノテフラン 2.5 %複合肥料）
・サンブラススタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・トルプロカルブ 12.0 %粒剤）
・ガッツスター粒剤及びゴウケツモンスター粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・シメコナゾール 1.5 %・トルプロカルブ 3.0 %粒剤）
・サントリプル箱粒剤及びサンフェスタ箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %・トルプロカルブ 4.0 %粒剤）
・ハイパーキック箱粒剤及びゴウケツバスター箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・トルプロカルブ 9.0 %粒剤）
・アースガーデン４
（エトフェンプロックス 0.020 %・ジノテフラン 0.010 %・ミルベメクチン 0.00050 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）
・スタートレボン W10

（エトフェンプロックス 10.0 %・ジノテフラン 10.0 %乳剤）
・ブレードスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・フェリムゾン 15.0 %・フサライド 15.0 %水和剤）
・ブレードスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フェリムゾン 2.0 %・フサライド 1.5 %粉剤）
・マグァンプ K 殺虫剤入り
（ジノテフラン 0.20 %複合肥料）
・オーケストラスタークルエアー
（ジノテフラン 9.0 %・ベンズピリモキサン 10.0 %水和剤）
・ブレードスタークル R ゾル
（ジノテフラン 9.0 %・フェリムゾン 13.5 %・フサライド 13.5 %水和剤）

II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

1.1 毒性指標の検討に活用し得る試験の数

ジノテフランのミツバチに対する安全性に係る試験として申請者から提出された試験、公表文献に関する報告書及び公表文献に関する情報募集において寄せられた情報のうち毒性指標の検討に活用し得る試験の数を表 1-1 に示す。

表 1-1：毒性指標の検討に活用し得る試験の数

試験の種類	評価段階	申請者から提出を受けた試験*	公表文献に掲載の試験**
成虫単回接触毒性試験	第1段階	2	1
成虫単回経口毒性試験		2	0
成虫反復経口毒性試験		1	0
幼虫経口毒性試験		1	0

* 申請者から提出を受けた試験成績の数。

** 申請者から提出を受けた公表文献に関する報告書（計 2124 報）のうち、「農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会での公表文献の取扱いについて」の信頼性確認シートのチェック項目（6 項目）を満たした文献の数。

1.2 花粉・花蜜残留試験及び蜂群への影響試験の数

ジノテフランのミツバチに対する安全性に係る試験として申請者から提出された花粉・花蜜残留試験及び蜂群への影響試験の数を表 1-2 に示す。

表 1-2：花粉・花蜜残留試験及び蜂群への影響試験の数

試験の種類	評価段階	試験数
花粉・花蜜残留試験	第1段階	5
蜂群への影響試験	第2段階	2

（参考）公表文献の検索結果（別添２参照）（資料 15、16）

文献データベース（Web of Science Core Collection 及び J-STAGE）を用いて、2006 年 7 月 1 日~2021 年 7 月 3 日を対象期間として、有効成分名及びジノテフランを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象となる生物種等についてガイドラインで定めるキーワードで絞り込みが行われた（システマティックレビュー）。

また、国際機関や欧米の評価機関の評価書に引用されている文献（2006 年以前に公表された文献も含む）も収集された（海外評価書）。

これらの検索結果に「公表文献に関する情報募集（2024 年 5 月 9 日~6 月 7 日）で寄せられた情報」等を加えた公表文献の検索結果を以下に示す。

システマティックレビューにおいて検索された、全分野の文献 2124 報のうち、「生活環境動植物及び家畜に対する毒性の分野」に該当する文献は、1006 報で、このうち、第 2 段階適合性があると評価された文献は、22 報であった。また、海外評価書からは、ミツバチ評価に関連する文献が 7 報確認された。一方、「公表文献に関する情報募集（2024 年 5 月 9 日～6 月 7 日）」において寄せられた情報の中に、ミツバチ評価に関連する文献は含まれていなかった。

これらを含め、セイヨウミツバチ（*Apis mellifera*）に係る文献について、「農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会での公表文献の取扱いについて」（令和 4 年 8 月 5 日 農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会決定。以下「公表文献の取扱いについて」という。）に基づき内容を検討した文献は 10 報であった。これら 10 報のうち、農薬蜜蜂影響評価における「リスク評価パラメーター」である室内毒性試験の毒性指標（半数致死量（LD_{50} または LDD_{50}））が報告されている文献は 5 報であった

半数致死量（LD_{50} または LDD_{50}）の報告がない 5 報について、その多くは、帰巣飛翔、嗅覚学習、運動機能や姿勢制御等の行動異常をエンドポイントとした毒性試験に関する研究成果であったが、蜂群の維持に著しい影響を及ぼすことを示す結果ではなく、欧米を含めて、これらの行動異常と蜂群レベルでの悪影響との因果関係に関する知見もないため、現時点においては毒性指標の検討に用いないこととした。

室内毒性試験の毒性指標（半数致死量（LD_{50} または LDD_{50}））が報告されている文献 5 報について、「公表文献の取扱いについて」の「1.（2）結果の信頼性」の方法に基づき試験データの信頼性を精査したところ、このうち 4 報は被験物質や対照区の死亡率等の評価に必要な情報が明確ではなく、毒性指標の検討に活用し得る文献は 1 報であった。

なお、引き続き、行動異常に関する国内外の新たな科学的知見の把握に努める必要がある。

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

（1）接触毒性試験 1

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD_{50} は 0.107 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、1999 年）

被験物質	原体					
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(*Apis mellifera*)/ 5反復、10頭/区					
準拠ガイドライン	OECD TG214					
試験期間	48 h					
投与溶媒 (投与液量)	アセトン(1 µL)					
暴露量 (設定量に基づく 有効成分値) (µg ai/bee)	対照区 (死亡率 %)	0.012	0.025	0.049	0.098	19
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0 %)	0/50	1/50	8/50	22/50	40/50
観察された行動異常	運動障害					
LD_{50} (µg ai/bee) (48 h)	0.107					

（2）接触毒性試験 2

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD_{50} は 0.056 µg ai/bee であった。

表 3：単回接触毒性試験結果（資料 3、2000 年）

被験物質	原体							
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(*Apis mellifera*)/ 3反復、10頭/区							
準拠ガイドライン	OECD TG214							
試験期間	48 h							
投与溶媒 (投与液量)	0.1 % Triton X-100を含む水溶液(2 µL)							
暴露量 (設定量に基づく 有効成分値) (µg ai/bee)	対照区 (死亡率%)	助剤 対照区 (死亡率%)	0.0063	0.0125	0.025	0.05	0.1	0.2
死亡数/供試生物数 (48 h)	1/30 (3.3 %)	0/30 (0 %)	0/30	3/30	5/30	14/30	23/30	30/30
観察された行動異常	運動障害							
LD_{50} (µg ai/bee) (48 h)	0.056							

（3）公表文献 1

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD_{50} は 0.041 µg ai/bee であった。

表 4：単回接触毒性試験結果（資料 17、2019 年）

文献タイトル	Ecological toxicity reduction of dinotefuran to honeybee: New perspective from an enantiomeric level							
著者 (所属)	Chen, Z.L.; Yao, X.M.; Dong, F.S.; Duan, H.X.; Shao, X.S.; Chen, X.; Yang, T.; Wang, G.R.; Zheng, Y.Q. (State Key Laboratory for Biology of Plant Diseases and Insect Pests, Institute of Plant Protection, Chinese Academy of Agricultural Sciences, Beijing 100193, PR China)							
雑誌名等	Environment International, 130							
被験物質(純度)	Dr. Ehrenstorferより入手（99.0 %)							
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(*Apis mellifera*) / 3反復、10頭/区							
準拠ガイドライン	OECD TG214							
試験期間	48 h							
投与溶媒(投与液量)	アセトン(1 µL)							
暴露量 (設定量) (µg ai/bee)	対照区 (死亡率 %)	0.016	0.031	0.063	0.13	0.25	0.5	1
死亡数/供試生物数 (48 h)	<10 %	各区の死亡数の記載なし						
LD_{50} (µg ai/bee)(48 h)	0.041							
観察された行動異常	記載なし							

2.2 成虫単回経口毒性試験

（1）単回経口毒性試験 1

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD_{50} は 0.0137 µg ai/bee であった。

表 5：単回経口毒性試験結果（資料 2、1999 年）

被験物質	原体					
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(*Apis mellifera*)/ 5反復、10頭/区					
準拠ガイドライン	OECD TG213					
試験期間	48 h					
投与溶液 (投与液量)	50 %ショ糖溶液(200 µL/区)					
助剤(濃度%)	なし					
暴露量 (設定量（採餌量による補正値)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (死亡率 %)	0.0025	0.0050	0.0089	0.019	0.032
死亡数/供試生物数 (48 h)	1/50 (2.0 %)	0/50	4/50	12/50	35/50	46/50
観察された行動異常	運動障害					
LD_{50} (µg ai/bee) (48 h)	0.0137					

（2）単回経口毒性試験 2

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD_{50} は 0.023 µg ai/bee であった。

本試験は対照区及び助剤対照区の死亡率についてガイドラインで示された要件を満たしていないことから参考資料とした。

表 6：単回経口毒性試験結果（資料 3、2000 年）

被験物質	原体							
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(*Apis mellifera*)/ 3反復、10頭/区							
準拠ガイドライン	OECD TG213							
試験期間	48 h							
投与溶液 (投与液量)	50 %ショ糖溶液(200 µL/区)							
助剤(濃度%)	Triton-X100 (0.1 %)							
暴露量 (設定量 (採餌量による補正値)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (死亡率%)	助剤 対照区 (死亡率%)	0.003	0.006	0.012	0.023	0.046	0.09
死亡数/供試生物数 (48 h)	4/30 (13.3 %)	5/30 (16.7 %)	9/30	8/30	8/30	17/30	26/30	30/30
観察された行動異常	運動障害							
LD_{50} (µg ai/bee) (48 h)	0.023							

2.3 成虫反復経口毒性試験

（1）反復経口毒性試験 1

セイヨウミツバチ成虫を用いた反復経口毒性試験が実施され、10 d LDD_{50} は 0.010 µg ai/bee/day であった。

表 7：反復経口毒性試験結果（資料 4、2015 年）

被験物質	原体				
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(*Apis mellifera*)/ 4反復、10頭/区				
準拠ガイドライン	OECD TG213、OCSPP 850等				
試験期間	10 d				
投与溶液	50 %ショ糖溶液				
助剤(濃度%)	なし				
暴露量 (実測量 (採餌量による補正値)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee/day)	対照区 (死亡率 %)	0.001	0.003	0.008	0.015
死亡数/供試生物数 (10 d)	0/40 (0 %)	0/40	1/40	15/40	38/40
観察された行動異常	瀕死及び運動障害				
LDD_{50} (µg ai/bee/day) (10 d)	0.010				

2.4 幼虫経口毒性試験

（1）幼虫経口毒性試験 1

セイヨウミツバチ幼虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、72 h LD_{50} は >3.3 µg ai/bee であった。

表 8：幼虫経口毒性試験結果（資料 5、2015 年）

被験物質	原体					
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(*Apis mellifera*)幼虫(4日齢時投与)/ 3反復、12頭/区					
準拠ガイドライン	OECD TG237					
試験期間	72 h					
投与溶液	ローヤルゼリー50 %、酵母エキス2.0 %、ブドウ糖9.0 %及び果糖9.0 %を含む水溶液					
助剤(濃度%)	なし					
暴露量 (実測量に基づく有効成分値) (µg ai/bee)	対照区 (死亡率 %)	0.03	0.11	0.36	0.85	3.3
死亡数/供試生物数 (72 h)	5/36 (13.9 %)	10/36	6/36	5/36	5/36	7/36
LD_{50} (µg ai/bee)(72 h)	>3.3					

3. 花粉･花蜜残留試験

3.1 茎葉散布シナリオ

（1）試験 1

開花初期にジノテフランを散布したかぼちゃの花粉及び花蜜を分析試料とした花粉･花蜜残留試験の結果を表 9 に示す。試験における最大値は花粉及び花蜜でそれぞれ 2.99 及び 0.03 mg/kg であった。

表 9：開花初期に散布したかぼちゃの花粉･花蜜残留試験結果（資料 9、2022 年）下線：試験における最大値

作物名 (品種) (栽培形態)	試験場所 実施年度	試験条件			分析 部位	使用 時期	経過 日数* (日)	残留濃度(mg/kg)	
								ジノテフラン	
								測定値	
		剤型	使用 方法	ha当たりの 有効成分投下量 (kg ai/ha)				花粉	花蜜
かぼちゃ (えびす) (施設)	日本 (茨城県) 2021年	20.0 % 水溶剤	散布 2000倍希釈 300 L/10 a	0.30	花粉** または 花蜜***	開花 初期	0 1 3 7 14	1.14 0.06 0.06 0.02 0.03	<0.01 <u>0.03</u> <u>0.03</u> 0.01 <0.01
	日本 (高知県) 2021年						0 1 3 7 14	1.10 <0.01 0.01 0.04 0.03	<0.01 0.02 0.02 0.01 <0.01
	日本 (宮崎県) 2021年						0 1 3 7 14	<u>2.99</u> 0.02 0.04 0.03 0.02	<0.01 0.01 0.02 <0.01 <0.01

*処理（散布）からの経過日数　**スパーテルを用いて葯から掻き取り採取　***パスツールピペットを用いて採取

（2）試験 2

開花 7 日前にジノテフランを散布したかぼちゃの花粉及び花蜜を分析試料とした花粉･花蜜残留試験の結果を表 10 に示す。散布 21 日後における最大値は花粉及び花蜜でそれぞれ 0.02 及び<0.01 mg/kg であった。

表 10：開花 7 日前に散布したかぼちゃの花粉･花蜜残留試験結果（資料 9、2022 年）下線：試験における最大値

作物名 (品種) (栽培形態)	試験場所 実施年度	試験条件			分析部位	使用時期	経過日数* (日)	残留濃度(mg/kg)	
								ジノテフラン	
								測定値	
		剤型	使用方法	ha当たりの有効成分投下量 (kg ai/ha)				花粉	花蜜
かぼちゃ (えびす) (施設)	日本 (茨城県) 2021年	20.0 % 水溶剤	散布 2000倍 希釈 300 L/10 a	0.30	花粉** または 花蜜***	開花 7日前	7 8 10 14 21	<u>0.14</u> 0.12 0.06 0.05 0.02	<u>0.05</u> 0.03 0.01 <0.01 <0.01
	日本 (高知県) 2021年						7 8 10 14 21	0.12 0.11 0.07 0.05 0.01	0.04 0.03 0.01 <0.01 <0.01
	日本 (宮崎県) 2021年						7 8 10 14 21	0.10 0.11 0.11 0.04 0.01	0.03 0.02 0.01 <0.01 <0.01

*処理（散布）からの経過日数　**スパーテルを用いて葯から掻き取り採取　***パスツールピペットを用いて採取

3.2 土壌処理シナリオ

（1）試験 1 及び試験 2

育苗期にジノテフランを処理した水稲の花粉を分析試料とした花粉残留試験の結果を表 11 に示す。最大値は 0.12 mg/kg であった。

表 11：水稲の花粉残留試験結果（資料 6 及び 7、2020 及び 2021 年）下線：試験における最大値

作物名 (品種) (栽培形態)	試験場所 実施年度	試験条件			分析 部位	使用 時期	経過 日数* (日)	残留濃度(mg/kg) ジノテフラン 測定値
		剤型	使用 方法	ha当たりの 有効成分投下量 (kg ai/ha)				
水稲 (コシヒカリ) (露地)	日本 (長野県) 2019年	12.0 % 粒剤	育苗箱処理 50 g/育苗箱 (20箱/10 a)	1.2	花粉**	移植 当日	73 74 77 81	0.02 0.02 0.02 0.02
	日本 (茨城県) 2020年						77 78 80 82	0.04 0.02 0.03 0.05
	日本 (高知県) 2020年						72 73 75 77	0.03 0.02 0.04 0.04
	日本 (宮崎県) 2020年						71 72 74 78	0.05 <u>0.12</u> 0.09 0.06

*処理（育苗箱処理）からの経過日数

**長野県の試験はパラフィン紙を裏打ちした袋に振り落として採取。その他の試験は稲花粉採取機（充電式クリーナー）を用いて穂から吸引し、フィルターに捕集した花粉

（2）試験 3

定植時にジノテフランを土壌処理したかぼちゃの花粉及び花蜜を分析試料とした花粉･花蜜残留試験の結果を表 12 に示す。試験ごとの最大値の中の最大は花粉及び花蜜でそれぞれ 0.07 及び 0.02 mg/kg であった。また、試験ごとの平均値の中の最大は花粉及び花蜜でそれぞれ 0.04 及び 0.01 mg/kg であった。

表 12：かぼちゃの花粉･花蜜残留試験結果（資料 8、2022 年）下線：試験における最大値

作物名 (品種) (栽培形態)	試験場所 実施年度	試験条件			分析 部位	使用 時期	経過 日数* (日)	残留濃度(mg/kg)			
								ジノテフラン			
								花粉		花蜜	
		剤型	使用 方法	ha当たりの 有効成分投下量 (kg ai/ha)				測定値	平均値 *****	測定値	平均値 *****
かぼちゃ (えびす) (施設)	日本 (茨城県) 2021年	1.0 % 粒剤	植穴 土壌 混和 (2 g/株)	0.076**	花粉*** または 花蜜****	定植 当日	26 27 29 33 40	<u>0.07</u> 0.06 0.03 0.02 0.02	<u>0.04</u>	<u>0.02</u> 0.01 0.01 <0.01 <0.01	<u>0.01</u>
	日本 (高知県) 2021年						26 27 29 33 40	0.04 0.03 0.02 0.02 0.01	0.03	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	0.01
	日本 (宮崎県) 2021年						26 27 29 33 40	0.02 0.02 0.01 0.02 0.01	0.02	<0.01 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01	0.01

*処理（植穴土壌混和）からの経過日数　**株数：3800 本/ha で算出　***スパーテルを用いて葯から掻き取り採取　****パスツールピペットを用いて採取
*****経過日数 26～33 日の測定値の幾何平均値、定量限界未満（<0.01 mg/kg）の値は、0.01 mg/kg として計算

3.3 種子処理シナリオ

該当なし

4. 蜂群への影響試験

（1）トンネル試験 1

セイヨウミツバチの蜂群を用いたトンネル試験が実施され、ジノテフランを 1.2 kg ai/ha の投下量で稲の育苗期に処した後、0.15 kg ai/ha の投下量（散布濃度：0.075 ai %）で出穂期に散布してミツバチに暴露させた結果、いずれの試験においても成虫の死虫数及び蜂群強度（蜂量）への影響は認められなかった。

表 13：トンネル試験 1 の結果（資料 10、2020 年）

被験物質	ジノテフラン12 %粒剤(土壌処理)及びジノテフラン10 %液剤(散布)
供試生物/反復	試験実施機関で飼育しているセイヨウミツバチ(*Apis mellifera ligustica*)蜂群/4反復(陽性対照区は2反復) 、約8,000 頭/群
準拠ガイドライン	OEPP/EPPO Guideline No. 170(4), 2010
試験場所	米国カリフォルニア州
試験期間	2019年8~10月 (8月19日に巣箱をトンネル内に設置、8月21日に被験物質を散布、1週間トンネル内で暴露、処理8日後に巣箱を2.8 km離れた場所(野外)に移動し、散布51日後まで飼育)
試験区の規模	トンネル面積：186 m^2 (6.1 m×30.5 m) 、断面が半円形の合成ガーゼ(メッシュサイズ約1.5 mm)で覆われたトンネル、高さは2.8 m 稲栽培面積：約110 m^2
処理方法(液量)	陰性対照区：水道水(200 L/ha)を散布 陽性対照区：ジメトエート(400 g ai/ha, 200 L/ha)を散布 被験物質処理区：(土壌処理)ジノテフラン12 %粒剤を1.2 kg ai/haで6月18日(育苗期, BBCH 13)に処理、(散布) ジノテフラン10 %液剤の希釈溶液(0.075 ai %)(200 L/ha)で8月21日(出穂期, BBCH 61-65)に散布
処理量(散布濃度)	土壌処理：1.2 kg ai/ha、散布：0.15 kg ai/ha(0.075 ai %)
試験作物 (処理/散布時の BBCH)	稲(*Oryza sativa*、品種 M-104)(土壌処理：BBCH13、散布：BBCH61-65)
観察項目	訪花虫数、死虫数及び蜂群強度(蜂量)
観察及び測定	・訪花虫数：1 m^2の区画(3区画)に採餌に来たミツバチの数を約1分間計測 ・死虫数：散布28日後まで毎日測定(死虫トラップ中の死虫を計測) ・蜂群強度(蜂量)：散布3日前、散布7、15、22、31、37、44及び51日後に巣箱から巣板を取り出し、巣の状態を確認。巣板一面あたり100 %成虫が占有している状況を1,118頭と仮定し推算

<table>
<tr><td>散布日の訪花虫密度</td><td>
<table>
<tr><th>項目</th><th>調査段階*(日)</th><th>陰性対照区</th><th>散布区</th><th>陽性対照区</th></tr>
<tr><td rowspan="2">訪花虫密度(頭/m^2/min)</td><td>0</td><td>3.8±3.2</td><td>1.8±0.6</td><td>0.1±0.0</td></tr>
<tr><td>0~7</td><td>4.7±2.8</td><td>1.8$^{\#}$±0.4</td><td>0.1$^{\#\#}$±0.0</td></tr>
</table>
*散布日を0 (日)とした調査日　$^{\#}$陰性対照区と散布区を比較して有意差あり(Dunnett t-test、$p<0.05$)
$^{\#\#}$陰性対照区と陽性対照区を比較して有意差あり(pooled t-test、$p<0.05$)
</td></tr>
<tr><td rowspan="2">死虫数(①)
及び
蜂群強度(蜂量)(②)
の推移</td><td>
①死虫数
・トンネル内において陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差あり
・巣箱設置時の蜂群強度（8,000頭と仮定）から算出した死虫率は10 %以下(1.8±0.82 %)であった。
<table>
<tr><th rowspan="2">調査段階*
(日)</th><th colspan="3">死虫数（頭）</th></tr>
<tr><th>陰性対照区</th><th>散布区</th><th>陽性対照区</th></tr>
<tr><td>-2~0
(暴露前)</td><td>4.3±3.8</td><td>24±19</td><td>1.2±0.2</td></tr>
<tr><td>0~7
(トンネル内)</td><td>2.1±0.4</td><td>140$^{\#}$±65</td><td>120$^{\#}$±6.7</td></tr>
<tr><td>8~28
（トンネル外)</td><td>14±15</td><td>6.5±3.6</td><td>10±1.9</td></tr>
</table>
*散布日を0(日)とした調査日　$^{\#}$陰性対照区と比較して有意差あり(Dunnett t-test、$p<0.05$)
</td></tr>
<tr><td>
②蜂群強度(蜂量)
陰性対照区と散布区の間に統計的な有意な差なし
<table>
<tr><th rowspan="2">調査段階*
(日)</th><th colspan="3">蜂群強度(蜂量) (頭)</th></tr>
<tr><th>陰性対照区</th><th>散布区</th><th>陽性対照区</th></tr>
<tr><td>-3***</td><td>8,100±1,900</td><td>7,900±2,400</td><td>8,000±1,100</td></tr>
<tr><td>7**</td><td>7,900±2,200</td><td>3,900±2,600</td><td>3,400±400</td></tr>
<tr><td>15***</td><td>5,700±1,400</td><td>4,900±3,400</td><td>3,200$^{\#}$±280</td></tr>
<tr><td>22***</td><td>4,800±870</td><td>4,100±2,200</td><td>2,800$^{\#}$±240</td></tr>
<tr><td>31***</td><td>5,500±1,600</td><td>5,100±2,600</td><td>3,000±280</td></tr>
<tr><td>37***</td><td>6,800±1,200</td><td>5,200±2,900</td><td>4,100$^{\#}$±870</td></tr>
<tr><td>44***</td><td>7,700±1,100</td><td>6,200±3,500</td><td>5,300±2,900</td></tr>
<tr><td>51***</td><td>6,300±1,600</td><td>5,500±3,300</td><td>4,600±2,100</td></tr>
</table>
*散布日を0(日)とした調査日 **トンネル内 ***トンネル外
$^{\#}$陰性対照区と比較して有意差あり(Student’s t-test、$p<0.05$)
</td></tr>
</table>

（2）トンネル試験 2

セイヨウミツバチの蜂群を用いたトンネル試験が実施され、ジノテフランを 1.2 kg ai/ha の投下量で稲の育苗期に処した後、0.10 kg ai/ha の投下量（散布濃度 : 1.25 ai %）で出穂期に散布してミツバチに暴露させた結果、いずれの試験においても成虫の死虫数及び蜂群強度（蜂量）への影響は認められなかった。

表 14：半野外試験 2（トンネル試験）の設計（資料 11、2021 年）

被験物質	ジノテフラン12 %粒剤(土壌処理)及びジノテフラン10 %液剤(散布)
供試生物/反復	試験実施機関で飼育しているセイヨウミツバチ(*Apis mellifera ligustica*)蜂群/4反復(陽性対照区は2反復) 、約9,000 頭/群
準拠ガイドライン	OEPP/EPPO Guideline No. 170(4), 2010
試験場所	トンネル内：米国ジョージア州 トンネル外：米国ノースカロライナ州
試験期間	2020年8~10月 (8月18日に巣箱をトンネル内に設置、8月21日に被験物質を散布、1週間トンネル内で暴露、処理8日後に巣箱を548 km離れた場所(野外)に移動し、散布48日後まで飼育)
試験区の規模	トンネル面積：186 m^2 (6.1 m×30.5 m) 、断面が半円形の合成ガーゼ(メッシュサイズ約1.5 mm)で覆われたトンネル、高さは2.8 m 稲栽培面積：約110 m^2
処理方法(液量)	陰性対照区：水道水(200 L/ha)を散布 陽性対照区：ジメトエート(400 g ai/ha, 200 L/ha)を散布 被験物質処理区：(土壌処理)ジノテフラン12 %粒剤を1.2 kg ai/haで6月17日(育苗期, BBCH 13)に処理、(散布) ジノテフラン10 %液剤の希釈溶液(1.25 ai %)(8 L/ha)で8月21日(出穂期, BBCH 61-64)に散布
処理量(散布濃度)	土壌処理：1.2 kg ai/ha、散布：0.10 kg ai/ha(1.25 ai %)
試験作物 (処理/散布時の BBCH)	稲(*Oryza sativa*、品種 Titan)(土壌処理：BBCH13、散布：BBCH61-64)
観察項目	訪花虫数、死虫数及び蜂群強度(蜂量)
観察及び測定	・訪花虫数：1 m^2の区画(3区画)に採餌に来たミツバチの数を約1分間計測 ・死虫数：散布28日後まで毎日測定(死虫トラップ中の死虫を計測) ・蜂群強度(蜂量)：散布4日前、散布6、14、20、28、34、41及び48日後に巣箱から巣板を取り出し、巣の状態を確認。巣板一面あたり100 %成虫が占有している状況を1,118頭と仮定し推算

散布日の訪花虫密度

項目	調査段階*(日)	陰性対照区	散布区	陽性対照区
訪花虫密度(頭/m^2/min)	0	0.6±0.2	1.5±1.0	0.1#±0.1
	0~7	1.3±0.5	2.0±1.5	0.1#±0.1

*散布日を0 (日)とした調査日　#陰性対照区と比較して有意差あり(pooled t-test、$p<0.05$)

死虫数(①)
及び
蜂群強度(蜂量)(②)
の推移

①死虫数
・陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし

調査段階* (日)	死虫数（頭）		
	陰性対照区	散布区	陽性対照区
-3~0 (暴露前)	7.8±3.1	10±4.6	24±19
0~7 (トンネル内)	3.2±1.8	11±9.6	33#±1.6
8~28 （トンネル外)	14±7.8	11±3.2	20±5.5

*散布日を0(日)とした調査日　#陰性対照区と比較して有意差あり(pooled t-test、$p<0.05$)

②蜂群強度(蜂量)
陰性対照区と散布区の間に統計的な有意な差なし

調査段階* (日)	蜂群強度(蜂量) (頭)		
	陰性対照区	散布区	陽性対照区
-4***	8,300±2,800	9,100±1,700	11,000±2,200
6**	9,400±3,300	7,300±1,200	8,300±630
14***	10,000±3,900	7,700±3,000	7,200±4,600
20***	8,500±3,400	7,100±2,000	6,300±3,600
28***	6,400±3,000	5,700±1,000	5,100±2,300
34***	7,400±4,200	6,900±1,700	5,100±2,800
41***	5,900±4,200	6,900±2,800	5,400±3,800
48***	5,600±4,500	4,800±2,100	4,300±3,900

*散布日を0(日)とした調査日 **トンネル内 ***トンネル外

III. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 15 に示す。

表 15：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値			
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ	試験1	試験2	文献1
成虫 単回接触毒性	48 h LD_{50} (µg ai/bee)	0.107	0.056	0.041
成虫 単回経口毒性		0.0137	－*	
成虫 反復経口毒性	10 d LDD_{50} (µg ai/bee/day)	0.010		
幼虫 経口毒性	72 h LD_{50} (µg ai/bee)	>3.3		

*対照区の死亡率がガイドラインで示された要件を満たしていないことから参考資料とした。

2. 毒性指標値

成虫単回接触毒性については、試験 1 の 48h LD_{50} 値（0.107 µg ai/bee）、試験 2 の 48h LD_{50} 値（0.056 µg ai/bee）及び文献 1 の 48h LD_{50} 値（0.041 µg ai/bee）の幾何平均値 0.0626 µg ai/bee を採用し、毒性指標値を 0.062 µg ai/bee とした。

成虫単回経口毒性については、試験 1 の 48h LD_{50} 値（0.0137 µg ai/bee）を採用し、毒性指標値を 0.013 µg ai/bee とした。

成虫反復経口毒性については、試験 1 の 10d LDD_{50} 値（0.010 µg ai/bee/day）を採用し、毒性指標値を 0.010 µg ai/bee/day とした。

幼虫経口毒性については、試験 1 の 72 h LD_{50} 値（>3.3 µg ai/bee）を採用し、毒性指標値を 3.3 µg ai/bee とした。

ジノテフランのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値を表 16 に示す。

表 16：ジノテフランのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD_{50} (µg ai/bee)	**0.062**
	単回経口毒性		**0.013**
	反復経口毒性	10 d LDD_{50} (µg ai/bee/day)	**0.010**
幼虫	経口毒性	72 h LD_{50} (µg ai/bee)	**3.3**

3．毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD_{50} は 11 µg/bee 未満であったため、注意事項を要する。

IV．暴露量の推計及び暴露ごとのリスク評価結果

1．ミツバチが暴露しないと想定される適用

ジノテフランを含有する各種製剤の適用のうち、1.1~1.3 に示す適用については、その使用にあたり本剤にミツバチが暴露しないと想定されるため、暴露量の推計は行わなかった。

1.1 エアゾル剤等、一度に広範囲かつ多量に使用されることがない製剤

ジノテフランを含有する各種製剤の適用のうち、表 17 に示す製剤が該当。

表 17：ジノテフランを含有するエアゾル剤等、一度に広範囲かつ多量に使用されることがないと考えられる製剤

整理番号*	登録番号	製剤名	農薬の種類
43	23372	ｽﾀｰｶﾞｰﾄﾞﾌﾟﾗｽAL	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ0.010 %・ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ0.010 %水和剤
45	23506	ｵｰﾙｽﾀｰｽﾌﾟﾚｰ	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ0.010 %液剤
52	24316	ｱｰｽｶﾞｰﾃﾞﾝ4	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ0.020 %・ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ0.010 %・ﾐﾙﾍﾞﾒｸﾁﾝ 0.00050 %・ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ0.010 %水和剤

*別添 1 及び 3 における整理番号

1.2 適用場所が「温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所」に限られている適用

該当なし

1.3 ミツバチが暴露しないと想定される作物

（1）開花前に収穫する作物

1) あぶらな科　かぶ、ｷｬﾍﾞﾂ[1]、ｸﾚｿﾝ、だいこん、ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ[2]、はくさい[1]、ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ[3]、畑わさび[2]、非結球あぶらな科葉菜類(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲを除く)、非結球あぶらな科葉菜類(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ、畑わさびを除く)

[1]結球あぶらな科葉菜類、[2]非結球あぶらな科葉菜類、[3]はなやさい類

2) きく科　しゅんぎく、すいぜんじな、ふき、ﾚﾀｽ[1]、非結球ﾚﾀｽ[1]、葉ごぼう

[1]ﾚﾀｽ類

3) ひがんばな科　たまねぎ[1]、にら[2]、ねぎ[2]、らっきょう[1]、わけぎ[2]

[1]鱗茎類(根物)、[2]鱗茎類(葉物)

4) ゆり科　該当なし

5) せり科　せり、せり(水耕栽培)、ｾﾙﾘｰ、にんじん、みつば

6) ﾋﾕ科　てんさい、ほうれんそう[1]

[1]ﾋﾕ科葉菜類

7) しょうが科　しょうが

8) その他の作物　ﾓﾛﾍｲﾔ

（2）開花しない作物（栽培管理により開花しない作物を含む）

1) ｼﾀﾞ植物　該当なし

2) 芝　該当なし

3) その他　かんしょ、くわい、茶

（3）夜間に開花する作物

該当なし

（4）ミツバチが訪花しないとの知見のある開花作物

さとうきび、小麦

2. ミツバチが暴露する可能性がある適用

2.1 リスク管理措置（被害防止方法）を課す適用

2.1.1 リスク管理措置を課すことで暴露しないと評価した適用

以下の（1）～（9）のリスク管理措置を課す適用については、ミツバチへの暴露を防ぐことができるため、暴露量の推計を行わなかった。

（1）閉鎖系施設栽培での使用に限る

散布：きく、きゅうり(花)、しそ(花穂)、食用ｴｷｻﾞｶﾑ、食用ｶｰﾈｰｼｮﾝ、食用ぎく、食用ｺｽﾓｽ、食用せんにちこう、食用ﾄﾚﾆｱ、食用なでしこ、食用ﾊﾟﾝｼﾞｰ、食用ﾌﾟﾘﾑﾗ、食用ﾐﾆﾊﾞﾗ、食用金魚草

定植時の植穴土壌混和：いちご、ｶﾞｰﾍﾞﾗ、きく、食用ぎく

生育期の株元散布：ｶﾞｰﾍﾞﾗ、きく、きゅうり、ｽﾞｯｷｰﾆ、ﾋﾟｰﾏﾝ、食用ぎく

灌注：きく

（2）閉鎖系施設栽培での使用または発芽（萌芽）~落花（開花終了）までを除く期間の使用に限る

散布： あけび(果実)、うめ、おうとう、ｵﾘｰﾌﾞ、ｵﾘｰﾌﾞ(葉)、かき、かんきつ、ｷｳｲﾌﾙｰﾂ、なし、なんてん(葉)、ﾈｸﾀﾘﾝ、びわ、ぶどう、ﾏﾝｺﾞｰ、もも、ﾗｽﾞﾍﾞﾘｰ、りんご、小粒核果類

無人航空機による散布*：かき

*「閉鎖系施設栽培での使用」の記載は不要

本剤1 g当り水1 mLの割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する： かき、ぶどう

樹幹注入**：ｱﾒﾘｶﾌｳ、ｶﾞｼﾞｭﾏﾙ、くすのき、さくら、つばき類、ﾃﾞｲｺﾞ、ひのき、ぶな、ﾌﾟﾗﾀﾅｽ、樹木類(つばき類を除く)

**「閉鎖系施設栽培での使用」の記載は不要

（3）閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る

散布：あずき、ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ、ｱﾏﾗﾝｻｽ(茎葉)、いぐさ、うり類(漬物用)、えごま(種子)、えだまめ、ｵｸﾗ、かぼちゃ、きゅうり、きゅうり(葉)、さやいんげん、さやえんどう、しょくようほおずき、すいか、ｽﾞｯｷｰﾆ、だいず、とうがらし(葉)、とうがらし類、とうもろこし(子実)、ﾄﾏﾄ、なす、にがうり、ばれいしょ、ﾋﾟｰﾏﾝ、まくわうり、ﾐﾆﾄﾏﾄ、ﾒﾛﾝ、実えんどう、豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、未成熟ささげ、未成熟そらまめを除く)、未成熟ささげ、未成熟そらまめ、未成熟とうもろこし

無人航空機による散布：えだまめ、だいず

空中散布*：えだまめ、だいず

播溝土壌混和：えだまめ、だいず

株元散布：ｵｸﾗ、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、とうがらし類**

*「閉鎖系施設栽培での使用」の記載は不要

**使用時期「生育期」

（4）閉鎖系施設栽培以外では、開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する

株元散布：かんきつ(苗木)、なし(苗木)

株元灌注：かんきつ(苗木)

（5）閉鎖系施設栽培以外で使用する場合、開花させない

散布：しそ、バジル

植穴土壌混和：しそ

（6）開花前に収穫する作物以外は、閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る

散布：花き類･観葉植物(きくを除く)

株元散布：花き類･観葉植物、花き類･観葉植物(きく､ｶﾞｰﾍﾞﾗを除く)

灌注：花き類･観葉植物、花き類･観葉植物(きくを除く)

植穴土壌混和：花き類･観葉植物(きく､ｶﾞｰﾍﾞﾗを除く)

（7）「閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽）~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」または「発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」

散布：つつじ類、つばき類、樹木類(つつじ類、つばき類を除く)

株元散布：つつじ類

株元灌注：つばき類

（8）閉鎖系施設栽培以外で使用する場合、えごま(葉)については、開花させない、それ以外の作物については、発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る

散布：しそ科葉菜類(しそ、ﾊﾞｼﾞﾙを除く)

（9）開花期終了後の使用に限る

原液の空中散布：稲*

*ホクコーラブサイドスタークルフロアブル

（10）開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する

散布：わさび*

*わさび用緑風SG

株元灌注：そてつ

2.1.2 暴露を低減するリスク管理措置を課す適用

以下の（1）または（2）のリスク管理措置を課す適用については、ミツバチへの暴露を低減するリスク管理措置を課した条件で暴露量の推計を行った。

暴露量の推計の詳細については、2.2 の該当するシナリオにおいて記載した。

なお、「閉鎖系施設栽培」での使用の場合はミツバチへの暴露が防がれるため暴露量の推計を行わなかった。

（3）のリスク管理措置を課す適用については、ミツバチへの暴露を低減するリスク管理措置を課した条件で第 2 段階評価を行った。

第 2 段階評価の詳細については、2.3 に記載した。

（1）1.1 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る
育苗期の株元散布：きゅうり（2 g/株）、とうがらし類、メロン（2 g/株）、ピーマン
定植時の植穴土壌混和：きゅうり（2 g/株）、とうがらし（葉）、とうがらし類、
メロン（2 g/株）、ズッキーニ、ピーマン、

（2）5.5 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る
定植時の植穴土壌混和：ピーマン（5 g/株）

（3）150 L/10 a を超えて使用した場合は、開花前に収穫する
いね科牧草

2.2 第 1 段階評価

ミツバチが暴露する可能性がある適用のうち、2.1.1 に掲げるリスク管理措置を課すことで暴露評価を不要とした適用以外については、茎葉散布、土壌処理、種子処理のいずれかのシナリオの下、第 1 段階評価の対象とした。

第 1 段階評価は、蜂群を構成する個々のミツバチへの影響を、実験室で実施された毒性試験の結果に基づき把握し、ミツバチの死亡率が蜂群への影響が懸念される水準とならないかを評価するものである。室内での毒性試験における対照群の自然死亡率を 10 %まで許容していることに鑑み、ミツバチの死亡率が 10 %を超えなければ、蜂群への影響がないものとする。

しかしながら、ミツバチの死亡率が被験物質処理群と対照群でほぼ同じとなる処理量を試験から正確に求めるのは困難である。一方、米国で過去に実施された試験の解析により、死亡率が 10 %となる処理量の半数致死量（LD_{50}：ミツバチの死亡率が 50 %となる処理量）に対する比の平均が 0.4 であったとの知見がある*ことから、ミツバチの推計暴露量の半数致死量に対する比率、RQ（リスク比）の概念を導入し、RQ が 0.4 を超えない場合には、農薬への暴露によるミツバチの死亡率は 10 %を超えず、蜂群への影響がないものと評価する。

*U.S.EPA（2014）, Guidance for Assessing Pesticide Risks to Bees p.32

2.2.1 茎葉散布シナリオ

2.2.1.1 スクリーニング#

#：予測式を用いた推計暴露量による評価

2.2.1.1.1 暴露量の推計（スクリーニング）

「農薬のミツバチへの影響評価ガイダンス」に準拠して、表 18 のパラメーターを用いて、茎葉散布シナリオの予測式により暴露量の推計を行った。

表 18 : 暴露量推計に関するパラメーター（農薬付着量、摂餌量及び農薬残留量）

接触暴露			
農薬付着量(nL/bee)			70
経口暴露			
摂餌量(mg/bee/day)	成虫	花粉	9.6
		花蜜	140
	幼虫	花粉	3.6
		花蜜	120
農薬残留量(μg/g per kg/ha)	花粉・花蜜		98

2.2.1.1.2 リスク評価結果（スクリーニング）

茎葉散布シナリオのスクリーニングを行った、わさびの使用時期「畑育苗期」、使用方法「散布」の適用において、成虫単回経口暴露、成虫反復経口暴露及び幼虫経口暴露の RQ が 0.4 を超えたため、提出のあった花粉・花蜜残留試験を用いて精緻化を実施した。

また、稲の使用方法「散布、無人航空機*による散布及び空中散布」の適用並びにいね科牧草の使用方法「散布」の適用において、成虫単回接触暴露、成虫単回経口暴露または成虫反復経口暴露のいずれかの RQ が 0.4 を超えたため、提出のあった蜂群への影響試験を用いて第 2 段階評価を実施した。

*無人ヘリコプターを含む。これ以降同様。

2.2.1.2 精緻化## ##：花粉･花蜜残留試験等、実測値を用いた推計暴露量による評価

2.2.1.2.1 暴露量の推計（精緻化）

表 19 に示す適用について、実測値を用いた推計暴露量の精緻化を実施した。

表 19：精緻化を実施した適用

整理番号*	登録番号	製剤名	作物名(使用時期/使用方法)
3	20811	ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤	わさび(畑育苗期/散布)
	20812	ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤	
	20813	ﾎｸｺｰｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤	
	20961	三井東圧ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤	

* 別添 1 及び 3 における整理番号

わさびは畑育苗期に開花することはなく、本田に定植後、開花までには 4 か月程度の間隔がある。

このため、畑育苗期に農薬を散布した場合、農薬散布から開花までには、少なくとも 4 か月程度の期間がある。

わさびは栽培体系が特殊であることから、わさびを試験作物とした花粉・花蜜

残留試験の実施は困難である。一方、同じ草本作物であり、花粉・花蜜残留試験の実施が比較的容易な作物として、かぼちゃが広く用いられている。かぼちゃは、草本作物において開花前に散布された農薬が、その後に開花する花の花粉または花蜜中に移行・残留する挙動を推定する上で、一定の代表性を有すると考えられる。

そのため、かぼちゃとわさびは異なる科に属する作物ではあるものの、本評価では、かぼちゃを代表作物として、開花前に農薬を散布した花粉・花蜜残留試験（資料 9）の結果を基に、わさびにおける推計暴露量の精緻化を行った。

畑育苗期のわさびへの農薬散布から開花までの期間は 4 か月程度であり、かぼちゃの花粉・花蜜残留試験における散布後最長日数の測定時点（散布 21 日後）よりも十分に長いことから、当該試験結果を精緻化に用いることが可能であると判断した。

当該試験における花粉中及び花蜜中のジノテフラン残留濃度の推移を、それぞれ図 1 及び図 2 に示した。

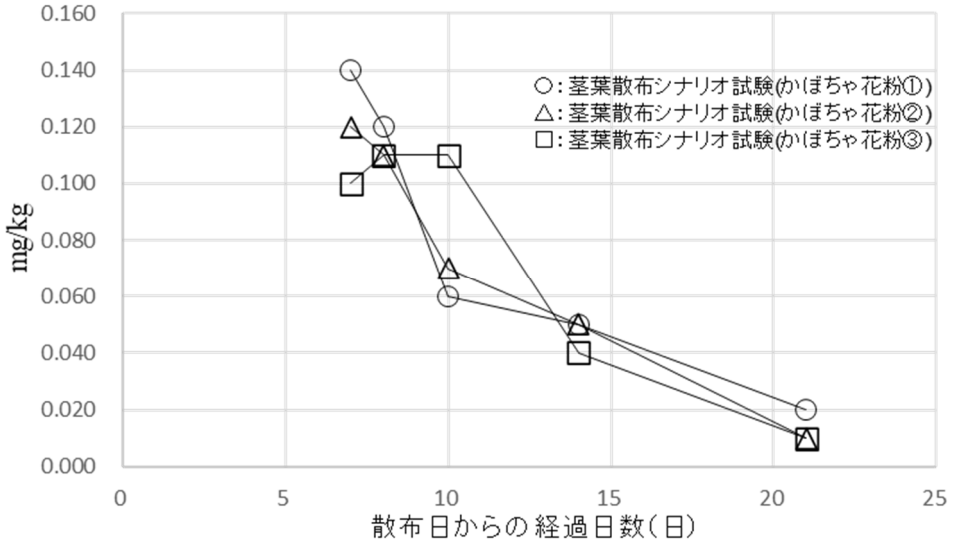


図 1： かぼちゃの開花 7 日前にジノテフランを散布した後の花粉中の残留濃度の推移

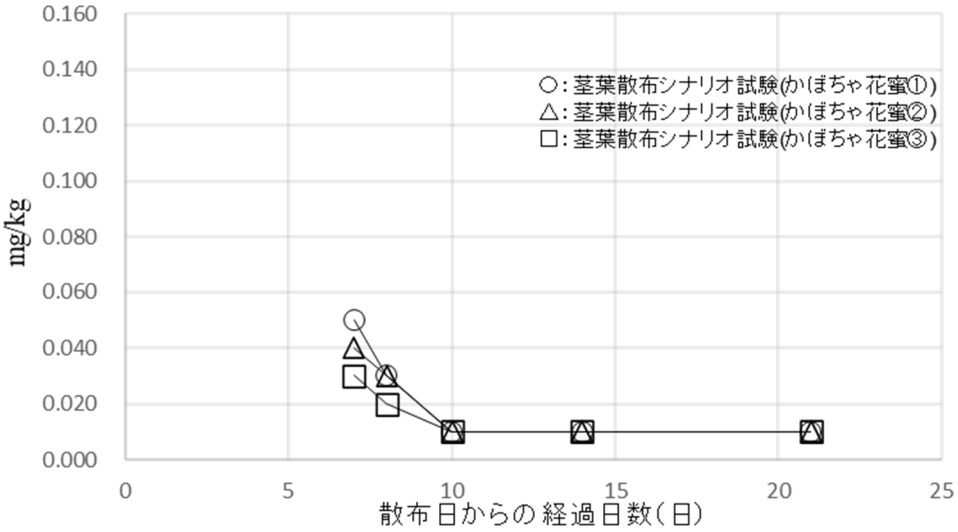


図 2： かぼちゃの開花 7 日前にジノテフランを散布した後の花蜜中の残留濃度の推移

かぼちゃの花粉中におけるジノテフランの残留濃度は、茎葉散布後 7~10 日前後において概ね 0.06~0.14 mg/kg と比較的高い値を示した。その後はいずれの試験区においても経時的に低下する傾向が認められ、散布 14 日後では 0.04~0.05 mg/kg 程度まで減少した。さらに散布 21 日後には 0.01~0.02 mg/kg 程度まで低下し、初期と比べて明確な減衰が確認された。試験区間で残留濃度の水準には一定のばらつきがみられるものの、散布後の時間経過に伴い花粉中のジノテフラン残留濃度が低下する傾向は、いずれの試験区においてもおおむね共通していた。

かぼちゃの花蜜中におけるジノテフランの残留濃度は、茎葉散布後 7~8 日前後において 0.02~0.05 mg/kg を示した。その後はいずれの試験区においても速やかに低下し、散布 10 日後には概ね 0.01 mg/kg 程度まで減少した。散布 14 日後以降は 0.01 mg/kg 前後で推移しており、明確な上昇傾向は認められなかった。試験区間で初期濃度には一定のばらつきがみられるものの、時間の経過に伴い花蜜中の残留濃度が低下し、比較的低い水準で安定する傾向は、いずれの試験区においてもおおむね共通していた。

精緻化における単回経口暴露及び反復経口暴露共にはかぼちゃの試験における散布 21 日後の最大の残留値を用いて暴露量を推計した。なお、定量限界未満（<0.01 mg/kg）の値は、0.01 mg/kg として計算した。

推計に用いた残留値を表 20 に示した。

表 20：精緻化における暴露量の推計に用いた残留値

単回経口評価(散布21日後の花粉最大値)	0.02 mg/kg (処理量0.30 kg ai/ha)
反復経口評価(散布21日後の花粉最大値)	
単回経口評価(散布21日後の花蜜最大値)	0.01 mg/kg (処理量0.30 kg ai/ha)
反復経口評価(散布21日後の花蜜最大値)	

2.2.1.2.2 リスク評価結果（精緻化）

精緻化を行うことにより、表 18 に示す適用について RQ が 0.4 以下となったため、蜂群への影響は懸念されないとの評価結果となった（別添 3 及び表 21）。

表 21：精緻化を実施したわさびの適用の RQ（上段：スクリーニング、下段：精緻化）

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	花粉･花蜜残留濃度				推計暴露量 (µg/bee)			RQ 推計暴露量/毒性指標			被害 防止 方法
								最大値 (µg/g)		平均値 (µg/g)								
								花粉	花蜜	花粉	花蜜	成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
わさび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	畑育苗期	散布	茎葉 散布	0.30	29				4.4		3.6	340	440	1.1	不要
								0.02	0.01	0.02	0.01	0.0016	0.0016	0.0013	0.12	0.16	0.00039	

2.2.2 土壌処理シナリオ

2.2.2.1 スクリーニング#　　#：予測式を用いた推計暴露量による評価

2.2.2.1.1 暴露量の推計（スクリーニング）

「農薬のミツバチへの影響評価ガイダンス」に準拠して、表 22 のパラメーターを用いて、土壌処理シナリオの予測式により暴露量の推計を行ったところ、別添 3 のとおりの結果となった。

表 22：暴露量推計に関するパラメーター
（摂餌量、農薬残留量、log Pow、土壌吸着係数）

経口暴露			
摂餌量(mg/bee/day)	成虫	花粉	9.6
		花蜜	140
	幼虫	花粉	3.6
		花蜜	120
農薬残留量(μg/g per kg/ha)		花粉・花蜜	0.287
1-オクタノール/水分配係数(log P_{ow})			-0.549
土壌吸着係数(K^{ads}_{Foc})(6種類の土壌の中央値)			42

2.2.2.1.2 リスク評価結果（スクリーニング）

うり類（漬物用）、きゅうり、ズッキーニ、とうがらし（葉）、とうがらし類、ピーマン及びメロン（2 g/株）の土壌処理の適用において成虫単回経口暴露または成虫反復経口暴露のいずれかの RQ が 0.4 を超えたため、提出のあった花粉・花蜜残留試験を用いて精緻化を実施した。スクリーニングを実施したその他の土壌処理の適用（いぐさ、稲、稲（箱育苗）、かぼちゃ、すいか、トマト、なす、にがうり、ミニトマト及びメロン（1 g/株））については、RQ が 0.4 を超えないことを確認した（別添 3）。

2.2.2.2 精緻化##　　##：花粉･花蜜残留試験等、実測値を用いた推計暴露量による評価

2.2.2.2.1 暴露量の推計（精緻化）

表 23 に示す適用について、実測値を用いた推計暴露量の精緻化を実施した。

表 23：精緻化を実施した適用

整理番号*	登録番号	製剤名	作物名(使用時期/使用方法)
1	20805	ｽﾀｰｸﾙ粒剤	①きゅうり、ﾒﾛﾝ(2 g/株)、ﾋﾟｰﾏﾝ及びとうがらし類(育苗期/株元散布) ②きゅうり、うり類(漬物用)、ﾒﾛﾝ(2 g/株)、ｽﾞｯｷｰﾆ、ﾋﾟｰﾏﾝ、とうがらし類及びとうがらし(葉)(定植時/植穴土壌混和)
	20806	ｱﾙﾊﾞﾘﾝ粒剤	
	20807	ﾎｸｺｰｽﾀｰｸﾙ粒剤	
	20959	三井東圧ｱﾙﾊﾞﾘﾝ粒剤	
	22738	ｽﾀｰｶﾞｰﾄﾞ粒剤	きゅうり、ﾒﾛﾝ(2 g/株)、ﾋﾟｰﾏﾝ及びとうがらし類(定植時/植穴土壌混和)
56	24413	ﾏｸﾞﾌｧﾝﾌﾟK 殺虫剤入り	きゅうり及びﾋﾟｰﾏﾝ(定植時/植穴土壌混和)

土壌処理シナリオでは､使用した農薬が花粉や花蜜へ直接暴露することはなく、土壌を介して移行した農薬が花粉や花蜜に残留する。このため、花の形態の違いが花粉や花蜜への農薬の残留に及ぼす影響は小さく､作物グループの異なる作物間での読み替えが可能であると考えられた。

そこで、代表作物として「かぼちゃ」を選定し、定植時に農薬を処理した花粉・花蜜残留試験（資料 8）が実施され、当該試験結果（表 12）を用いて、うり類（漬物用）、きゅうり、ズッキーニ、とうがらし（葉）、とうがらし類、ピーマン及びメロン（2 g/株）における推計暴露量の精緻化を行った。

なお、このうち、整理番号 1 については、育苗期の株元散布におけるきゅうり（2 g/株）、メロン（2 g/株）、ピーマン及びとうがらし類並びに、定植時の植穴土壌混和におけるきゅうり（2 g/株）、メロン（2 g/株）、ズッキーニ、ピーマン、とうがらし類及びとうがらし（葉）に対しては、リスク管理措置として「1.1 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課すことで、また、整理番号 56 については、ピーマンに対し、リスク管理措置として「5.5 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課すことで、「かぼちゃ」の花粉・花蜜残留値を精緻化に用いることが可能と判断した。

当該試験における花粉中及び花蜜中のジノテフラン残留濃度の推移を、それぞれ図 3 及び図 4 に示した。

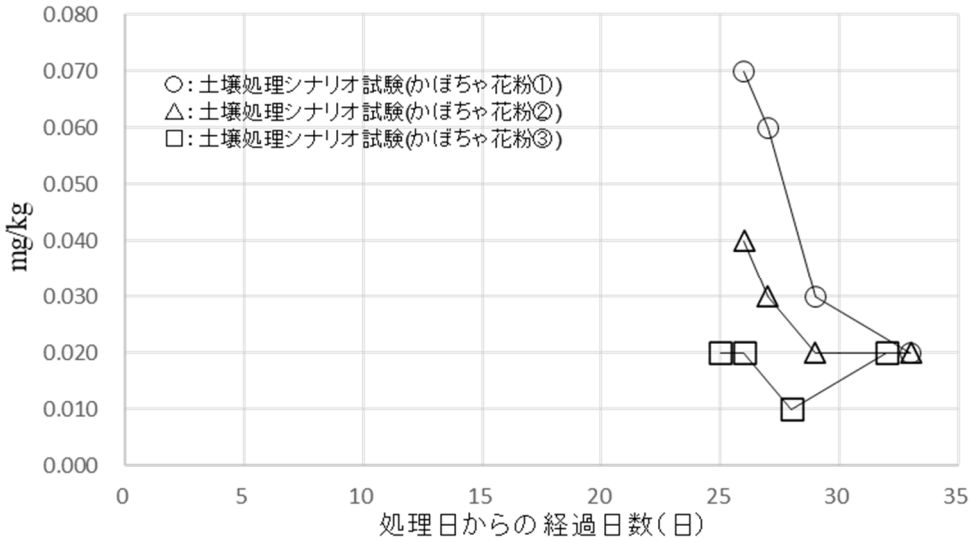


図 3： かぼちゃの定植時にジノテフランを土壌処理した後の花粉中の残留濃度の推移

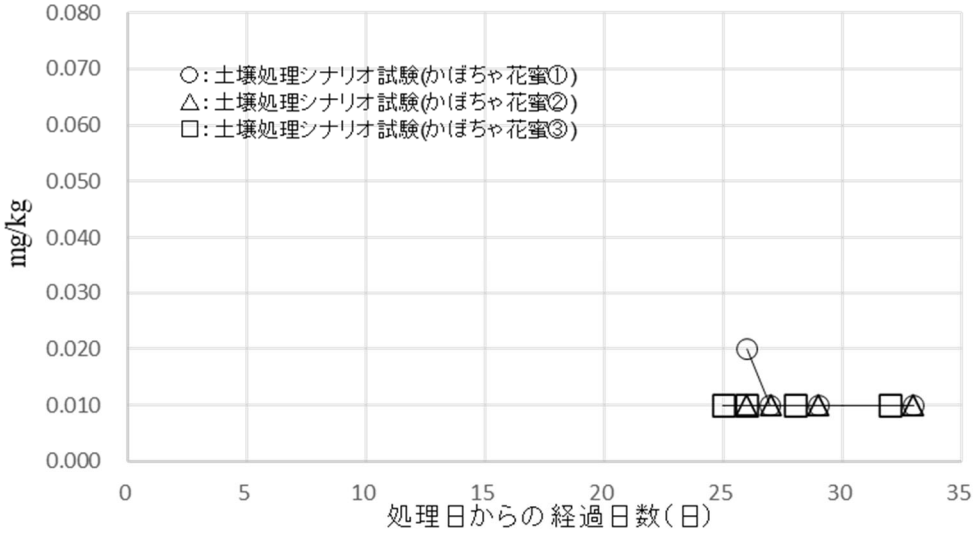


図 4： かぼちゃの定植時にジノテフランを土壌処理した後の花蜜中の残留濃度の推移

かぼちゃの花粉中におけるジノテフランの残留濃度は、処理約 26 日後において 0.02~0.07 mg/kg を示したが、その後はいずれの試験区においても低下傾向を示した。処理 29 日後以降は概ね 0.02 mg/kg 前後以下で推移した。試験区間で残留濃度に一定の差はみられるものの、時間の経過に伴い残留濃度が低下する傾向はいずれの試験区においてもおおむね共通していた。

かぼちゃの花蜜中におけるジノテフランの残留濃度は、処理 26 日後以降、概ね 0.01 mg/kg 程度と低い水準で推移し、大きな変動は認められなかった。試験区

間で残留濃度に若干の差はみられるものの、全体として残留濃度は低い値で推移する傾向、いずれの試験区においてもおおむね共通していた。

精緻化における単回経口暴露ではかぼちゃの試験における最大の残留値を用い、反復経口暴露ではかぼちゃの試験における 7 日間(処理日からの経過日数 26~33 日）の平均残留値（幾何平均値）を用いて暴露量を推計した。なお、平均値の算出の際は定量限界未満（<0.01 mg/kg）の値は、0.01 mg/kg として計算した。

推計に用いた残留値を表 24 に示した。

表 24：精緻化における暴露量の推計に用いた残留値

単回経口評価(花粉最大値)	0.07 mg/kg (処理量0.076 kg ai/ha)
反復経口評価(花粉平均値)	0.04 mg/kg (処理量0.076 kg ai/ha)
単回経口評価(花蜜最大値)	0.02 mg/kg (処理量0.076 kg ai/ha)
反復経口評価(花蜜平均値)	0.01 mg/kg (処理量0.076 kg ai/ha)

2.2.2.2.2.2 リスク評価結果（精緻化）

精緻化を行うことにより、すべての適用について RQ が 0.4 以下となったため、蜂群への影響は懸念されないとの評価結果となった（別添 3 及び表 25~27）。

表 25：スタークル粒剤、アルバリン粒剤、ホクコースタークル粒剤及び三井東圧アルバリン粒剤の精緻化を実施した適用の RQ（上段：スクリーニング、下段：精緻化）

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)			推計暴露量/毒性指標			被害防止方法
									最大値		平均値		経口			経口			
													成虫		幼虫	成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜	単回	反復					
きゅうり	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2 g/株* (1100 株/10 a)	育苗期	1100	株元散布	土壌処理	PN	0.11	0.063				0.0095		0.0078	0.73	0.95	0.0024	要
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等		定植時		植穴土壌混和				0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		育苗期		株元散布														
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株 (1100 株/10 a)		1100				0.11	0.032				0.0047		0.0039	0.36	0.47	0.0012	不要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等	2 g/株* (1100 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理		0.11	0.063				0.0095		0.0078	0.73	0.95	0.0024	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
うり類(漬物用)	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株 (555 株/10 a)		1110			PN	0.11	0.032				0.0048		0.0039	0.37	0.48	0.0012	不要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等								0.10	0.029	0.058	0.015	0.0051	0.0026	0.0039	0.39	0.26	0.0012	
ﾒﾛﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2g/株* (590 株/10 a)	育苗期	1100	株元散布	土壌処理	PN	0.11	0.034				0.0051		0.0042	0.39	0.51	0.0013	要
			定植時		植穴土壌混和				0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2 g/株* (590 株/10 a)	育苗期		株元散布														
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類		定植時		植穴土壌混和														
ｽﾞｯｷｰﾆ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2 g/株* (1110 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.064				0.0095		0.0079	0.73	0.95	0.0024	要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類								0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)			推計暴露量/毒性指標			被害防止方法
									最大値		平均値		経口			経口			
													成虫		幼虫	成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜	単回	反復					
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株* (1700 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.10				0.015		0.012	1.1	1.5	0.0037	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株* (1700 株/10 a)		1100				0.11	0.049				0.0073		0.0060	0.56	0.73	0.0018	
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		育苗期	1100	株元散布			0.11	0.049				0.0073		0.0060	0.56	0.73	0.0018	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
とうがらし類	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株* (2080 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.12				0.018		0.015	1.4	1.8	0.0045	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株* (2080 株/10 a)		1100				0.11	0.060				0.0089		0.0074	0.69	0.89	0.0022	
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		育苗期	1100	株元散布			0.11	0.060				0.0089		0.0074	0.69	0.89	0.0022	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
とうがらし(葉)	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	1 g/株* (2080 株/10 a)	定植時但し、収穫30 日前まで	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.060				0.0089		0.0074	0.69	0.89	0.0022	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

*被害防止方法として「1.1 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課す

表 26：スターガード粒剤の精緻化を実施した適用の RQ（上段：スクリーニング、下段：精緻化）

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)			推計暴露量/毒性指標			被害防止方法
									最大値		平均値		経口			経口			
													成虫		幼虫	成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜	単回	反復					
きゅうり	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株* (1100 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.063				0.0095		0.0078	0.73	0.95	0.0024	要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等								0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
ﾒﾛﾝ	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株* (590 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.034				0.0051		0.0042	0.39	0.51	0.0013	要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類								0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2 g/株* (1700 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.10				0.015		0.012	1.1	1.5	0.0037	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株* (1700 株/10 a)		1100				0.11	0.049				0.0073		0.0060	0.56	0.73	0.0018	
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
とうがらし類	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株* (2080 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.12				0.018		0.015	1.4	1.8	0.0045	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株* (2080 株/10 a)		1100				0.11	0.060				0.0089		0.0074	0.69	0.89	0.0022	
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

*被害防止方法として「1.1 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課す

表 27：マグァンプ K 殺虫剤入りの精緻化を実施した適用の RQ（上段：スクリーニング、下段：精緻化）

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10 a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)			推計暴露量/毒性指標			被害 防止 方法
									最大値		平均値		経口			経口			
													成虫		幼虫	成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜	単回	反復					
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	5 g/株* (1700 株/10 a)	定植時	5500	植穴土壌 混和	土壌 処理	PN	0.11	0.049				0.0073		0.0060	0.56	0.73	0.0018	要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	
きゅうり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	5 g/株 (1100 株/10 a)	定植時	5500	植穴土壌 混和	土壌 処理	PN	0.11	0.032				0.0047		0.0039	0.36	0.47	0.0012	不要
									0.10	0.029	0.058	0.014	0.0050	0.0026	0.0038	0.39	0.26	0.0012	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

*被害防止方法として「5.5 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課す

2.2.3 種子処理シナリオ

該当なし

2.3 第 2 段階評価

稲の使用方法「散布、無人航空機による散布及び空中散布」の適用及びいね科牧草の使用方法「散布」の適用について、提出のあった蜂群への影響試験を用いて第 2 段階評価を実施した。

第 2 段階評価では、トンネル内において稲を試験作物として実施したトンネル試験（資料 10*及び 11**）を用いて、ジノテフランが蜂群に及ぼす影響を評価した。

なお、いね科牧草については、リスク管理措置として「150 L/10 a を超えて使用した場合は、開花前に収穫する」を課すことで、提出のあった蜂群への影響試験による第 2 段階評価が可能と判断した。

ミツバチが訪花中の稲にジノテフランを散布し、その後、約 50 日間蜂群を観察した結果、いずれの試験においても試験期間を通じて成虫の死虫数及び蜂群強度（蜂量）に影響は認められなかった。

このことから、稲の使用方法「散布、無人航空機による散布及び空中散布」の適用（投下量：0.025~0.15 kg ai/ha、散布濃度：0.0030~1.25 ai %）及びいね科牧草の使用方法「散布」の適用（投下量：0.30 kg ai/ha、散布濃度：0.010 ai %）について、蜂群への影響は懸念されないとの評価結果となった（表 28-47）。

*投下量：0.15 kg ai/ha、散布濃度：0.075 ai %
**投下量：0.10 kg ai/ha、散布濃度：1.25 ai %

表 28：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、ホクコースタークル顆粒水溶剤及び三井東圧アルバリン顆粒水溶剤の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(資料10)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	ｶﾒﾑｼ類	2000	150	収穫7日前まで	散布	P	0.15	0.010	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
	ｳﾝｶ類等	3000					0.10	0.0067							
いね科牧草*	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300	－	散布	P	0.30	0.010	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)
*被害防止方法として「150 L/10 a を超えて使用した場合は、開花前に収穫する」を課す

表 29：スタークル粉剤 DL、アルバリン粉剤 DL、ホクコースタークル粉剤 DL、三井東圧アルバリン粉剤 DL 及びスタークルトレボン粉剤 DL の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	最大使用量	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量 (kg ai/ha)	粉中有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
							試験条件				試験結果 (上段:資料10、下段:資料11)		
							試験作物	処理方法	有効成分投下量 (kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度 (蜂量)	
稲	3 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	P	0.15	0.50	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
									0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 30：ホクコーラブサイドスタークル粉剤 DL、ビームスタークル粉剤 5DL、スタークル L 粉剤 DL、スタークルメイト L 粉剤 DL、ビームスタークル微粒剤 F 及びブレードスタークル粉剤 DL）の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	最大使用量	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量 (kg ai/ha)	粉中有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
							試験条件				試験結果 (上段:資料10、下段:資料11)		
							試験作物	処理方法	有効成分投下量 (kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度 (蜂量)	
稲	4 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	P	0.14	0.35	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
									0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 31：ビームバシスタークル粉剤 5DL、ワイドナーエース粉剤 DL、日農ビームアプロードスタークル粉剤 5DL、クミアイビームアプロードスタークル粉剤 5DL、ビームモンカットスタークル F 粉剤 5DL、ホクコートップジンスタークル粉剤 DL、アプロードモンカットスタークル F 粉剤 DL、トライスタークル粉剤 DL 及びクミアイトライスタークル粉剤 DL の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	最大使用量	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量 (kg ai/ha)	粉中有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
							試験条件				試験結果 (上段:資料10、下段:資料11)		
							試験作物	処理方法	有効成分投下量 (kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度 (蜂量)	
稲	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	P	0.14	0.35	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
									0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 32：スタークル液剤 10 及びスタークルメイト液剤 10 の稲、いね科牧草の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	ｳﾝｶ類等	30	3	収穫7日前まで	無人航空機による散布	P	0.10	0.33	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
	ｳﾝｶ類等	16	1.6		無人航空機による散布		0.10	0.63							
	ｳﾝｶ類等	1000	150		散布		0.15	0.010							
	ｳﾝｶ類等	300	25		散布		0.083	0.033			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	
	ｳﾝｶ類等	8	0.8		無人航空機による散布		0.10	1.25							
	ｳﾝｶ類等	30	3		空中散布		0.10	0.33							
いね科牧草*	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1000	300	－	散布	P	0.30	0.010	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

*被害防止方法として「150 L/10 a を超えて使用した場合は、開花前に収穫する」を課す

表 33：スタークルエアー50、スタークルメイトエアー50 及びファームスター顆粒水溶剤 50 の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	ｶﾒﾑｼ類等	40	0.8	収穫7日前まで	無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布 空中散布	P	0.10	1.25	稲	散布	0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 34：ホクコーラブサイドスタークルフロアブルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	いもち病等	500	150	収穫7日前まで	散布	P	0.15	0.010	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
		150	25				0.083	0.033							
		4	0.8		無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布 空中散布		0.10	1.25			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 35：トレボンスター粉剤 DL の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用 害虫名	最大 使用量	使用 時期	使用 方法	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	粉中 有効成分 濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害 防止 方法
								試験条件				試験結果(資料11)		
								試験 作物	処理 方法	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液 有効成分 濃度(%)	死虫数	蜂群強度 (蜂量)	
稲	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ等	4 kg/10 a	収穫 7日前 まで	散布	P	0.080	0.20	稲	散布	0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 36：ビームエイトスタークルゾルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	いもち病等	1000	150	収穫7日前まで	散布	P	0.15	0.010	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
		250	25				0.10	0.040			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	
		8	0.8		無人航空機による散布		0.10	1.25							

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 37：トレボンスターフロアブルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用
害虫名</th><th rowspan="3">最小
希釈
倍率
(倍)</th><th rowspan="3">最大
使用
液量
(L/10a)</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th rowspan="3">散布液
有効成分
濃度(%)</th><th colspan="6">ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th colspan="4">試験条件</th><th colspan="2">試験結果
(上段:資料10、下段:資料11)</th></tr>
<tr><th>試験
作物</th><th>処理
方法</th><th>有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th>散布液
有効成分
濃度(%)</th><th>死虫数</th><th>蜂群強度
(蜂量)</th></tr>
<tr><td rowspan="3">稲</td><td>ｶﾒﾑｼ類
等</td><td>1000</td><td>150</td><td rowspan="3">収穫
14日
前
まで</td><td rowspan="2">散布</td><td rowspan="3">P</td><td>0.045</td><td>0.0030</td><td rowspan="3">稲</td><td rowspan="3">散布</td><td rowspan="2">0.15</td><td rowspan="2">0.075</td><td rowspan="2">影響の程度<10 %</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td rowspan="3">不要</td></tr>
<tr><td>ｶﾒﾑｼ類</td><td>300</td><td>25</td><td>0.025</td><td>0.010</td></tr>
<tr><td>ｶﾒﾑｼ類
等</td><td>8</td><td>0.8</td><td>無人航空機
による散布</td><td>0.030</td><td>0.38</td><td>0.10</td><td>1.25</td><td>陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td>陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td></tr>
</table>

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 38：ビームモンセレンスタークル粉剤 5DL 及びサジェスト微粒剤 F の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	最大使用量	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量 (kg ai/ha)	粉中有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
							試験条件				試験結果 (上段:資料10、下段:資料11)		
							試験作物	処理方法	有効成分投下量 (kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度 (蜂量)	
稲	4 kg/10 a	収穫21日前まで	散布	P	0.14	0.35	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
									0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 39：ダブルカットスタークル粉剤 DL、ダブルカットバリダスタークル粉剤 3DL 及びイッカツエース粉剤 DL の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	最大使用量	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量 (kg ai/ha)	粉中有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
							試験条件				試験結果 (上段:資料10、下段:資料11)		
							試験作物	処理方法	有効成分投下量 (kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度 (蜂量)	
稲	4 kg/10 a	穂揃期まで	散布	P	0.14	0.35	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
									0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 40：クミアイアプロードスタークルゾル及びアプロードスタークルゾルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	ｳﾝｶ類等	1000	150	収穫7日前まで	散布	P	0.14	0.0090	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
		8	0.8		無人航空機による散布		0.090	1.1			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 41：ホクコートップジンスタークルフロアブルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用
害虫名</th><th rowspan="3">最小
希釈
倍率
(倍)</th><th rowspan="3">最大
使用
液量
(L/10a)</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th rowspan="3">散布液
有効成分
濃度(%)</th><th colspan="6">ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th colspan="4">試験条件</th><th colspan="2">試験結果
(上段:資料10、下段:資料11)</th></tr>
<tr><th>試験
作物</th><th>処理
方法</th><th>有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th>散布液
有効成分
濃度(%)</th><th>死虫数</th><th>蜂群強度
(蜂量)</th></tr>
<tr><td rowspan="4">稲</td><td rowspan="4">いもち
病等</td><td>500</td><td>150</td><td rowspan="4">収穫
14日
前
まで</td><td rowspan="2">散布</td><td rowspan="4">P</td><td>0.15</td><td>0.010</td><td rowspan="4">稲</td><td rowspan="4">散布</td><td rowspan="2">0.15</td><td rowspan="2">0.075</td><td rowspan="2">影響の程度<10 %</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td rowspan="4">不要</td></tr>
<tr><td>150</td><td>25</td><td>0.083</td><td>0.033</td></tr>
<tr><td>4</td><td>0.8</td><td>無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布</td><td>0.10</td><td>1.25</td><td rowspan="2">0.10</td><td rowspan="2">1.25</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td></tr>
<tr><td>15</td><td>3</td><td>空中散布</td><td>0.10</td><td>0.33</td></tr>
</table>

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 42：ダブルカットスタークルフロアブルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用
害虫名</th><th rowspan="3">最小
希釈
倍率
(倍)</th><th rowspan="3">最大
使用
液量
(L/10a)</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th rowspan="3">散布液
有効成分
濃度(%)</th><th colspan="6">ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th colspan="4">試験条件</th><th colspan="2">試験結果
(上段:資料10、下段:資料11)</th></tr>
<tr><th>試験
作物</th><th>処理
方法</th><th>有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th>散布液
有効成分
濃度(%)</th><th>死虫数</th><th>蜂群強度
(蜂量)</th></tr>
<tr><td rowspan="4">稲</td><td rowspan="4">いもち
病等</td><td>1000</td><td>150</td><td rowspan="4">穂揃
期
まで</td><td rowspan="2">散布</td><td rowspan="4">P</td><td>0.15</td><td>0.010</td><td rowspan="4">稲</td><td rowspan="4">散布</td><td rowspan="2">0.15</td><td rowspan="2">0.075</td><td rowspan="2">影響の程度<10 %</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td rowspan="4">不要</td></tr>
<tr><td>300</td><td>25</td><td>0.083</td><td>0.033</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8</td><td rowspan="2">0.8</td><td>無人航空機
による散布</td><td rowspan="2">0.10</td><td rowspan="2">1.25</td><td rowspan="2">0.10</td><td rowspan="2">1.25</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td></tr>
<tr><td>空中散布</td></tr>
</table>

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 43：ホクコートップジンスタークルフロアブルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	いもち病等	500	150	収穫14日前まで	散布	P	0.15	0.010	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
		150	25				0.083	0.033							
		4	0.8		無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布		0.10	1.25			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	
		15	3		空中散布		0.10	0.33							
		4	0.8		空中散布		0.10	1.25							

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 44：スタートレボン W10 の稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	いもち病等	1000	150	収穫14日前まで	散布	P	0.15	0.010	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
		8	0.8		無人航空機による散布		0.10	1.25			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 45：ブレードスタークルゾルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用
害虫名</th><th rowspan="3">最小
希釈
倍率
(倍)</th><th rowspan="3">最大
使用
液量
(L/10a)</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th rowspan="3">散布液
有効成分
濃度(%)</th><th colspan="6">ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th colspan="4">試験条件</th><th colspan="2">試験結果
(上段:資料10、下段:資料11)</th></tr>
<tr><th>試験
作物</th><th>処理
方法</th><th>有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th>散布液
有効成分
濃度(%)</th><th>死虫数</th><th>蜂群強度
(蜂量)</th></tr>
<tr><td rowspan="3">稲</td><td rowspan="3">いもち
病等</td><td>1000</td><td>150</td><td rowspan="3">収穫
7日前
まで</td><td rowspan="2">散布</td><td rowspan="3">P</td><td>0.15</td><td>0.010</td><td rowspan="3">稲</td><td rowspan="3">散布</td><td rowspan="2">0.15</td><td rowspan="2">0.075</td><td rowspan="2">影響の程度<10 %</td><td rowspan="2">陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td rowspan="3">不要</td></tr>
<tr><td>300</td><td>25</td><td>0.083</td><td>0.033</td></tr>
<tr><td>8</td><td>0.8</td><td>無人航空機
による散布</td><td>0.10</td><td>1.25</td><td>0.10</td><td>1.25</td><td>陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td><td>陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし</td></tr>
</table>

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 46：オーケストラスタークルエアーの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ等	1000	150	収穫7日前まで	散布	P	0.14	0.0090	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
		250	25				0.090	0.036							
		16	1.6		無人航空機による散布		0.090	0.56			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	
		8	0.8				0.090	1.1							

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

表 47：ブレードスタークルＲゾルの稲の適用の有効成分投下量及び散布液中有効成分濃度とトンネル試験の試験条件の比較

作物名	適用害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量(L/10a)	使用時期	使用方法	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	ﾄﾝﾈﾙ試験の試験条件及び試験結果						被害防止方法
									試験条件				試験結果(上段:資料10、下段:資料11)		
									試験作物	処理方法	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液有効成分濃度(%)	死虫数	蜂群強度(蜂量)	
稲	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ等	1000	150	収穫7日前まで	散布	P	0.14	0.0090	稲	散布	0.15	0.075	影響の程度<10 %	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	不要
		300	25				0.075	0.030							
		8	0.8		無人航空機による散布		0.090	1.1			0.10	1.25	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	陰性対照区と処理区の間に統計的な有意な差なし	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

V．リスク評価結果（まとめ）

ジノテフランについて、評価資料を用いて農薬蜜蜂影響評価を実施した。

ミツバチ個体に対する毒性評価では、申請者より提出された試験成績に報告のある半数致死量（LD_{50} または LDD_{50}）をもとにジノテフランのミツバチへの影響評価に用いる各種毒性指標値を以下のとおり定めた。

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD_{50} (µg ai/bee)	0.062
	単回経口毒性		0.013
	反復経口毒性	10 d LDD_{50} (µg ai/bee/day)	0.010
幼虫	経口毒性	72 h LD_{50} (µg ai/bee)	3.3

ジノテフランのミツバチへの影響評価では、ジノテフランを有効成分として含有する各種農薬製剤の適用（作物と使用方法の組み合わせ）をミツバチがジノテフランに「(1) 明らかに暴露しない適用」及び「(2) 暴露する可能性がある適用」に分類し、それぞれ検討した。

(1) 明らかに暴露しない適用（IV.1.）

一度に広範囲かつ多量に使用されることがない製剤の場合や、適用作物が「開花前に収穫する作物」、「栽培期間中に開花しない作物」である場合には、明らかにミツバチが暴露しないと想定されるため、蜂群への影響は懸念されないと評価した。

以下にミツバチが暴露しないと想定される適用の例を示す。

一度に広範囲かつ多量に使用されることがない製剤の例：スプレー剤
開花前に収穫する作物の例：キャベツ、はくさい、レタス等
栽培期間中に開花しない作物の例：かんしょ、茶等

(2) 暴露する可能性がある適用（IV.2.）

ア リスク管理措置を課すことで暴露しないと評価した適用（IV.2.1.1）

ミツバチがジノテフランに暴露する可能性がある使用方法や作物であっても、使用場所や使用時期を制限する、または、開花を管理する等のリスク管理措置（被害防止方法）を課す適用については、ミツバチがジノテフランに暴露しないと想定されることから、蜂群への影響は懸念されないと評価した。

以下にミツバチがジノテフランに暴露しないためのリスク管理措置（被害防止方法）を課す適用の例を示す。

使用場所を制限する例：きく、きゅうり（花）等の散布による使用におい

て「閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課す

使用時期を制限する例：なし、りんご等の果樹への散布による使用において「発芽（萌芽）~落花（開花終了）までを除く期間の使用に限る」を課す

開花を管理する例　　：かんきつ（苗木）の株元散布等による使用において「開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する」を課す

イ 暴露しないとはみなせないため暴露量の推計を行った適用（Ⅳ.2.1.2 及びⅣ.2.2）

ミツバチがジノテフランに暴露する可能性がある使用方法や作物のうち、リスク管理措置を課すことで暴露しないと評価した適用（IV.2.1.1）以外については、第 1 段階評価を実施した。

なお、第 1 段階評価は、定めた毒性指標値をもとに、ミツバチの死亡率が蜂群への影響が懸念される水準である 10％（自然死亡率）超とならないかを評価するものである。ミツバチの推計暴露量の半数致死量に対する比率、RQ（リスク比）の概念を導入し、RQ が 0.4 を超えない場合には、農薬への暴露によるミツバチの死亡率は 10％を超えず、蜂群への影響は懸念されないと評価した。

暴露量の推計に当たっては、使用方法等により、各適用を 2 つのシナリオ（茎葉散布シナリオまたは土壌処理シナリオ）のいずれかに分類した。

・茎葉散布シナリオ

第 1 段階評価の結果、わさびの使用時期「畑育苗期」、使用方法「散布」の適用において、成虫単回経口暴露、成虫反復経口暴露及び幼虫経口暴露の RQ が 0.4 を超えたことから、提出のあった花粉・花蜜残留試験を用いて精緻化を行った結果、RQ が 0.4 以下となった。

また、稲の使用方法「散布、無人航空機による散布及び空中散布」の適用等において、成虫単回接触暴露、成虫単回経口暴露または成虫反復経口暴露のいずれかの RQ が 0.4 を超えたため、提出のあった蜂群への影響試験を用いて第 2 段階評価を実施した。

第 2 段階評価を行った結果、稲の適用について成虫の死亡数及び蜂群強度（蜂量）に影響は認められなかったことから、蜂群への影響は懸念されないと評価した。いね科牧草については、使用量を制限するリスク管理措置（被害防止方法）を課すことで蜂群への影響は懸念されないとの評価結果となった。

・土壌処理シナリオ

第 1 段階評価（スクリーニング）の結果、稲（箱育苗）、トマト、なす等の

適用について、RQ が 0.4 を超えないことを確認した。

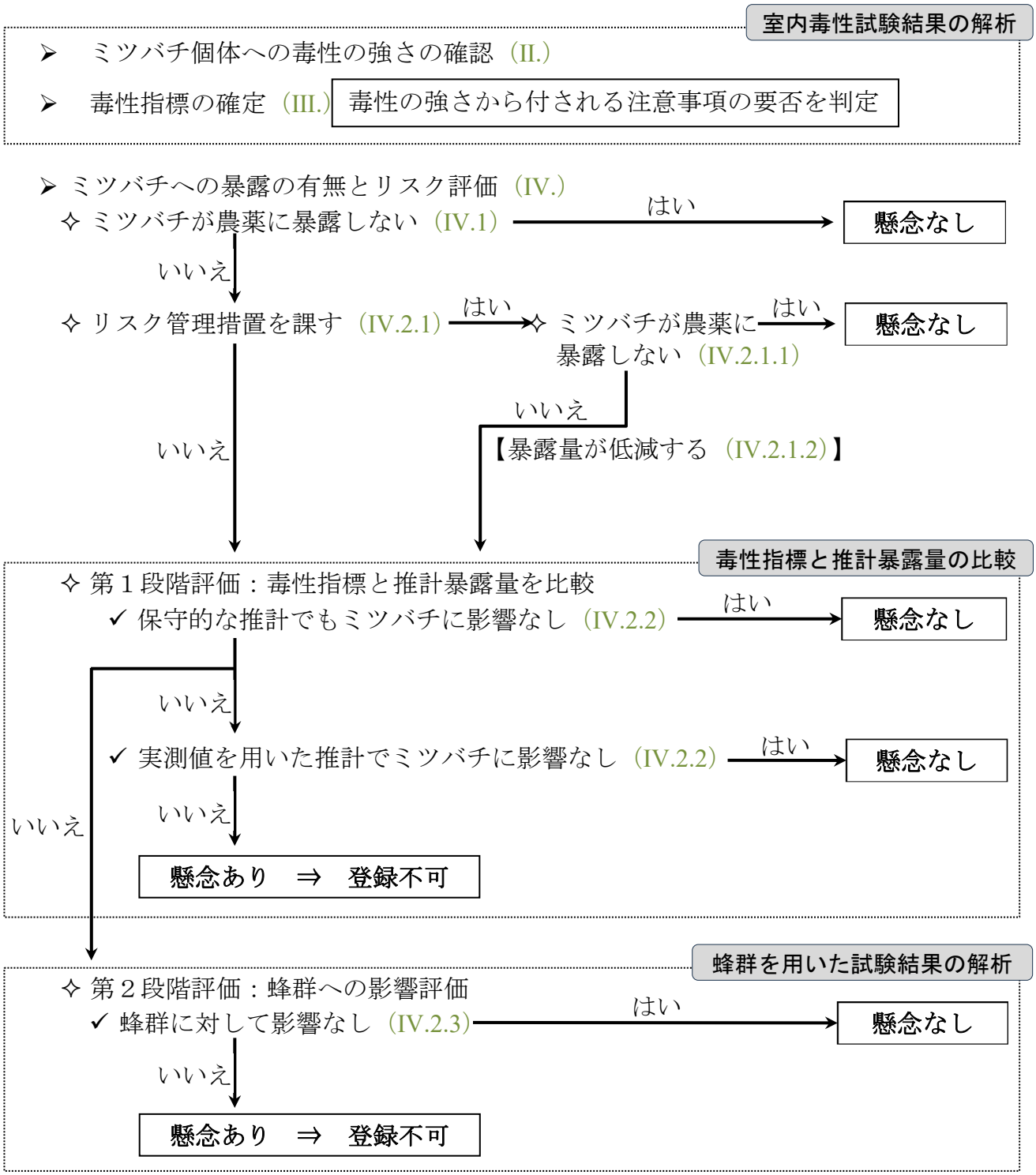
その他の適用においては、成虫単回経口暴露または成虫反復経口暴露のいずれかの RQ が 0.4 を超えたため、提出のあった花粉・花蜜残留試験を用いて精緻化を行った。その結果、ピーマンやとうがらし類等では使用量を制限するリスク管理措置（被害防止方法）を課す必要があるものの、すべての適用で RQ が 0.4 以下となった。

以上の結果、ジノテフランは、申請された使用方法やリスク管理措置（被害防止方法）に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

（参考）

農薬蜜蜂影響評価部会における審議の進め方

（括弧内はジノテフランの評価における項目番号）



評価資料

資料番号	報告年	題名、出典 (試験施設以外の場合) 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況 (必要な場合)、公表の有無
1	1999	MTI-446原体のミツバチに対する急性接触毒性試験 社団法人日本植物防疫協会研究所 試験番号：ETC-99-035、報告書番号：DET46 未公表
2	1999	MTI-446原体のミツバチに対する急性経口毒性試験 社団法人日本植物防疫協会研究所 試験番号：ETC-99-034、報告書番号：DET47 未公表
3	2000	ACUTE CONTACT AND ORAL TOXICITY OF MTI-446, ACTIVE TO HONEY BEES LANDIS INTERNATIONAL, INC. Report No.:41421F001、報告書番号：DET30 GLP、未公表
4	2015	Dinotefuran Technical: Assessment of Effects on the Adult Honey Bee, *Apis mellifera* L., in a 10 Day Chronic Feeding Test under Laboratory Conditions Eurofins Agroscience Services, Inc. Report No.:S15-05258-L1、報告書番号：DET31 GLP、未公表
5	2015	DINOTEFURAN: AN ACUTE LARVAL TOXICITY STUDY WITH THE HONEY BEE (*Apis mellifera*) WILDLIFE INTERNATIONAL Report No.:236P-103D、報告書番号：DET32 GLP、未公表
6	2020	水稲における花粉中農薬残留量測定試験（ジノテフラン） 株式会社エスコ 試験番号：E19-003-001、報告書番号：DET35 未公表
7	2021	アトラクトン箱粒剤　水稲花粉残留試験 一般社団法人日本植物防疫協会 試験番号：JP2020P802、報告書番号：DET36 GLP、未公表
8	2022	アルバリン粒剤　かぼちゃ　花粉・花蜜残留試験 一般社団法人日本植物防疫協会 試験番号：JP2021P804、報告書番号：DET37 GLP、未公表
9	2022	アルバリン顆粒水溶剤　かぼちゃ　花粉・花蜜残留試験 一般社団法人日本植物防疫協会 試験番号：JP2021P805、報告書番号：DET38 GLP、未公表
10	2020	Assessments of Side-Effects of Dinotefuran applied as 12 % GR followed by an Application with the 10 % SL Formulation on Honeybees (*Apis mellifera* L.) in the Semi-Field in Rice in USA in 2019 Eurofins Agroscience Services Ecotox GmbH Report No.:S19-04558、報告書番号：DET33 未公表

資料番号	報告年	題名、出典 (試験施設以外の場合) 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況 (必要な場合)、公表の有無
11	2021	Assessments of Side-Effects of Dinotefuran applied as 12 % GR followed by an Aerial Application with the 10 % SL Formulation on Honeybees (*Apis mellifera* L.) in the Semi-Field in Rice in USA in 2020 Eurofins Agroscience Services Ecotox GmbH Report No.:S20-03340、報告書番号：DET34 未公表
12	2000	MTI-446 Product Chemistry Ricerca, LCC Report No.:011098-1、報告書番号：DP1 GLP、未公表
13	2001	ADSORPTION/DESORPTION OF ^{14}C -MTI-446 ON SOILS RCC Ltd Report No.:728998、報告書番号：DEF22 GLP、未公表
14	2021	[^{14}C]Dinotefuran: Adsorption Study on Volcanic Ash Soil The Institute of Environmental Toxicology Report No.:IET 20-8002、報告書番号：DEF23 GLP、未公表
15	2022 (2022 修正)	公表文献に関する報告書 有効成分名：ジノテフラン 公表
16	2024	公表文献調査報告書(追補) 有効成分名：ジノテフラン 公表

評価資料（公表文献）

資料番号	文献整理番号	著者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等
17	2	Chen, Z.L.; Yao, X.M.; Dong, F.S.; Duan, H.X.; Shao, X.S.; Chen, X.; Yang, T.; Wang, G.R.; Zheng, Y.Q.	2019	Ecological toxicity reduction of dinotefuran to honeybee: New perspective from an enantiomeric level	Environment International, 130

別添１：適用病害虫の範囲及び使用方法（ジノテフラン）

目　次

１．　登録番号 20805：スタークル粒剤、
登録番号 20806：アルバリン粒剤、
登録番号 20807：ホクコースタークル粒剤、
登録番号 20959：三井東圧アルバリン粒剤、
登録番号 22738：スターガード粒剤
（ジノテフラン 1.0 %粒剤）.....6

２．　登録番号 20808：スタークル箱粒剤、
登録番号 20960：三井東圧アルバリン箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %粒剤）.....15

３．　登録番号 20811：スタークル顆粒水溶剤、
登録番号 20812：アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 20813：ホクコースタークル顆粒水溶剤、
登録番号 20961：三井東圧アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 22130：わさび用緑風 SG
（ジノテフラン 20.0 %水溶剤）.....16

４．　登録番号 20814：スタークル粉剤 DL、
登録番号 20815：アルバリン粉剤 DL、
登録番号 20816：ホクコースタークル粉剤 DL、
登録番号 20962：三井東圧アルバリン粉剤 DL
（ジノテフラン 0.50 %粉剤）.....26

５．　登録番号 20836：スタークルトレボン粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.30 %・ジノテフラン 0.50 %粉剤）.....27

６．　登録番号 21025：ホクコーラブサイドスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フサライド 2.5 %粉剤）.....27

７．　登録番号 21027：ビームスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）.....27

８．　登録番号 21191：ビームバシスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・メプロニル 3.0 %粉剤）.....28

９．　登録番号 21228：側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤
（ジノテフラン 4.0 %・プロベナゾール 48.0 %水和剤）.....28

１０．登録番号 21248：スタークル L 粉剤 DL、
登録番号 21435：スタークルメイト L 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %粉剤）.....28

１１．登録番号 21259：スタークル液剤 10、
登録番号 21260：スタークルメイト液剤 10、
登録番号 24582：アルバリン液剤 10
（ジノテフラン 10.0 %液剤）.....29

１２．登録番号 21276：スタークル１キロ H 粒剤、
登録番号 21277：スタークルメイト１キロ H 粒剤
（ジノテフラン 3.0 %粒剤）.....32

１３．登録番号 21496：ビルダースタークル箱粒剤、
登録番号 21497：ホクコービルダースタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）.....32

１４．登録番号 21607：スタークルエアー50、
登録番号 21608：スタークルメイトエアー50、
登録番号 24012：ファームスター顆粒水溶剤 50
（ジノテフラン 50.0 %水溶剤）.....32

１５．登録番号 21710：ホクコーラブサイドスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0 %・フサライド 12.0 %水和剤）.....33

１６．登録番号 21801：ワイドナーエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）.....33

１７．登録番号 21871：コラトップスタークル１キロ粒剤
（ジノテフラン 5.0 %・ピロキロン 15.0 %粒剤）.....34

１８．登録番号 21886：イモチエーススタークル粒剤、
登録番号 21888：ホクコーイモチエーススタークル粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・メトミノストロビン 4.0 %粒剤）.....34

１９．登録番号 21975：トレボンスター粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.40 %・ジノテフラン 0.20 %粉剤）.....34

２０．登録番号 22036：ビームエイトスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤）.....35

２１．登録番号 22037：トレボンスターフロアブル
（エトフェンプロックス 7.0 %・ジノテフラン 3.0 %水和剤）.....35

２２．登録番号 22063：日農ビームアプロードスタークル粉剤５DL、
登録番号 22064：クミアイビームアプロードスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）.....36

２３．登録番号 22102：ビームモンセレンスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉剤）.....36

２４．登録番号 22180：サジェスト微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉粒剤）.....36

２５．登録番号 22268：ビームモンカットスタークル F 粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）.....37

２６．登録番号 22332：スタークル豆つぶ、
登録番号 22333：クミアイスタークル豆つぶ、
登録番号 22495：スタークルメイト豆つぶ
（ジノテフラン 12.0 %剤）.....37

２７．登録番号 22416：Dr. オリゼスタークル箱粒剤、
登録番号 22417：明治 Dr. オリゼスタークル箱粒剤、登
録番号 23950：オリザエートスター箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 25.0 %粒剤）.....37

２８．登録番号 22426：ビームスタークル微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉粒剤）.....38

２９．登録番号 22479：ダブルカットスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.11 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）.....38

３０．登録番号 22642：ホクコートップジンスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・チオファネートメチル 2.0 %粉剤）.....38

３１．登録番号 22660：MIC ビルダーフェルテラスタークル箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）.....39

３２．登録番号 22661：クミアイアプロードスタークルゾル、
登録番号 22662：アプロードスタークルゾル
（ジノテフラン 9.0 %・ブプロフェジン 18.0 %水和剤）.....39

３３．登録番号 22725：キックオフ顆粒水和剤
（クロラントラニリプロール 4.0 %・ジノテフラン 15.0 %水和剤）.....40

３４．登録番号 22784：アプロードモンカットスタークル F 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）.....41

３５．登録番号 22924：ホクコートップジンスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0 %・チオファネートメチル 20.0 %水和剤）.....42

３６．登録番号 22981：ダブルカットバリダスタークル粉剤３DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン
0.30 %粉剤）.....42

３７．登録番号 22995：ダブルカットスタークルフロアブル
（ジノテフラン 10.0 %・カスガマイシン 1.37 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤）.....43

３８．登録番号 23074：アトラクトン箱粒剤、
登録番号 24075：スターダム箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %粒剤）.....43

３９．登録番号 23076：Dr. オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23077：明治 Dr. オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23078：ロングリーチ箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・プロベナゾール 24.0 %粒剤）.....44

４０．登録番号 23113：イッカツエース粉剤 DL （ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン 0.30 %粉剤）.....44

４１．登録番号 23365：フェルテラスタークル箱粒剤 CU
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %粒剤）.....45

４２．登録番号 23370：スケルカット顆粒水和剤、
登録番号 23371：スケルノック顆粒水和剤
（ジノテフラン 40.0 %水和剤）.....45

４３．登録番号 23372：スターガードプラス AL
（ジノテフラン 0.010 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）.....46

４４．登録番号 23405：トライスタークル粉剤 DL、
登録番号 23407：クミアイトライスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフロキン 1.0 %粉剤）.....48

４５．登録番号 23506：オールスタースプレー
（ジノテフラン 0.010 %液剤）.....49

４６．登録番号 23624：ウッドスター、
登録番号 23676：ウッドセーバー
（ジノテフラン 8.0 %液剤）.....53

４７．登録番号 23685：ハイポネックス原液 殺虫剤入り
（ジノテフラン 2.5 %複合肥料）.....54

４８．登録番号 23705：サンブラススタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・トルプロカルブ 12.0 %粒剤）.....54

４９．登録番号 23706：ガッツスター粒剤、
登録番号 23707：ゴウケツモンスター粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・シメコナゾール 1.5 %・トルプロカルブ 3.0 %粒剤）.....55

５０．登録番号 23708：サントリプル箱粒剤、
登録番号 23840：サンフェスタ箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %・トルプロカルブ 4.0 %粒剤）.....55

５１．登録番号 23833：ハイパーキック箱粒剤、
登録番号 23834：ゴウケツバスター箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・トルプロカルブ 9.0 %粒剤）.....56

５２．登録番号 24316：アースガーデン４
（エトフェンプロックス 0.020 %・ジノテフラン 0.010 %・ミルベメクチン 0.00050 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）.....57

５３．登録番号 24344：スタートレボン W10
（エトフェンプロックス 10.0 %・ジノテフラン 10.0 %乳剤）.....58

５４．登録番号 24346：ブレードスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・フェリムゾン 15.0 %・フサライド 15.0 %水和剤）.....59

５５．登録番号 24347：ブレードスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フェリムゾン 2.0 %・フサライド 1.5 %粉剤）.....59

５６．登録番号 24413：マグァンプ K 殺虫剤入り
（ジノテフラン 0.20 %複合肥料）.....60

５７．登録番号 24530：オーケストラスタークルエアー
（ジノテフラン 9.0 %・ベンズピリモキサン 10.0 %水和剤）.....60

５８．登録番号 24608：ブレードスタークル R ゾル
（ジノテフラン 9.0 %・フェリムゾン 13.5 %・フサライド 13.5 %水和剤）.....61

１．登録番号 20805：スタークル粒剤、
登録番号 20806：アルバリン粒剤、
登録番号 20807：ホクコースタークル粒剤、
登録番号 20959：三井東圧アルバリン粒剤、
登録番号 22738：スターガード粒剤
（ジノテフラン 1.0 %粒剤）

（１）スタークル粒剤、アルバリン粒剤、ホクコースタークル粒剤及び三井東圧アルバリン粒剤

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用
方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>稲</td><td>ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｶﾒﾑｼ類
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ</td><td>3kg/10a</td><td>収穫7 日前
まで</td><td>3 回
以内</td><td>散布</td><td>4 回以内
(育苗箱への処理及び側条施用は合計1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は
合計3 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="6">きゅうり</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類</td><td rowspan="2">2g/株</td><td>育苗期</td><td rowspan="13">1 回</td><td>株元散布</td><td rowspan="5">4 回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1 回
以内、定植後の株元散布は
1 回以内、散布は2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td>1~2g/株</td><td rowspan="2">育苗期</td><td rowspan="3">株元散布</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="2">1g/株</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類
ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>生育期
但し、収穫開始
14 日前まで</td></tr>
<tr><td></td><td>1~2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">植穴土壌混和</td><td></td></tr>
<tr><td>うり類
(漬物用)</td><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>2g/株</td><td></td><td></td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和は1 回以内、散布は2 回以内)</td></tr>
<tr><td></td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td>1~2g/株</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">ﾒﾛﾝ</td><td rowspan="2">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="2">1g/株</td><td>育苗期</td><td>株元散布</td><td rowspan="5">3 回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1 回以内、
散布は2 回以内)</td></tr>
<tr><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td rowspan="2">1~2g/株</td><td>育苗期</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類</td><td rowspan="8">2g/株</td><td>育苗期</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td rowspan="3">すいか</td><td rowspan="3">ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ</td><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td><td rowspan="3">4 回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1 回以内、
定植後の株元散布は1 回以内、
散布は2 回以内</td></tr>
<tr><td>生育期
但し、収穫21
日前まで</td><td rowspan="2">株元散布</td></tr>
<tr><td>育苗期</td></tr>
<tr><td>かぼちゃ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="3">植穴土壌混和</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和及び育苗ﾄﾚｲへの灌注は合計1 回以内、
散布は2 回以内)</td></tr>
<tr><td>にがうり</td><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和は1 回以内、散布は2 回以内)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用
方法</th><th>ジノテフランを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ズッキーニ</td><td>コナジラミ類</td><td rowspan="2">2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="8">1回</td><td>植穴土壌混和</td><td rowspan="2">4回以内
(定植時の土壌混和は1回以内、
定植後の株元散布は
1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td>アブラムシ類</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="6">なす</td><td>ハモグリバエ類</td><td>2g/株</td><td>育苗期</td><td>株元散布</td><td rowspan="6">3回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>ハモグリバエ類
アザミウマ類</td><td rowspan="2">1~2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td>コナジラミ類</td><td rowspan="2">育苗期</td><td rowspan="2">株元散布</td></tr>
<tr><td>アブラムシ類</td><td rowspan="3">1g/株</td></tr>
<tr><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td>コナジラミ類
アブラムシ類</td><td>生育期
但し、収穫前日
まで</td><td>2回以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ピーマン</td><td>アザミウマ類</td><td>1~2g/株</td><td>定植時</td><td>1回</td><td>植穴土壌混和</td><td rowspan="3">3回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アブラムシ類</td><td rowspan="2">1g/株</td><td>生育期
但し、収穫前日
まで</td><td>2回以内</td><td rowspan="2">株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="2">コナジラミ類</td><td>育苗期</td><td rowspan="4">1回</td></tr>
<tr><td rowspan="6">トマト
ミニトマト</td><td>培土1L当り
10g</td><td>は種前</td><td>培土混和</td><td rowspan="6">5回以内
(培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ハモグリバエ類
コナジラミ類</td><td rowspan="2">1~2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td>育苗期</td><td rowspan="3">株元散布</td></tr>
<tr><td>コナジラミ類</td><td rowspan="2">1g/株</td><td>生育期
但し、収穫前日
まで</td><td>2回以内</td></tr>
<tr><td>アブラムシ類</td><td>定植時</td><td rowspan="5">1回</td><td>植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td rowspan="3">とうがらし類</td><td>アザミウマ類</td><td>1~2g/株</td><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td><td rowspan="3">4回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">アブラムシ類</td><td rowspan="4">1g/株</td><td>生育期
但し、収穫開始
14日前まで</td><td rowspan="2">株元散布</td></tr>
<tr><td>コナジラミ類</td><td>育苗期</td></tr>
<tr><td>とうがらし(葉)</td><td>アザミウマ類
アブラムシ類</td><td>定植時
但し、収穫30
日前まで</td><td>植穴土壌混和</td><td>3回以内
(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用
方法</th><th>ジノテフランを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">キャベツ</td><td>アブラムシ類</td><td>2g/株</td><td>育苗期</td><td rowspan="9">1回</td><td>株元散布</td><td rowspan="3">3回以内
(育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>アオムシ
コナガ</td><td>2~3g/株</td><td rowspan="8">定植時</td><td rowspan="8">植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td>ハイマダラノメイガ</td><td>3g/株</td></tr>
<tr><td rowspan="3">はくさい</td><td>アブラムシ類</td><td>2g/株</td><td rowspan="3">3回以内(定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>アオムシ
コナガ</td><td>2~3g/株</td></tr>
<tr><td>ハイマダラノメイガ</td><td>3g/株</td></tr>
<tr><td>ブロッコリー</td><td>アブラムシ類
コナガ</td><td>2g/株</td><td>3回以内
(定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ねぎ</td><td rowspan="3">アザミウマ類
ハモグリバエ類</td><td rowspan="3">6kg/10a</td><td>は種時</td><td>播溝土壌混和</td><td rowspan="4">4回以内
(は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>定植時</td><td rowspan="4">株元散布</td></tr>
<tr><td>アザミウマ類
クロバネキノコバエ類</td><td rowspan="2">生育期
但し、収穫3日前まで</td><td>2回以内</td></tr>
<tr><td>ハモグリバエ類</td><td>6~9kg/10a</td><td>4回以内
(定植後の株元散布は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td>わけぎ</td><td>アザミウマ類
ハモグリバエ類</td><td rowspan="2">6kg/10a</td><td>生育期
但し、収穫21日前まで</td><td>1回</td></tr>
<tr><td>らっきょう</td><td>アザミウマ類
ハモグリバエ類</td><td>生育期
但し、収穫前日まで</td><td>3回以内</td><td>散布</td><td>3回以内</td></tr>
<tr><td>にんじん</td><td>ハモグリバエ類</td><td>9kg/10a</td><td>は種時</td><td>1回</td><td>播溝土壌混和</td><td>4回以内
(は種時の土壌混和は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td>セルリー</td><td>アブラムシ類</td><td>2g/株</td><td>定植時</td><td>1回</td><td>植穴土壌混和</td><td>3回以内
(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用
方法</th><th>ジノテフランを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">だいこん</td><td>アブラムシ類</td><td>6kg/10a</td><td rowspan="3">は種時</td><td rowspan="8">1回</td><td rowspan="2">播溝土壌混和</td><td rowspan="4">5回以内
(は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">キスジノミハムシ</td><td>4~6kg/10a</td></tr>
<tr><td>9~12kg/10a</td><td>全面土壌混和</td></tr>
<tr><td>6kg/10a</td><td>生育期
但し、
収穫30日前まで</td><td>散布</td></tr>
<tr><td>ダイコンバエ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">チンゲンサイ</td><td rowspan="2">キスジノミハムシ</td><td rowspan="5">6kg/10a</td><td>定植時</td><td>土壌混和</td><td rowspan="2">3回以内
(は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">は種時</td><td rowspan="4">播溝土壌混和</td></tr>
<tr><td>非結球あぶらな科葉菜類
(チンゲンサイを除く)</td><td rowspan="3">アブラムシ類
キスジノミハムシ</td><td rowspan="3">3回以内
(は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td>かぶ</td></tr>
<tr><td>ほうれんそう</td><td>アブラムシ類</td></tr>
<tr><td rowspan="3">レタス
非結球レタス</td><td rowspan="2">ナモグリバエ</td><td>培土1L当り
15g</td><td>は種前</td><td>培土混和</td><td rowspan="3">4回以内(は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>1g/株</td><td>育苗期後半</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td>アブラムシ類
ナモグリバエ</td><td>2g/株</td><td>定植時</td><td>植穴土壌混和</td></tr>
<tr><td rowspan="2">しゅんぎく</td><td rowspan="2">ハモグリバエ類</td><td rowspan="2">9kg/10a</td><td>は種時</td><td>播溝土壌混和</td><td rowspan="2">3回以内
(は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">定植時</td><td>植溝土壌混和</td></tr>
<tr><td>いちご</td><td>ワタアブラムシ</td><td>0.5~1g/株</td><td>植穴土壌混和</td><td>1回</td></tr>
<tr><td>かんきつ
(苗木)</td><td>ミカンハモグリガ</td><td>20g/株</td><td>育苗期</td><td>5回以内</td><td>株元散布</td><td>5回以内</td></tr>
<tr><td>なし
(苗木)</td><td>アブラムシ類</td><td>20g/株
(但し、10a当り110kgまで)</td><td>育苗期</td><td>1回</td><td>株元散布</td><td>1回</td></tr>
<tr><td>くわい</td><td rowspan="2">アブラムシ類</td><td>3kg/10a</td><td>収穫30日前まで</td><td>3回以内</td><td>散布</td><td>3回以内</td></tr>
<tr><td>ふき</td><td>20kg/10a</td><td>定植後～
生育期
(草丈20cm頃まで)
但し、収穫45日前まで</td><td>1回</td><td>土壌表面散布</td><td>3回以内
(土壌表面散布は1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
</table>

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
しょうが	ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
ｵｸﾗ さやいんげん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		生育期 但し、収穫開始14日前まで			
さやえんどう 実えんどう	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類					
だいず えだまめ	ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ	6kg/10a	は種時		播溝土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内)
さとうきび	ｶﾝｼｬｺﾊﾞﾈｶﾞｶﾒﾑｼ	6~9kg/10a	生育期 但し、 収穫45日前まで	2回以内	散布	5回以内 (粒剤は2回以内、液剤、水溶剤及び水和剤は合計3回以内)
	ﾒｲﾁｭｳ類	9kg/10a				
葉ごぼう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	6kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和	2回以内 (は種時の全面土壌混和は1回以内、生育期の株元散布は1回以内)
			生育期 但し、収穫21日前まで		株元散布	
しそ	ﾏﾃﾞｲﾗｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ	2g/株 (但し、10a当り25kgまで)	定植時		植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
食用ぎく	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1g/株 (但し、10a当り30kgまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
		20kg/10a	生育期 但し、収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布及び株元散布は合計3回以内)
	ﾏﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	2g/株 (但し、10a当り30kgまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
茶	ｸﾜｼﾛｶｲｶﾞﾗﾑｼ	12kg/10a	摘採7日前まで	2回以内	株元土壌混和	2回以内
きく ｶﾞｰﾍﾞﾗ	ﾏﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	2g/株 (但し、10a当り30kgまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	5回以内 (土壌混和は1回以内)
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1g/株 (但し、10a当り30kgまで)				
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	20kg/10a	生育期	5回以内	株元散布	
花き類・観葉植物 (きく、ｶﾞｰﾍﾞﾗを除く)	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1g/株 (但し、10a当り30kgまで)	定植時	1回	植穴土壌混和	5回以内 (土壌混和は1回以内)
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	20kg/10a	生育期	5回以内	株元散布	
つつじ類	ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ	6kg/10a	発生初期			5回以内
いぐさ	ｲｸﾞｻｼﾝﾑｼｶﾞ	3~4kg/10a		2回以内	散布	2回以内

（２）スターガード粒剤

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">きゅうり</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>2 g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="9">1 回</td><td rowspan="2">植穴
土壌混和</td><td rowspan="3">4 回以内
(育苗期の株元散布及び
定植時の土壌混和は
合計 1 回以内、定植後の
株元散布は 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td>1~2 g/株</td></tr>
<tr><td>1 g/株</td><td>生育期
但し、
収穫開始 14
日前まで</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ﾒﾛﾝ</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>2 g/株</td><td rowspan="3">定植時</td><td rowspan="3">植穴
土壌混和</td><td rowspan="3">3 回以内
(育苗期の株元散布及び
定植時の土壌混和は
合計 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>1 g/株</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td>1~2 g/株</td></tr>
<tr><td rowspan="2">すいか</td><td rowspan="2">ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ</td><td rowspan="2">2 g/株</td><td></td><td></td><td rowspan="2">4 回以内
(育苗期の株元散布及び
定植時の土壌混和は
合計 1 回以内、定植後の
株元散布は 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>生育期
但し、収穫
21 日前まで</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td>かぼちゃ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td>2 g/株</td><td>定植時</td><td rowspan="3">1 回</td><td rowspan="3">植穴
土壌混和</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和及び
育苗ﾄﾚｲへの灌注は
合計 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">なす</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>1~2 g/株</td><td>定植時</td><td rowspan="3">3 回以内
(育苗期の株元散布及び
定植時の土壌混和は
合計 1 回以内、散布及び
定植後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td rowspan="2">1 g/株</td><td>生育期
但し、
収穫前日まで</td><td>2 回
以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="3">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴
土壌混和</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ﾄﾏﾄ
ﾐﾆﾄﾏﾄ</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類</td><td>1~2 g/株</td><td rowspan="3">5 回以内
(培土混和及び灌注は
合計 1 回以内、育苗期の
株元散布は 1 回以内、
定植時の土壌混和は
1 回以内、散布及び定植
後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td rowspan="2">1 g/株</td><td>生育期
但し、
収穫前日まで</td><td>2 回
以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>定植時</td><td>1 回</td><td>植穴
土壌混和</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ﾋﾟｰﾏﾝ</td><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>1~2 g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴
土壌混和</td><td rowspan="2">3 回以内
(育苗期の株元散布及び
定植時の土壌混和は
合計 1 回以内、散布及び
定植後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>1 g/株</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>生育期
但し、
収穫前日まで</td><td>2 回
以内</td><td>株元散布</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">とうがらし
類</td><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>1~2 g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴
土壌混和</td><td rowspan="2">4 回以内
(育苗期の株元散布及び
定植時の土壌混和は
合計 1 回以内、定植後の
株元散布は 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>1 g/株</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>生育期
但し、
収穫開始 14
日前まで</td><td></td><td>株元散布</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">ｷｬﾍﾞﾂ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>2 g/株</td><td rowspan="3">定植時</td><td rowspan="9">1 回</td><td rowspan="6">植穴
土壌混和</td><td rowspan="3">3 回以内
(育苗期の株元散布、定
植時の土壌混和及び
灌注は合計 1 回以内、
散布及び無人航空機
散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱｵﾑｼ
ｺﾅｶﾞ</td><td>2~3 g/株</td></tr>
<tr><td>ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ</td><td>3 g/株</td></tr>
<tr><td rowspan="3">はくさい</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>2 g/株</td><td rowspan="6">定植時</td><td rowspan="3">3 回以内
(定植時の土壌混和及び
灌注は合計 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱｵﾑｼ
ｺﾅｶﾞ</td><td>2~3 g/株</td></tr>
<tr><td>ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ</td><td>3 g/株</td></tr>
<tr><td>ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｶﾞ</td><td>2 g/株</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和及び
灌注は合計 1 回以内、
散布及び無人航空機散
布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ねぎ</td><td rowspan="2">ｱｻﾞﾐｳﾏ類
ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類</td><td rowspan="2">6 g/m^2</td><td rowspan="2">株元散布</td><td rowspan="2">4 回以内
(は種時の土壌混和、
育苗ﾄﾚｲへの灌注及び定
植時の株元散布は合計
1 回以内、生育期の株元
灌注は 1 回以内、散布、
無人航空機散布及び定
植後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>生育期
但し、
収穫 3 日前
まで</td><td>2 回以
内</td></tr>
<tr><td>にんじん</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類</td><td>9 g/m^2</td><td>は種時</td><td>1 回</td><td>播溝
土壌混和</td><td>4 回以内
(は種時の土壌混和は
1 回以内、生育期の株元
灌注は 1 回以内、散布は
2 回以内)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">だいこん</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>6 g/m^2</td><td rowspan="3">は種時</td><td rowspan="4">1 回</td><td rowspan="2">播溝
土壌混和</td><td rowspan="4">5 回以内
(は種時の播溝土壌混和は 1 回以内、
は種時の全面土壌混和は 1 回以内、
粒剤の散布は 1 回以内、
水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ</td><td>4~6 g/m^2</td></tr>
<tr><td>9 g/m^2</td><td>全面
土壌混和</td></tr>
<tr><td>6 g/m^2</td><td>生育期
但し、
収穫 30 日前
まで</td><td>散布</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ</td><td>ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ</td><td rowspan="6">6 g/m^2</td><td>定植時</td><td rowspan="8">1 回</td><td>土壌混和</td><td rowspan="2">3 回以内
(は種時及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ</td><td rowspan="6">は種時</td><td rowspan="6">播溝
土壌混和</td></tr>
<tr><td>非結球あぶらな科葉菜類
(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲを除く)</td><td rowspan="2">3 回以内
(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>かぶ</td></tr>
<tr><td>ほうれんそう</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td></tr>
<tr><td>だいず
えだまめ</td><td>ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ</td><td>3 回以内
(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>しゅんぎく</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類</td><td>9 g/m^2</td><td rowspan="3">定植時</td><td rowspan="2">植溝
土壌混和</td><td rowspan="2">3 回以内
(は種時及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>いちご</td><td>ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ</td><td>0.5~1 g/株</td><td>植穴
土壌混和</td><td>1 回</td></tr>
<tr><td>ｵｸﾗ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="2">9 g/m^2</td><td rowspan="2">生育期
但し、
収穫開始 14 日前まで</td><td rowspan="2">株元散布</td><td rowspan="2">3 回以内
(株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>さやえんどう</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>ﾚﾀｽ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ﾅﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ</td><td>2 g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴
土壌混和</td><td>4 回以内
(は種前の培土混和は
1 回以内、
育苗期の株元散布、
定植時の土壌混和及び
育苗ﾄﾚｲへの灌注は
合計 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>しそ</td><td>ﾏﾃﾞｲﾗｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ</td><td>2 g/株
(但し、1 m^2 当り 25 g まで)</td><td>3 回以内
定植時の土壌混和は
1 回以内、散布は
2 回以内）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">きく
ｶﾞｰﾍﾞﾗ</td><td>ﾏﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ</td><td>2g/株
(但し､1 m^2 当り 30 g まで)</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴
土壌混和</td><td rowspan="5">5 回以内
(土壌混和は 1 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類
ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>1 g/株
(但し､1 m^2 当り 30 g まで)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">花き類･
観葉植物
(きく､ｶﾞｰﾍﾞﾗを除く)</td><td rowspan="2">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>20 g/m^2</td><td>生育期</td><td>5 回以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td>1 g/株
(但し､1 m^2 当り 30 g まで)</td><td>定植時</td><td>1 回</td><td>植穴
土壌混和</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>つつじ類</td><td>ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ</td><td>6 g/m^2</td><td>発生初期</td><td>5 回以内</td><td>株元散布</td><td>5 回以内</td></tr>
</table>

２．登録番号 **20808**：スタークル箱粒剤、
登録番号 **20960**：三井東圧アルバリン箱粒剤
（ジノテフラン **2.0** ％粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを
含む農薬の
総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">稲
(箱育苗)</td><td rowspan="2">ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｲﾈｸﾛｶﾒﾑｼ</td><td rowspan="3">育苗箱
(30×60×3 cm、
使用土壌約 5 L)
1 箱当り 50 g</td><td>は種前</td><td rowspan="3">1 回</td><td>育苗箱の
床土又は覆
土に均一に
混和する。</td><td rowspan="3">4 回以内
(育苗箱への
処理及び側条
施用は合計
1 回以内、本
田での散布、
空中散布、
無人ﾍﾘ散布は
合計 3 回以内)</td></tr>
<tr><td>は種時覆土前
～
移植当日</td><td rowspan="2">育苗箱の上
から均一に
散布する。</td></tr>
<tr><td>ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ</td><td>移植 3 日前
～
移植当日</td></tr>
</table>

３．登録番号 **20811**：スタークル顆粒水溶剤、
登録番号 **20812**：アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 **20813**：ホクコースタークル顆粒水溶剤、
登録番号 **20961**：三井東圧アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 **22130**：わさび用緑風 **SG**
（ジノテフラン **20.0 %**水溶剤）

（１）スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、ホクコースタークル顆粒水溶剤及び三井東圧アルバリン顆粒水溶剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	—	カメムシ類	2000 倍	60~150 L/10 a	収穫7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000 倍					
未成熟とうもろこし		アブラムシ類 カメムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで			3 回以内
とうもろこし (子実)		ムギクビレアブラムシ カメムシ類						
ピーマン		アブラムシ類	3000 倍			2 回以内		3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
		コナジラミ類	2000~3000 倍					
		アザミウマ類 カメムシ類	2000 倍					
トマト ミニトマト		コナジラミ類	100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (30×60 cm・使用土壌約 1.5~4.0 L)当り 0.5 L	鉢上時又は定植時	1 回	灌注	5 回以内 (培土混和及び灌注は合計 1 回以内、育苗期の株元散布は 1 回以内、定植時の土壌混和は 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
			2000~3000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	
		カメムシ類	2000 倍					
なす		コナジラミ類	2000~3000 倍					3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
		アブラムシ類	3000 倍					
		アザミウマ類 カメムシ類	2000 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
とうがらし類	—	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
		ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000~3000 倍					
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ﾅｽﾐﾊﾞｴ	2000 倍					
とうがらし (葉)		ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000~3000 倍		収穫 14 日前まで			3 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000 倍					
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000 倍					
かぼちゃ		ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000 倍		収穫前日まで			3 回以内 (定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊(30×60 cm・使用土壌約 1.5~4.0 L)当り 0.5 L	定植前日~定植時	1 回	灌注	
きゅうり		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000~3000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｳﾘﾊﾑｼ ｶﾒﾑｼ類	2000 倍					
すいか		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000~3000 倍		収穫 7 日前まで			4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用場所</th><th>適用病害虫名</th><th>希釈
倍数</th><th>使用液量</th><th>使用
時期</th><th>本剤の
使用
回数</th><th>使用
方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを
含む農薬の
総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ﾒﾛﾝ</td><td rowspan="12">－</td><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td>2000~3000倍</td><td rowspan="12">100~300
L/10a</td><td rowspan="3">収穫3日
前まで</td><td rowspan="12">2回
以内</td><td rowspan="12">散布</td><td rowspan="3">3回以内
(育苗期の株元散布及び
定植時の土壌混和は
合計1回以内、
散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>3000倍</td></tr>
<tr><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td rowspan="2">2000倍</td></tr>
<tr><td rowspan="2">うり類
(漬物用)</td><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td rowspan="3">収穫
前日
まで</td><td rowspan="2">3回以内
(定植時の土壌混和は
1回以内、散布は
2回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>2000~
3000倍</td></tr>
<tr><td>にがうり</td><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td rowspan="2">2000倍</td><td rowspan="2">4回以内
(定植時の土壌混和は1回
以内、定植後の株元散布
は1回以内、
散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td>ｽﾞｯｷｰﾆ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td></tr>
<tr><td>まくわうり</td><td rowspan="3">3000倍</td><td>収穫3日
前まで</td><td rowspan="3">2回以内</td></tr>
<tr><td>きゅうり(葉)</td><td rowspan="2">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td rowspan="2">収穫
前日
まで</td></tr>
<tr><td>きゅうり(花)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>2000~
3000倍</td><td>収穫3日
前まで</td><td rowspan="2">3回以内
(定植時の土壌
混和及び灌注は
合計1回以内、
散布及び無人航空機散
布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｶﾞ</td><td>100倍</td><td>ｾﾙ成型育苗
ﾄﾚｲ1箱
または
ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊
(30×60
cm・
使用土壌
約1.5~4.0L)当り
0.5L</td><td>定植時</td><td>1回</td><td>灌注</td></tr>
<tr><td rowspan="2">はくさい</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>2000~
3000倍</td><td rowspan="2">100~300
L/10a</td><td rowspan="2">収穫3日
前まで</td><td rowspan="2">2回
以内</td><td rowspan="2">散布</td><td rowspan="2">3回以内
(定植時の土壌混和
及び灌注は合計1回
以内、散布及び
無人航空機散布は
合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ
ﾀﾞｲｺﾝﾊﾑｼ</td><td>2000倍</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ｷｬﾍﾞﾂ</td><td rowspan="2">－</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>2000~
3000倍</td><td>100~300
L/10a</td><td>収穫3日
前まで</td><td>2回
以内</td><td>散布</td><td rowspan="2">3回以内
(育苗期の株元散布、
定植時の土壌混和及び
灌注は合計1回
以内、散布及び
無人航空機散布は
合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｶﾞ
ｱｵﾑｼ
ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ</td><td>50~
100倍</td><td>ｾﾙ成型育苗
ﾄﾚｲ1箱
または
ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1
冊（30×60
cm・
使用土壌
約3L）当り
0.5L</td><td>定植前日
~
定植時</td><td>1回</td><td>灌注</td></tr>
</table>

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
レタス 非結球レタス	—	アブラムシ類	2000~3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
		ハスモンヨトウ	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 または ペーパーポット1冊 (30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0L)当り0.5L	定植前日~定植時	1回	灌注	
		アブラムシ類 ナモグリバエ	50~100倍					
非結球あぶらな科葉菜類 (チンゲンサイ、畑わさびを除く) かぶ		アブラムシ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
		キスジノミハムシ	2000倍					
チンゲンサイ		アブラムシ類	3000倍					3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
		キスジノミハムシ	2000倍					
畑わさび		アブラムシ類 ナトビハムシ				3回以内		3回以内
わさび					畑育苗期			
だいこん	—	アブラムシ類	2000~3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	5回以内 (は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
		ダイコンハムシ	2000倍					
		キスジノミハムシ	1000倍					
クレソン		アブラムシ類	3000倍		収穫3日前まで	3回以内		3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
ねぎ	－	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和、育苗ﾄﾚｲへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ ﾀﾈﾊﾞｴ ﾈｷﾞｺｶﾞ	50倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱 または ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊 (30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5 L	定植前日～定植時	1回	灌注	
		ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類	1000倍	1 L/m²	生育期 但し、収穫14日前まで		株元灌注	
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類						
		ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ﾄﾋﾞｲﾛﾋｮｳﾀﾝｿﾞｳﾑｼ	400倍	0.4 L/m²				
たまねぎ		ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時の灌注は1回以内、散布は3回以内)
		ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	50倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱又はﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5 L	定植前日～定植時	1回	灌注	
にら	－	ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ	400倍	0.4 L/m²	生育期 但し、収穫14日前まで	1回	株元灌注	3回以内 (生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
		ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
		ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類	1000倍	1 L/m²	生育期 但し、収穫14日前まで	1回	株元灌注	
わけぎ		ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	4回以内 (定植後の株元散布は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
		ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	400倍	0.4 L/m²	生育期 但し、収穫14日前まで	1回	株元灌注	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	－	ｺﾅｼﾞﾗﾑｼ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｶﾒﾑｼ類 ｼﾞｭｳﾔﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ	2000倍	100~800 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
らっきょう		ｱｻﾞﾐｳﾏ類		100~300 L/10a				
さとうきび		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｶﾝｼｬｺﾊﾞﾈｶｶﾞｶﾒﾑｼ ｻﾄｳｷﾋﾞﾁﾋﾞｱｻﾞﾐｳﾏ			収穫7日前まで			5回以内 (粒剤は2回以内、液剤、水溶剤及び水和剤は合計3回以内)
にんじん		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
		ﾄﾋﾞｲﾛﾋｮｳﾀﾝｿﾞｳﾑｼ ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類	400倍	0.4 L/m^2	生育期 但し、収穫21日前まで	1回	株元灌注	
ｾﾙﾘｰ		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
ほうれんそう		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｳﾘﾊﾑｼﾓﾄﾞｷ	3000倍		収穫3日前まで			3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
しゅんぎく		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類			収穫前日まで			3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
みつば	－	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2回以内	散布	2回以内
だいず		ｶﾒﾑｼ類 ﾀﾞｲｽﾞｻﾔﾀﾏﾊﾞｴ	2000倍		収穫7日前まで			3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内)
		ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ	3000倍					
あずき		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類				3回以内		3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、未成熟ささげ、未成熟そらまめを除く)	—	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
えだまめ		カメムシ類 ダイズサヤタマバエ アブラムシ類 ハモグリバエ類						3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内)
		フタスジヒメハムシ	3000倍					
未成熟ささげ		アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000倍		収穫前日まで			2回以内
さやいんげん		アブラムシ類 ハモグリバエ類 コナジラミ類 カメムシ類						3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
さやえんどう 実えんどう		アブラムシ類 ハモグリバエ類 ウラナミシジミ カメムシ類						3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
未成熟そらまめ		アブラムシ類 ハモグリバエ類 カメムシ類			収穫7日前まで			2回以内
しょうが	—	クロバネキノコバエ類		100~300 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
オクラ		アブラムシ類 フタテンミドリヒメヨコバイ						
ばれいしょ		ワタアブラムシ			収穫7日前まで			2回以内
かんしょ		コナジラミ類 アブラムシ類			収穫3日前まで	1回		1回
せり	水田	アブラムシ類			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
せり (水耕栽培)	ガラス室等の施設				収穫3日前まで			
すいぜんじな	—	アブラムシ類			収穫3日前まで	2回以内		2回以内
モロヘイヤ		アザミウマ類			収穫前日まで			
なんてん(葉)		アブラムシ類			収穫7日前まで			3回以内 (土壌表面散布は1回以内、散布は2回以内)
ふき		コナジラミ類						

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
りんご	—	アブラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ コナカイガラムシ類 カメムシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
もも ネクタリン		アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 モモチョッキリゾウムシ						
おうとう		オウトウショウジョウバエ カメムシ類				2回以内		2回以内
なし		アブラムシ類 シンクイムシ類 カメムシ類 ケムシ類 コナカイガラムシ類 チュウゴクナシキジラミ				3回以内		3回以内
かき		カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ アザミウマ類						4回以内 (塗布は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内)
ぶどう	—	フタテンヒメヨコバイ	3000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内 (塗布は1回以内)
		カメムシ類 ブドウトラカミキリ	2000倍					
		チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類	1000~2000倍					
ラズベリー		アザミウマ類	2000倍			2回以内		2回以内
かんきつ		チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類	1000~2000倍			3回以内		3回以内
		ゴマダラカミキリ	1000倍					
		アブラムシ類 ミカンハモグリガ カメムシ類 コアオハナムグリ ケシキスイ類 ミカンバエ アカマルカイガラムシ ヤノネカイガラムシ サンホーゼカイガラムシ ミカンキジラミ コナジラミ類 チャノミドリヒメヨコバイ アオバハロロモ	2000倍					
小粒核果類		アブラムシ類 カメムシ類 シンクイムシ類 モモヒメヨコバイ						

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ｷｳｲﾌﾙｰﾂ	—	ｶﾒﾑｼ類	1000~2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ﾏﾝｺﾞｰ		ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	2000倍			2回以内		2回以内
びわ		ｶﾒﾑｼ類 ﾋﾞﾜｷﾞﾝﾗﾐ						
あけび(果実)		ｶﾒﾑｼ類			収穫14日前まで			
ｵﾘｰﾌﾞ					収穫前日まで			
ｵﾘｰﾌﾞ(葉)					収穫14日前まで			
茶		ﾁｬﾉﾎｿｶﾞ ﾁｬﾉﾐﾄﾞﾘﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ ﾂﾏｸﾞﾛｱｵｶｽｶﾒ ｺﾐｶﾝｱﾌﾞﾗﾑｼ		200~400 L/10a	摘採7日前まで			
てんさい	—	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾃﾝｻｲﾓｸﾞﾘﾊﾅﾊﾞｴ	2000~3000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内 (灌注は1回以内、散布は2回以内)
		ｶﾒﾉｺﾊﾑｼ	1000~2000倍					
		ｶﾒﾉｺﾊﾑｼ ﾃﾝｻｲﾓｸﾞﾘﾊﾅﾊﾞｴ ﾃﾝｻｲﾄﾋﾞﾊﾑｼ	100~200倍	5L/ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ6冊(2.5L/m²)	移植前	1回	灌注	
		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾃﾝｻｲﾓｸﾞﾘﾊﾅﾊﾞｴ ﾃﾝｻｲﾄﾋﾞﾊﾑｼ	100~240倍	6L/ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ6冊(3L/m²)				
かんきつ(苗木)		ﾐｶﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ	50倍	100mL/株	育苗期	5回以内	株元灌注	5回以内
えごま(種子)		ｶﾒﾑｼ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内
ｱﾏﾗﾝｻｽ(茎葉) しそ(花穂) しそ科葉菜類(しそ、ﾊﾞｼﾞﾙを除く)		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000倍			2回以内		2回以内
しそ		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｳﾘﾊﾑｼﾓﾄﾞｷ						3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
ﾊﾞｼﾞﾙ しょくようほおずき 食用ｼﾆｱﾗ 食用ｶｰﾈｰｼｮﾝ 食用ﾊﾟﾝｼﾞｰ 食用金魚草 食用ﾄﾚﾆｱ 食用なでしこ 食用ﾌﾟﾘﾑﾗ 食用ﾛｷｻﾞｶﾑ 食用せんにちこう		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類						2回以内
食用ｺｽﾓｽ					収穫7日前まで			

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
食用ぎく	—	アブラムシ類 コナジラミ類	3000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布及び株元散布は合計3回以内)
花き類・観葉植物(きくを除く)		アブラムシ類 コナジラミ類	2000~3000倍		発生初期	5回以内	散布	5回以内 (土壌混和は1回以内)
		ハモグリバエ類	1000倍	1 L/m²			灌注	
きく		アブラムシ類 コナジラミ類	2000~3000倍	100~300 L/10a			散布	
		カメムシ類	2000倍					
		ハモグリバエ類	1000~2000倍	1 L/m²			灌注	
樹木類(つつじ類、つばき類を除く)		ケムシ類	2000倍	100~700 L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内
つつじ類		ツツジグンバイケムシ類		100~300 L/10a				
つばき類		ケムシ類		100~700 L/10a				5回以内 (株元灌注は2回以内)
		チャドクガ	100倍	0.5~2 L/樹【但し、220 L/10aまで)		2回以内	株元灌注	
いぐさ		イグサシンムシガ	1000倍	100~150 L/10a	発生初期		散布	2回以内
いね科牧草		アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内		3回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かき	コナカイガラムシ類	20~40 g/樹	発芽前~発芽期	1回	本剤1 g当り水1 mLの割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する。	4回以内 (塗布は1回以内、散布及び無人航空機散布は合計3回以内)
ぶどう			幼果期まで 但し、収穫30日前まで			
	クビアカスカシバ	40 g/樹				3回以内 (塗布は1回以内)

（２）わさび用緑風 SG

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
わさび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000 倍	100~200 L/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

４．登録番号 20814：スタークル粉剤 DL、
登録番号 20815：アルバリン粉剤 DL、
登録番号 20816：ホクコースタークル粉剤 DL、
登録番号 20962：三井東圧アルバリン粉剤 DL
（ジノテフラン 0.50 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
稲	ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類 ｲﾅｺﾞ類 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ	3 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
だいず えだまめ	ｶﾒﾑｼ類 ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ ﾀﾞｲｽﾞｻﾔﾀﾏﾊﾞｴ			2 回以内		3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計 2 回以内)

５．登録番号 20836：スタークルトレボン粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.30 %・ジノテフラン 0.50 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽを含む農薬の総使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
稲	ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ｲﾅｺﾞ類 ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	3 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)

６．登録番号 21025：ホクコーラブサイドスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フサライド 2.5 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌｻﾗｲﾄﾞを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	3~4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	3 回以内
	ｲﾅｺﾞ類 ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	4 kg/10 a					

７．登録番号 21027：ビームスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ｲﾅｺﾞ類	3~4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	4 kg/10 a					

８．登録番号 **21191**：ビームバシスタークル粉剤５**DL**
（ジノテフラン **0.35 %**・トリシクラゾール **0.50 %**・メプロニル **3.0 %**粉剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数	ﾒﾌﾟﾛﾆﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ｲﾅｺﾞ類	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)	3 回以内
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 紋枯病	4 kg/10 a						

９．登録番号 **21228**：側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤
（ジノテフラン **4.0 %**・プロベナゾール **48.0 %**水和剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類	500 g/10 a	移植時	1 回	ﾍﾟｰｽﾄ肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、 本田での散布、 空中散布、 無人ﾍﾘ散布は 合計 3 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内)

１０．登録番号 **21248**：スタークル **L** 粉剤 **DL**、
登録番号 **21435**：スタークルメイト **L** 粉剤 **DL**
（ジノテフラン **0.35 %**粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
稲	ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	3 kg/10 a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は 合計 3 回以内)
	ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a				

１１．登録番号 21259：スタークル液剤 10、
登録番号 21260：スタークルメイト液剤 10、
登録番号 24582：アルバリン液剤 10
（ジノテフラン 10.0 %液剤）

（１）スタークル液剤 10 及びスタークルメイト液剤 10

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
稲	ｳﾝｶ類	30倍	3L/10a	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
		16倍	1.6L/10a				
	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	1000倍	60~150 L/10a			散布	
	ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類	300倍	25L/10a				
		8倍	0.8L/10a			無人航空機による散布	
						空中散布	
		30倍	3L/10a				
小麦	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1000倍	60~150 L/10a		2回以内	散布	2回以内
		8倍	0.8 L/10 a			無人航空機による散布	
だいこん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	8~16倍	1.6L/10a		2回以内	無人航空機による散布	5回以内 (は種時の播溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
ｷｬﾍﾞﾂ				収穫3日前まで			3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	8~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	10~16倍	1.6L/10a	収穫3日前まで	2回以内	無人航空機による散布	4回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>希釈
倍数</th><th>使用
液量</th><th>使用
時期</th><th>本剤の
使用
回数</th><th>使用方法</th><th>ジノテフランを
含む農薬の
総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">さとうきび</td><td rowspan="2">カンシャコバネナガカメムシ
イナゴ類</td><td>1000倍</td><td>100~300
L/10a</td><td rowspan="4">収穫7日
前まで</td><td rowspan="2">3回
以内</td><td>散布</td><td rowspan="2">5回以内
(粒剤は2回以内、液剤、
水溶剤及び水和剤は合計
3回以内)</td></tr>
<tr><td>14倍</td><td>2.4
L/10a</td><td>無人航空機
による散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">だいず
えだまめ</td><td rowspan="3">カメムシ類
フタスジヒメハムシ
ダイズサヤタマバエ</td><td>1000倍</td><td>100~300
L/10a</td><td rowspan="3">2回
以内</td><td>散布</td><td rowspan="3">3回以内
(は種時の土壌混和は1回
以内、
散布、空中散布、無人航空
機散布は
合計2回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8倍</td><td rowspan="2">0.8L/10a</td><td>無人航空機
による散布</td></tr>
<tr><td>空中散布</td></tr>
<tr><td>らっきょう</td><td>アザミウマ類
ハモグリバエ類</td><td rowspan="2">8倍</td><td>1.6L/10a</td><td>収穫前日
まで</td><td rowspan="2">3回
以内</td><td>無人航空機
による散布</td><td rowspan="2">3回以内</td></tr>
<tr><td>いね科牧草</td><td>アブラムシ類</td><td>1000倍</td><td>100~300
L/10a</td><td>収穫7日
前まで</td><td>散布</td></tr>
<tr><td>かんしょ</td><td rowspan="3">アブラムシ類</td><td rowspan="3">8~16倍</td><td rowspan="3">1.6 L/10 a</td><td rowspan="3">収穫3日
前まで</td><td>1回</td><td rowspan="4">無人航空機
による
散布</td><td>1回</td></tr>
<tr><td>はくさい</td><td rowspan="2">2回
以内</td><td>3回以内
(定植時の土壌混和及
び灌注は合計1回以
内、散布及び無人航空
機散布は合計
2回以内)</td></tr>
<tr><td>レタス
非結球レタス</td><td>4回以内
(は種前の培土混和は
1回以内、育苗期の株
元散布、定植時の土壌
混和及び育苗トレイへの
灌注は合計1回以内、
散布及び無人航空機
散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>カメムシ類</td><td>20倍</td><td>8 L/10 a</td><td>収穫前
日まで</td><td>3回
以内</td><td>4回以内
(塗布は1回以内、散布
及び無人航空機散布
は合計
3回以内)</td></tr>
</table>

（２）アルバリン液剤 10

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用
病害虫名</th><th>希釈
倍率</th><th>使用液量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用
回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>小麦</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>8 倍</td><td>0.8 L/
10 a</td><td>収穫 7 日
前まで</td><td rowspan="6">2 回
以内</td><td rowspan="10">無人航
空機に
よる散
布</td><td>2 回以内</td></tr>
<tr><td>だいこん</td><td rowspan="4">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="4">8~16 倍</td><td rowspan="5">1.6 L/10 a</td><td>収穫 7 日
前まで</td><td>5 回以内
(は種時の播溝土壌混和は 1 回以内､は種時の全面土壌混和は 1 回以内、粒剤の散布は 1 回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ｷｬﾍﾞﾂ</td><td rowspan="3">収穫 3 日
前まで</td><td>3 回以内
(育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ねぎ</td><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>10~16 倍</td><td>4 回以内
(は種時の土壌混和、育苗ﾄﾚｲへの灌注及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、生育期の株元灌注は 1 回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>かんしょ</td><td rowspan="3">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="3">8~16 倍</td><td rowspan="3">1.6 L/10 a</td><td rowspan="3">収穫 3 日
前まで</td><td>1 回</td><td>1 回</td></tr>
<tr><td>はくさい</td><td rowspan="2">3 回
以内</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内､散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ﾚﾀｽ
非結球ﾚﾀｽ</td><td>4 回以内
(は種前の培土混和は 1 回以内､育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗ﾄﾚｲへの灌注は合計 1 回以内､散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>ｶﾒﾑｼ類</td><td>20 倍</td><td>8 L/10 a</td><td>収穫前日
まで</td><td>3 回
以内</td><td>4 回以内
(塗布は 1 回以内､散布及び無人航空機散布は合計 3 回以内)</td></tr>
</table>

１２．登録番号 21276：スタークル１キロ H 粒剤、
登録番号 21277：スタークルメイト１キロ H 粒剤
（ジノテフラン 3.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
稲	ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	1 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
					無人航空機による散布	

１３．登録番号 21496：ビルダースタークル箱粒剤、
登録番号 21497：ホクコービルダースタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ もみ枯細菌病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の苗の上から均一に散布する	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内)
	ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈｸﾛｶﾒﾑｼ いもち病		緑化期~移植当日				

１４．登録番号 21607：スタークルエアー50、
登録番号 21608：スタークルメイトエアー50、
登録番号 24012：ファームスター顆粒水溶剤 50
（ジノテフラン 50.0 %水溶剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
稲	ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類	40 倍	0.8 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)
						空中散布	

１５．登録番号 21710：ホクコーラブサイドスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0 %・フサライド 12.0 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌｻﾗｲﾄﾞを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	500 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	3 回以内
	いもち病 ｶﾒﾑｼ類	150 倍	25 L/10 a					
	いもち病 ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類	4 倍	0.8 L/10 a			無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布		
		原液	0.2 L/10 a			空中散布		

１６．登録番号 21801：ワイドナーエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
稲	紋枯病 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ いもち病	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布

ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾃﾌﾞﾌｪﾉｼﾞﾄﾞを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾞﾌﾟﾛﾌｪｼﾞﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌｻﾗｲﾄﾞを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾙﾄﾗﾆﾙを 含む農薬の 総使用回数
4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	2 回以内	4 回以内 (小包装投入は 1 回以内)	3 回以内	3 回以内 (小包装投入は 1 回以内)

１７．登録番号 21871：コラトップスタークル１キロ粒剤
（ジノテフラン 5.0 %・ピロキロン 15.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾋﾟﾛｷﾛﾝを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	1 kg/10 a	出穂 5 日前まで	2 回以内	散布 無人航空機による散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

１８．登録番号 21886：イモチエーススタークル粒剤、
登録番号 21888：ホクコーイモチエーススタークル粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・メトミノストロビン 4.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾒﾄﾐﾉｽﾄﾛﾋﾞﾝを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 変色米(ｱﾙﾀﾅﾘｱ菌) 変色米(ｶｰﾌﾞﾗﾘｱ菌) 墨黒穂病 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ	3 kg/10 a	収穫 35 日前まで	1 回	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	1 回

１９．登録番号 21975：トレボンスター粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.40 %・ジノテフラン 0.20 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽを含む農薬の総使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
稲	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ	4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
	ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	3~4 kg/10 a					
だいず	ｶﾒﾑｼ類 ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ		収穫 14 日前まで	2 回以内		2 回以内	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計 2 回以内)

２０．登録番号 22036：ビームエイトスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)
		250~300 倍	25 L/10 a					
		8 倍	0.8 L/10 a			無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる 散布		

２１．登録番号 22037：トレボンスターフロアブル
（エトフェンプロックス 7.0 %・ジノテフラン 3.0 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽを 含む農薬の 総使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
稲	ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類 ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ	1000 倍	60~ 150 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
	ｶﾒﾑｼ類	300 倍	25 L/10 a					
	ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類 ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	8 倍	0.8 L/10 a			無人航空 機による 散布		
だいず	ｶﾒﾑｼ類				2 回以内		2 回以内	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計 2 回以内)

２２．登録番号 22063：日農ビームアプロードスタークル粉剤５DL、
登録番号 22064：クミアイビームアプロードスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌﾞﾌﾟﾛﾌｪｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを含む農薬の総使用回数
稲	ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ いもち病	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (小包装投入は 1 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)

２３．登録番号 22102：ビームモンセレンスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝｼｸﾛﾝを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)	4 回以内

２４．登録番号 22180：サジェスト微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝｼｸﾛﾝを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)	4 回以内

２５．登録番号 22268：ビームモンカットスタークル F 粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾙﾄﾗﾆﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前 まで	3 回以 内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)	3回以内 （小包装投入は 1 回以内）

２６．登録番号 22332：スタークル豆つぶ、
登録番号 22333：クミアイスタークル豆つぶ、
登録番号 22495：スタークルメイト豆つぶ
（ジノテフラン 12.0 %剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む 農薬の総使用回数
稲	ｶﾒﾑｼ類 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	250 g/10 a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
	ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	250~500 g/10 a				

２７．登録番号 22416：Dr．オリゼスタークル箱粒剤、
登録番号 22417：明治 Dr．オリゼスタークル箱粒剤、
登録番号 23950：オリザエートスター箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 25.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ｳﾝｶ類 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈｸﾛｶﾒﾑｼ もみ枯細菌病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3 cm 使用 土壌約 5 L)1 箱当 り 50 g	緑化期~ 移植当日	1 回	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する。	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内)
	ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ		移植 3 日前~ 移植当日				

２８．登録番号 22426：ビームスタークル微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉粒剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)

２９．登録番号 22479：ダブルカットスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.11 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	穂揃 期 まで	2 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (種子浸漬は 1 回以内、育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)
	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾅｺﾞ類	4 kg/10 a						

３０．登録番号 22642：ホクコートップジンスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・チオファネートメチル 2.0 %粉剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類 紋枯病	3~4 kg/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	3回以内 (種子への処理は 1回以内)

３１．登録番号 22660：MIC ビルダーフェルテラスタークル箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを 含む農薬の 総使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙを 含む農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	白葉枯病 もみ枯細菌病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 3 日前 ～ 移植 当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内)
	いもち病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ		緑化期 ～ 移植 当日					

３２．登録番号 22661：クミアイアプロードスタークルゾル、
登録番号 22662：アプロードスタークルゾル
（ジノテフラン 9.0 %・ブプロフェジン 18.0 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾞﾌﾟﾛﾌｪｼﾞﾝを 含む農薬の 総使用回数
稲	ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (小包装投入は 1 回以内)
		8 倍	0.8 L/10 a			無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布		

３３．登録番号 22725：キックオフ顆粒水和剤
（クロラントラニリプロール 4.0 %・ジノテフラン 15.0 %水和剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用
病害虫名</th><th>希釈
倍数</th><th>使用液量</th><th>使用
時期</th><th>本剤の
使用
回数</th><th>使用
方法</th><th>ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを
含む農薬の
総使用回数</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを
含む農薬の
総使用回数</th></tr>
<tr><td>なし</td><td>ｶﾒﾑｼ類
ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="7">2000 倍</td><td rowspan="5">200~700
L/10a</td><td rowspan="2">収穫前日
まで</td><td>3 回
以内</td><td rowspan="7">散布</td><td>3 回以内</td><td rowspan="4">3 回以内</td></tr>
<tr><td>もも</td><td rowspan="3">ｼﾝｸｲﾑｼ類
ｶﾒﾑｼ類
ﾊﾏｷﾑｼ類
ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ</td><td rowspan="2">2 回
以内</td><td rowspan="3">2 回以内</td></tr>
<tr><td>ﾈｸﾀﾘﾝ</td><td>収穫3 日前
まで</td></tr>
<tr><td>うめ</td><td>ｹﾑｼ類
ｶﾒﾑｼ類</td><td>収穫14 日前
まで</td><td rowspan="4">3 回
以内</td><td rowspan="3">3 回以内</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類
ｶｷﾉﾊﾀﾑｼｶﾞ
ｶﾒﾑｼ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類
ｹﾑｼ類</td><td>収穫前日
まで</td><td>4 回以内
(塗布は 1 回以内、散布及び無人航空機散布は
合計 3 回以内)</td></tr>
<tr><td>さとうきび</td><td>ｶﾝｼｬｺﾊﾞﾈﾅｶﾞｶﾒﾑｼ
ｻﾄｳｷﾋﾞﾁﾋﾞｱｻﾞﾐｳﾏ
ｱﾜﾖﾄｳ
ｲﾅｺﾞ類
ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ﾒｲﾁｭｳ類
ﾂﾏｼﾞﾛｸｻﾖﾄｳ</td><td>100~300
L/10a</td><td>収穫30 日前
まで</td><td>4 回以内
(粒剤は1 回
以内、水和剤
は3 回以内)</td><td>5 回以内
(粒剤は2 回以内、
液剤、水溶剤及び
水和剤は合計3 回
以内)</td></tr>
<tr><td>ｷｬﾍﾞﾂ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類
ｺﾅｶﾞ
ｱｵﾑｼ
ﾖﾄｳﾑｼ
ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ
ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ</td><td rowspan="3">100 倍</td><td rowspan="3">ｾﾙ成型育苗
ﾄﾚｲ 1 箱
または
ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ
1 冊(30×60
cm・
使用土壌
約1.5~4.0L)
当り 0.5L</td><td rowspan="3">定植前日
~
定植時</td><td rowspan="3">1 回</td><td rowspan="3">灌注</td><td rowspan="3">4 回以内
(定植時まで
の処理は1 回
以内、定植後
の処理は3 回以内)</td><td>3 回以内
(育苗期の株元散布、
定植時の土壌混和及
び灌注は合計1 回
以内、散布及び
無人航空機散布は
合計2 回以内)</td></tr>
<tr><td>はくさい</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｶﾞ
ｱｵﾑｼ
ﾖﾄｳﾑｼ
ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混
和及び灌注は合計
1 回以内、散布及
び無人航空機散布
は合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｶﾞ
ｱｵﾑｼ
ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ
ﾋﾒﾀﾞｲｺﾝﾊﾞｴ</td><td>3 回以内
(定植時の土壌混和及
び灌注は合計
1 回以内、散布及び
無人航空機散布は
合計2 回以内)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用
病害虫名</th><th>希釈
倍数</th><th>使用液量</th><th>使用
時期</th><th>本剤の
使用
回数</th><th>使用
方法</th><th>ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを
含む農薬の
総使用回数</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>ﾚﾀｽ</td><td rowspan="2">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ
ｶﾌﾞﾗﾔｶﾞ
ﾅﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ
ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ</td><td rowspan="3">100倍</td><td rowspan="3">ｾﾙ成型育苗
ﾄﾚｲ1箱または
ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ
1冊
(30×60cm・
使用土壌
約1.5~4.0L)
当り0.5L</td><td rowspan="3">定植前日
～
定植時</td><td rowspan="3">1回</td><td rowspan="3">灌注</td><td>4回以内
(定植時まで
の処理は1回
以内、定植後
の処理は
3回以内)</td><td rowspan="2">4回以内
(は種前の培土混和
は1回以内、育苗期
の株元散布、定植時
の土壌混和及び育苗
ﾄﾚｲへの灌注は合計
1回以内、散布及び
無人航空機散布は
合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>非結球ﾚﾀｽ</td><td>4回以内
(灌注は1回
以内、散布は
3回以内)</td></tr>
<tr><td>ねぎ</td><td>ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類
ｱｻﾞﾐｳﾏ類
ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ
ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類</td><td>4回以内
(灌注は1回
以内、定植後の
処理は3回以内)</td><td>4回以内
(は種時の土壌混
和、育苗ﾄﾚｲへの灌
注及び定植時の株元
散布は合計1回以
内、生育期の株元灌
注は1回以内、散
布、無人航空機散布
及び定植後の株元
散布は合計
2回以内)</td></tr>
</table>

３４．登録番号 22784：アプロードモンカットスタークル F 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾞﾌﾟﾛﾌｪｼﾞﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾙﾄﾗﾆﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計3回以内)	4 回以内 (小包装投入は 1回以内)	3 回以内 (小包装投入は 1回以内)

３５．登録番号 22924：ホクコートップジンスタークルフロアブル
（ジノテフラン **5.0 %**・チオファネートメチル **20.0 %**水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 墨黒穂病 稲こうじ病 ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	500 倍	60~150 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内)
		150 倍	25 L/10 a					
	いもち病 紋枯病 ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類	4 倍	0.8 L/10 a			無人航空機による散布		
		15 倍	3 L/10 a			空中 散布		

３６．登録番号 22981：ダブルカットバリダスタークル粉剤３DL
（ジノテフラン **0.35 %**・カスガマイシン **0.34 %**・トリシクラゾール **0.50 %**・バリダマイシン **0.30 %**粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
稲	いもち病 紋枯病 もみ枯細菌病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	穂揃期 まで	2 回 以内	散布
	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	4 kg/10 a			

ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数	ﾊﾞﾘﾀﾞﾏｲｼﾝを 含む農薬の 総使用回数
4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (種子浸漬は 1 回以内、育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)	6 回以内 (育苗箱灌注は 1 回以内、本田では 5 回以内)

３７．登録番号 22995：ダブルカットスタークルフロアブル
（ジノテフラン 10.0 %・カスガマイシン 1.37 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 もみ枯細菌病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	1000 倍	60~150 L/10 a	穂揃期 まで	2 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (種子浸漬は 1 回以内、育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)
		300 倍	25 L/10 a						
		8 倍	800 mL/10 a			無人航空機による散布			
						空中散布			

３８．登録番号 23074：アトラクトン箱粒剤、
登録番号 23075：スターダム箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	ｶﾒﾑｼ類	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)				
	ｳﾝｶ類 ｲﾅｺﾞ類 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈｶﾗﾊﾞｴ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ		移植 3 日前 ~ 移植当日			
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g				

３９．登録番号 23076：Dr．オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23077：明治 Dr．オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23078：ロングリーチ箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・プロベナゾール 24.0 %粒剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	ｶﾒﾑｼ類	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 当日	1 回	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する。	4 回以内 (育苗箱への 処理及び 側条施用は 合計 1 回以 内、本田での 散布、空中散 布、無人ﾍﾘ散 布は合計 3 回 以内)	2 回以内 (移植時まで の処理は 1 回 以内)
	ｳﾝｶ類 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈｶﾗﾊﾞｴ ｲﾅｺﾞ類 いもち病		移植 3 日 前~移植当 日				

４０．登録番号 23113：イッカツエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン 0.30 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類 ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ	3~4 kg/10 a	穂揃期まで	2 回以内	散布

ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む 農薬の総使用回数	ﾃﾌﾞﾌｪﾉｼﾞﾄﾞを含む 農薬の総使用回数	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝを含む 農薬の総使用回数	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙを含む 農薬の総使用回数	ﾊﾞﾘﾀﾞﾏｲｼﾝを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)	2 回以内	4 回以内 (種子浸漬は 1 回以内、育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)	6 回以内 (育苗箱灌注は 1 回以内、本田では 5 回以内)

４１．登録番号 23365：フェルテラスタークル箱粒剤 CU
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %粒剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを 含む農薬の 総使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	ｳﾝｶ類 ｲﾈﾐｽﾞｿｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の 床土又は覆土 に均一に混和 する。	1回	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計 1回以内、 本田での散 布、空中散布、 無人航空機散 布は合計 3回以内)
		高密度には種 する場合は1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)					
			は種時覆土前 ~ 移植当日		育苗箱の 上から 均一に 散布する。		
		育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り50 g					
	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈｸﾛｶﾒﾑｼ ｲﾅｺﾞ類	高密度には種 する場合は1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)	移植3日前 ~ 移植当日				

４２．登録番号 23370：スケルカット顆粒水和剤、
登録番号 23371：スケルノック顆粒水和剤
（ジノテフラン 40.0 %水和剤）

（１）スケルカット顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
りんご	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	2000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ｼﾝｸｲﾑｼ類	2000~4000 倍					

（２）スケルノック顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
りんご	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	2000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内

４３．登録番号 23372：スターガードプラス AL
（ジノテフラン 0.010 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞを含む農薬の総使用回数
なす	うどんこ病 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	原液	収穫前日まで	2 回以内	散布	3 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)	3 回以内
ﾋﾟｰﾏﾝ	うどんこ病 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類					3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)	
ﾄﾏﾄ ﾐﾆﾄﾏﾄ	葉かび病 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類					5 回以内 (育苗期の株元散布は 1 回以内、定植時の灌注は 1 回以内、定植時の土壌混和は 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)	
ｵｸﾗ さやいんげん さやえんどう 実えんどう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類					3 回以内 (株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)	
きゅうり	うどんこ病 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｳﾘﾊﾑｼ					4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)	
すいか	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫 7 日前まで				
ﾒﾛﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		収穫 3 日前まで			3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)	
ｷｬﾍﾞﾂ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類					3 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)	
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類					3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)	

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>希釈倍数</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数</th><th>ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="14">原液</td><td rowspan="3">収穫3日前まで</td><td rowspan="6">2回以内</td><td rowspan="14">散布</td><td>3回以内
(定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)</td><td rowspan="2">3回以内</td></tr>
<tr><td>ﾚﾀｽ
非結球ﾚﾀｽ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>4回以内
(は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗ﾄﾚｲへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)</td></tr>
<tr><td>ねぎ</td><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類
さび病</td><td>4回以内
(は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)</td><td>4回以内
(株元灌注は2回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>豆類（未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、未成熟ささげを除く）</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>収穫7日前まで</td><td>2回以内</td><td rowspan="8">3回以内</td></tr>
<tr><td>えだまめ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｶﾒﾑｼ類</td><td>収穫7日前まで</td><td rowspan="2">2回以内</td><td>3回以内
(は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内)</td></tr>
<tr><td>未成熟ささげ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>収穫前日まで</td><td>2回以内</td></tr>
<tr><td>かんきつ</td><td>ﾐｶﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ</td><td rowspan="4">収穫前日まで</td><td rowspan="4">3回以内</td><td rowspan="3">3回以内</td></tr>
<tr><td>りんご</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、
うどんこ病</td></tr>
<tr><td>なし</td><td>ｹﾑｼ類、
うどんこ病</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類</td><td>4回以内
(塗布は1回以内、散布は3回以内)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>希釈倍数</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数</th><th>ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>ぶどう</td><td>ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、さび病</td><td rowspan="8">原液</td><td>収穫7日前まで</td><td rowspan="2">3回以内</td><td rowspan="8">散布</td><td>3回以内
(塗布は1回以内)</td><td rowspan="8">3回以内</td></tr>
<tr><td>うめ
もも</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="2">収穫前日まで</td><td>3回以内</td></tr>
<tr><td>おうとう</td><td>ｶﾒﾑｼ類</td><td>2回以内</td><td>2回以内</td></tr>
<tr><td>ばら</td><td>うどんこ病
黒星病
ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ﾁｭｳﾚﾝｼﾞﾊﾊﾞﾁ</td><td rowspan="6">発生初期</td><td rowspan="6">3回以内</td><td rowspan="2">5回以内
(土壌混和は1回以内)</td></tr>
<tr><td>花き類・観葉植物(ばらを除く)</td><td>うどんこ病
ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td></tr>
<tr><td>樹木類
(つつじ類、つばき類を除く)</td><td>ｹﾑｼ類
うどんこ病</td><td>5回以内</td></tr>
<tr><td>つばき類</td><td>ｹﾑｼ類
うどんこ病</td><td>5回以内
(株元灌注は2回以内)</td></tr>
<tr><td>つつじ類</td><td>ｹﾑｼ類
ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ
うどんこ病</td><td>5回以内</td></tr>
</table>

４４．登録番号 23405：トライスタークル粉剤 DL、
登録番号 23407：クミアイトライスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフロキン 1.0 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾃﾌﾞﾌﾛｷﾝを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	収穫14日前まで	2回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計3回以内)	2回以内

４５．登録番号 23506：オールスタースプレー
（ジノテフラン 0.010 %液剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類	原液	収穫前日まで	2回以内	希釈せずそのまま散布する	3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
ﾄﾏﾄ ﾐﾆﾄﾏﾄ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類					5 回以内 (培土混和及び灌注は合計 1 回以内、育苗期の株元散布は 1 回以内、定植時の土壌混和は 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
なす	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類					3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
すいか	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫7日前まで			4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
とうがらし類	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類		収穫前日まで			
とうがらし(葉)			収穫14日前まで			3 回以内 (定植時の土壌混和は1 回以内、散布は2 回以内)
にがうり	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		収穫前日まで			
かぼちゃ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類					3 回以内 (定植時の土壌混和及び育苗ﾄﾚｲへの灌注は合計1 回以内、散布は2 回以内)
ｽﾞｯｷｰﾆ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類					4 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
ﾒﾛﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類		収穫3日前まで			3 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
きゅうり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｳﾘﾊﾑｼ		収穫前日まで			4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ ﾀﾞｲｺﾝﾊﾑｼ	原液	収穫3日前まで	2回以内	希釈せずそのまま散布する	3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類					3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
ｷｬﾍﾞﾂ						3 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 2 回以内)
非結球あぶらな科葉菜類(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ、畑わさびを除く) かぶ	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ					3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ						3 回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
畑わさび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類			3回以内		3回以内
だいこん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾀﾞｲｺﾝﾊﾑｼ		収穫7日前まで	2回以内		5 回以内 (は種時の播溝土壌混和は 1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内)
ﾚﾀｽ 非結球ﾚﾀｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫3日前まで			4 回以内 (は種前の培土混和は 1 回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗ﾄﾚｲへの灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類					4 回以内 (は種時の土壌混和、育苗ﾄﾚｲへの灌注及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、生育期の株元灌注は 1 回以内、散布、無人航空機散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
にら	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ		収穫前日まで			3 回以内 (生育期の株元灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ ｶﾒﾑｼ類			3回以内		3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
らっきょう	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	原液	収穫前日まで	3回以内	希釈せずそのまま散布する	3回以内
未成熟とうもろこし	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類					
ｾﾙﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫14日前まで	2回以内		3 回以内 (定植時の土壌混和は1 回以内、散布は 2 回以内)
にんじん			収穫7日前まで			4 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、生育期の株元灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)
だいず えだまめ	ｶﾒﾑｼ類 ﾀﾞｲｽﾞｻﾔﾀﾏﾊﾞｴ		収穫7日前まで	2回以内		3 回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内)
実えんどう さやえんどう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｳﾗﾅﾐｼｼﾞﾐ ｶﾒﾑｼ類		収穫前日まで			3 回以内 (株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
さやいんげん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類 ｶﾒﾑｼ類					
ｵｸﾗ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾌﾀﾃﾝﾐﾄﾞﾘﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ					
しょうが	ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類					
てんさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾃﾝｻｲﾓｸﾞﾘﾊﾅﾊﾞｴ ｶﾒﾉｺﾊﾑｼ		収穫7日前まで	2回以内		3 回以内 (灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)
ばれいしょ	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ					2回以内
かんしょ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		収穫3日前まで	1回		1回
すいぜんじな	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類			2回以内		2回以内
ふき	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		収穫7日前まで			3 回以内 (土壌表面散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
りんご	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｷﾝﾓﾝﾎｿｶﾞ ｼﾝｸｲﾑｼ類 ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類		収穫前日まで	3回以内		3回以内
もも ﾈｸﾀﾘﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ ｼﾝｸｲﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類 ﾓﾓﾁｮｯｷﾘｿﾞｳﾑｼ					

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>希釈倍数</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>なし</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｼﾝｸｲﾑｼ類
ｶﾒﾑｼ類
ｹﾑｼ類
ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="19">原液</td><td rowspan="18">収穫前日まで</td><td rowspan="13">3回以内</td><td rowspan="19">希釈せずそのまま散布する</td><td rowspan="13">3回以内</td></tr>
<tr><td>かんきつ</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ﾐｶﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ
ｶﾒﾑｼ類
ｺｱｵﾊﾅﾑｸﾞﾘ
ｹｼｷｽｲ類
ﾐｶﾝﾊﾞｴ
ｱｶﾏﾙｶｲｶﾞﾗﾑｼ
ﾔﾉﾈｶｲｶﾞﾗﾑｼ
ﾐｶﾝｷｼﾞﾗﾐ
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類
ﾁｬﾉﾐﾄﾞﾘﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ
ｻﾝﾎｰｾﾞｶｲｶﾞﾗﾑｼ
ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ
ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類</td></tr>
<tr><td>小粒核果類</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｶﾒﾑｼ類</td></tr>
<tr><td>ﾏﾝｺﾞｰ</td><td>ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ</td></tr>
<tr><td>ｷｳｲﾌﾙｰﾂ</td><td>ｶﾒﾑｼ類</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>ｶﾒﾑｼ類
ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類
ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ
ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>4回以内
(塗布は1回以内、
散布は3回以内)</td></tr>
<tr><td>ぶどう</td><td>ｶﾒﾑｼ類
ﾌﾞﾄﾞｳﾄﾗｶﾐｷﾘ
ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ
ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類</td><td>3回以内
(塗布は1回以内)</td></tr>
<tr><td>おうとう</td><td>ｵｳﾄｳｼｮｳｼﾞｮｳﾊﾞｴ
ｶﾒﾑｼ類</td><td rowspan="3">2回以内</td><td rowspan="3">2回以内</td></tr>
<tr><td>びわ</td><td>ｶﾒﾑｼ類
ﾋﾞﾜｷｼﾞﾗﾐ</td></tr>
<tr><td>あけび(果実)</td><td>ｶﾒﾑｼ類</td><td>収穫14日前まで</td></tr>
<tr><td>花き類・
観葉植物
(きくを除く)</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類</td><td rowspan="6">発生初期</td><td rowspan="6">5回以内</td><td rowspan="2">5回以内
(土壌混和は1回以内)</td></tr>
<tr><td>きく</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類
ｶﾒﾑｼ類</td></tr>
<tr><td>樹木類
(つつじ類、
つばき類を除く)</td><td>ｹﾑｼ類</td><td rowspan="2">5回以内</td></tr>
<tr><td>つつじ類</td><td>ｹﾑｼ類
ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ</td></tr>
<tr><td>つばき類</td><td>ｹﾑｼ類</td><td>5回以内
(株元灌注は2回以内)</td></tr>
</table>

４６．登録番号 23624：ウッドスター、
登録番号 23676：ウッドセーバー
（ジノテフラン 8.0 %液剤）

（１）ウッドスター

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
樹木類(つばき類を除く)	ｹﾑｼ類	胸高直径 6 cm~10 cm：8~12 mL、 10 cm~20 cm：12~24 mL、 20 cm~30 cm：24~36 mL、 30 cm~40 cm：36~48 mL、 40 cm~50 cm：48~60 mL、 50 cm~60 cm：60~72 mL、 以降、直径が10 cm増す毎に 12 mLを追加する	幼虫発生前 ~ 発生初期 但し新葉 展開後	3回 以内	樹幹 注入	5回以内
くすのき	ｸｽﾍﾞﾆﾋﾗﾀｶｽﾐｶﾒ		幼虫発生前 ~ 発生初期			
ｱﾒﾘｶﾌｳ	ｲﾗｶﾞ類		幼虫発生前 ~ 発生初期 但し新葉 展開後			
さくら						
	ｸﾋﾞｱｶﾂﾔｶﾐｷﾘ	注入部直径 6 cm~10 cm：8~12 mL、 10 cm~20 cm：12~24 mL、 20 cm~30 cm：24~36 mL、 30 cm~40 cm：36~48 mL、 40 cm~50 cm：48~60 mL、 50 cm~60 cm：60~72 mL、 以降、直径が10 cm増す毎に 12 mLを追加する	新葉展開後 ~ 落葉前まで			
つばき類	ﾁｬﾄﾞｸｶﾞ	注入部直径 6 cm~10 cm : 2mL、 10 cm~20 cm：2~12mL、 20 cm~30 cm：12~18mL、 30 cm~40 cm：18~24mL、 40 cm~50 cm：24~30mL、 50 cm~60 cm：30~36mL、 以降、直径が10 cm増す毎に 6 mLを追加する	幼虫発生前 ~ 発生初期			5回以内 (株元灌注は2回以内)
ﾌﾟﾗﾀﾅｽ	ﾌﾟﾗﾀﾅｽｸﾞﾝﾊﾞｲ	胸高直径 6 cm~10 cm：2mL、 10 cm~20 cm：2~12mL、 20 cm~30 cm：12~18mL、 30 cm~40 cm：18~24mL、 40 cm~50 cm：24~30mL、 50 cm~60 cm：30~36mL、 以降、直径が10 cm増す毎に 6 mLを追加する	新葉展開後			5回以内
ぶな	ﾌﾞﾅﾊﾊﾞﾁ		新葉展開直前			
ひのき	ﾁｬﾊﾞﾈｱｵｶﾒﾑｼ	注入部直径 6 cm~8 cm : 8mL、 8 cm~11 cm：12mL、 11 cm~14 cm：16mL、 14 cm~17 cm：20mL、 17 cm~20 cm：24mL、 以降、直径が3 cm増す毎に 4 mLを追加する	成虫飛来前		主枝 基部 注入	

（２）ウッドセーバー

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
ﾃﾞｲｺﾞ	ﾃﾞｲｺﾞﾋﾒｺﾊﾞﾁ	胸高直径 6 cm~10 cm:15~30 mL 10 cm~20 cm:30~60mL 以降、直径が 10 cm 増す毎に 30~60 mL を追加する	成虫発生前又は虫えい形成期	3回以内	樹幹注入	5回以内
	ﾍﾞﾆﾓﾝﾉﾒｲｶﾞ		発生前 ~ 発生初期			
ｶﾞｼﾞｭﾏﾙ	ｵｷﾅﾜｲﾁﾓﾝｼﾞﾊﾑｼ					

４７．登録番号 23685：ハイポネックス原液 殺虫剤入り（ジノテフラン 2.5 %複合肥料）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数
花き類・観葉植物	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	250 倍	2 L/m^2	発生初期	5 回以内	灌注	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)

４８．登録番号 23705：サンブラススタークル箱粒剤（ジノテフラン 2.0 %・トルプロカルブ 12.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾄﾙﾌﾟﾛｶﾙﾌﾞを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の苗の上から均一に散布する	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での湛水散布、無人航空機散布、投げ入れは合計 1 回以内)

４９．登録番号 23706：ガッツスター粒剤、
登録番号 23707：ゴウケツモンスター粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・シメコナゾール 1.5 %・トルプロカルブ 3.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ｼﾒｺﾅｿﾞｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾄﾙﾌﾟﾛｶﾙﾌﾞを含む農薬の総使用回数
稲	ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ いもち病 紋枯病 稲こうじ病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 墨黒穂病 内穎褐変病	3 kg/10 a	出穂 5 日前まで 但し、収穫 30 日前まで	1 回	湛水散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での湛水散布、無人航空機散布、投げ入れは合計 1 回以内)

５０．登録番号 23708：サントリプル箱粒剤、
登録番号 23840：サンフェスタ箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %・トルプロカルブ 4.0 %粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾄﾙﾌﾟﾛｶﾙﾌﾞを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 ｲﾈｸﾛｶﾒﾑｼ いもち病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り50~100 g)	移植3日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	2 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での湛水散布、無人航空機散布、投げ入れは合計 1 回以内)
稲	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ	1 kg/10 a	移植時		側条施用			

５１．登録番号 **23833**：ハイパーキック箱粒剤、
登録番号 **23834**：ゴウケツバスター箱粒剤
（ジノテフラン **12.0 %**・トルプロカルブ **9.0 %**粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用
病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用
時期</th><th>本剤の
使用
回数</th><th>使用
方法</th><th>ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを
含む農薬の
総使用回数</th><th>ﾄﾙﾌﾟﾛｶﾙﾌﾞを
含む農薬の
総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">稲
(箱育苗)</td><td rowspan="2">ｶﾒﾑｼ類</td><td>育苗箱
(30×60×3
cm、使用土壌
約5 L)
1箱当り50 g</td><td>移植
当日</td><td rowspan="4">1回</td><td rowspan="3">育苗箱の
上から
均一に
散布する。</td><td rowspan="4">4 回以内
(育苗箱への
処理及び側条
施用は合計1回
以内、本田での
散布、空中
散布、無人航空
機散布は合計
3回以内)</td><td rowspan="4">2 回以内
(移植時までの
処理は 1 回
以内、本田での
湛水散布、無人
航空機散布、
投げ入れは合計
1 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ｳﾝｶ類
ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾅｺﾞ類
ｲﾈｶﾗﾊﾞｴ
ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ
いもち病
もみ枯細菌病
内穎褐変病
白葉枯病</td><td rowspan="2">高密度には種
する場合は 1
kg/10 a
(育苗箱
(30×60×3 cm、
使用土壌
約 5 L)
1 箱当り
50~100 g)</td><td rowspan="3">移植3日前
～
移植当日</td></tr>
<tr><td>育苗箱
(30×60×3 cm、
使用土壌
約 5 L)
1 箱当り 50 g</td></tr>
<tr><td>稲</td><td>いもち病
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ</td><td>1 kg/10 a</td><td>移植時</td><td>側条施用</td></tr>
</table>

５２．登録番号 24316：アースガーデン４
（エトフェンプロックス 0.020 %・ジノテフラン 0.010 %・ミルベメクチン 0.00050 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ を含む農薬の総 使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ を含む農薬の 総使用回数	ﾐﾙﾍﾞﾒｸﾁﾝ を含む農薬の 総使用回数	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ を含む農薬の 総使用回数
ばら	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｸﾛｹｼﾂﾌﾞﾁｮｯｷﾘ ﾁｭｳﾚﾝｼﾞﾊﾊﾞﾁ ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類 ｺｶﾞﾈﾑｼ類 ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ うどんこ病 灰色かび病 黒星病	原液	発生 初期	2 回 以内	散布	6 回 以内	5 回 以内 (土壌混和は 1 回以内)	2 回 以内	3 回 以内
ひまわり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類 ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｱﾜﾀﾞﾁｿｳｸﾞﾝﾊﾞｲ うどんこ病 灰色かび病								
花き類・観葉植物(ばら、ひまわりを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類 ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ うどんこ病 灰色かび病								
樹木類 (つつじ類、つばき類、ひいらぎもくせい、まさきを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｹﾑｼ類 ｲﾗｶﾞ類 うどんこ病						5 回 以内		
つばき類 (さざんかを除く)							5 回以内(株元灌注は 2 回以内)		
さざんか	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｹﾑｼ類 ｲﾗｶﾞ類 ﾂﾉﾛｳﾑｼ うどんこ病						5 回 以内		

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ を含む農薬の総 使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ を含む農薬の 総使用回数	ﾐﾙﾍﾞﾒｸﾁﾝ を含む農薬の 総使用回数	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ を含む農薬の 総使用回数
まさき	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｹﾑｼ類 ｲﾗｶﾞ類 ｱｵﾊﾞﾊｺﾞﾛﾓ うどんこ病	原液	発生 初期	2 回 以内	散布	6 回 以内	5 回 以内	2 回 以内	3 回 以内
ひいらぎも くせい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｹﾑｼ類 ｲﾗｶﾞ類 ﾍﾘｸﾞﾛﾃﾝﾄｳﾉﾐﾊﾑｼ うどんこ病								
つつじ類	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ﾊﾀﾞﾆ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｹﾑｼ類 ｲﾗｶﾞ類 ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ うどんこ病								

５３．登録番号 24344：スタートレボン W10
（エトフェンプロックス 10.0 %・ジノテフラン 10.0 %乳剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽを 含む農薬の 総使用回数	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
稲	ｶﾒﾑｼ類 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	1000 倍	60~ 150L/10a	収穫14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条施用は 合計1 回以内、 本田での散布、 空中散布、無人航空機 散布は合計3 回以内)
	ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ	8 倍	0.8L/10a			無人航空機こ よる散布		
だいず えだまめ	ｶﾒﾑｼ類	1000 倍	100~300 L/10 a	収穫14 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内	3 回以内 (は種時の土壌混 和は 1 回以内、 散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計 2 回以内)
		8 倍	0.8 L/10 a			無人航空機に よる散布		

５４．登録番号 24346：ブレードスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・フェリムゾン 15.0 %・フサライド 15.0 %水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌｪﾘﾑｿﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌｻﾗｲﾄﾞを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 稲こうじ病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 変色米(ｶｰﾌﾞﾗﾘｱ菌) 変色米(ｱﾙﾀﾅﾘｱ菌) ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	4 回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	2 回以内	3 回以内
		300 倍	25 L/10 a						
		8 倍	800 mL/10 a			無人航空機による散布			

５５．登録番号 24347：ブレードスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フェリムゾン 2.0 %・フサライド 1.5 %粉剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌｪﾘﾑｿﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌｻﾗｲﾄﾞを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｶﾒﾑｼ類	3~4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	4 回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	2 回以内	3 回以内

５６．登録番号 24413：マグァンプ K 殺虫剤入り
（ジノテフラン 0.20 %複合肥料）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数
なす	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺｶﾞﾗﾑｼ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類	5g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺｶﾞﾗﾑｼ類		生育期 但し、収穫前日まで	2回以内	株元散布	
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		定植時	1回	植穴土壌混和	
			生育期 但し、収穫前日まで	2回以内	株元散布	
きゅうり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺｶﾞﾗﾑｼ類		定植時	1回	植穴土壌混和	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
			生育期 但し、収穫開始14日前まで	1回以内	株元散布	
ﾄﾏﾄ ﾐﾆﾄﾏﾄ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｺｶﾞﾗﾑｼ類		定植時	1回	植穴土壌混和	5回以内 (培土混和及び灌注は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
			生育期 但し、収穫前日まで	2回以内	株元散布	
いちご	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ		定植時	1回	植穴土壌混和	1回
花き類・ 観葉植物	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	100 g/m²	生育期	5回以内	株元散布	5回以内 (土壌混和は1回以内)

５７．登録番号 24530：オーケストラスタークルエアー
（ジノテフラン 9.0 %・ベンズピリモキサン 10.0 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾍﾞﾝｽﾞﾋﾟﾘﾓｷｻﾝを 含む農薬の 総使用回数
稲	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫７日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内
		250 倍	25L/10a					
		16 倍	1.6L/10a			無人航空機による散布		
		8 倍	0.8 L/10 a					

５８．登録番号 24608：ブレードスタークル R ゾル
（ジノテフラン 9.0 %・フェリムゾン 13.5 %・フサライド 13.5 %水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌｪﾘﾑｿﾞﾝを 含む農薬の 総使用回数	ﾌｻﾗｲﾄﾞを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ｳﾝｶ類 ｶﾒﾑｼ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	2 回以内	3 回以内
		300 倍	25 L/10 a						
		8 倍	800 mL/10 a			無人航空機による散布			

別添２：農薬蜜蜂影響評価部会で検討した文献一覧（ジノテフラン）

目　次

文献整理番号１（成虫接触毒性試験）.....2
文献整理番号２（成虫接触毒性試験）.....3
文献整理番号３（成虫単回経口毒性試験）.....4
文献整理番号４（成虫単回経口毒性試験）.....5
文献整理番号５（成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験）.....6
文献整理番号６~１０：リスク評価パラメーター（LD_{50} 又は LDD_{50}）の設定又は見直しのために利用できないため、毒性指標の検討に用いないと分類した文献.....7

文献整理番号１（成虫接触毒性試験）

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	ジノテフラン	出版年	2015	文献整理番号	1	DA適合性区分* (a/b)	c
文献タイトル	Toxicity and biochemical changes in the honey bee Apis mellifera exposed to four insecticides under laboratory conditions						
著者/所属	Badawy, M.E.I.; Nasr, H.M.; Rabea, E.I./Department of Pesticide Chemistry and Technology, Faculty of Agriculture, Alexandria University, 21545 El-Shatby Alexandria, Egypt						
雑誌名等	Apidologie, 46 (2),177-193						

*当該文献の全文にる適合性に基づく分類（DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

１．成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

２．成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

３．成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

４．幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35°Cである	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号２（成虫接触毒性試験）

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	ジノテフラン	出版年	2019	文献整理番号	2	DA適合性区分* (a/b)	c
文献タイトル	Ecological toxicity reduction of dinotefuran to honeybee: New perspective from an enantiomeric level						
著者/所属	Chen, Z.L.; Yao, X.M.; Dong, F.S.; Duan, H.X.; Shao, X.S.; Chen, X.; Yang, T.; Wang, G.R.; Zheng, Y.Q./State Key Laboratory for Biology of Plant Diseases and Insect Pests, Institute of Plant Protection, Chinese Academy of Agricultural Sciences, Beijing 100193, PR China						
雑誌名等	Environment International, 130						

*当該文献の全文にる適合性に基づく分類（DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

１．成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	○

２．成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

３．成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

４．幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35°Cである	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号３（成虫単回経口毒性試験）

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	ジノテフラン	出版年	2019	文献整理番号	3	DA適合性区分* (a/b)	c
文献タイトル	Enantioselective Olfactory Effects of the Neonicotinoid Dinotefuran on Honey Bees (Apis mellifera L.)						
著者/所属	Liu,S., Y. Liu, F. He, H. Zhang, X. Li, and H. Tan/Guangxi Key Laboratory for Agro-Environment and Agro-Product Safety, National Demonstration Center for Experimental Plant Science Education, College of Agriculture, Guangxi University, Nanning, Guangxi 530004, People's Republic of China						
雑誌名等	J. Agric. Food Chem.67(43): 12105-12116						

*当該文献の全文にる適合性に基づく分類（DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1．成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2．成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3．成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4．幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35°Cである	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号４（成虫単回経口毒性試験）

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	ジノテフラン	出版年	2021	文献整理番号	4	DA適合性区分* (a/b)	c
文献タイトル	The transcriptomic landscape of molecular effects after sublethal exposure to dinotefuran on Apis mellifera						
著者/所属	Zhang, Y.H.; Du, Y.L.; Ma, W.H.; Liu, J.J.; Jiang, Y.S./College of Animal Sciences, Shanxi Agricultural University, Taigu 030801, China						
雑誌名等	Insects, 12 (10)						

*当該文献の全文にる適合性に基づく分類（DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

1．成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	48時間以上である	
4	温度	試験期間中23°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

2．成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

3．成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

4．幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35°Cである	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号５（成虫接触毒性試験及び成虫単回経口毒性試験）

別紙

信頼性確認シート

有効成分名	ジノテフラン	出版年	2022	文献整理番号	5	DA適合性区分* (a/b)	c
文献タイトル	Toxicological effect and molecular mechanism of the chiral neonicotinoid dinotefuran in honeybees						
著者/所属	Zhang, Q.; Fu, L.L.; Cang, T.; Tang, T.; Guo, M.C.; B.B.; Zhu, Zhu, G.H.; G.H.; Zhao, M.R. /Key Laboratory of Microbial Technology for Industrial Pollution Control of Zhejiang Province, College of Environment, Zhejiang University of Technology, Hangzhou, Zhejiang 310032, China						
雑誌名等	Environmental Science & Technology, 56 (2), 1104-1112						

*当該文献の全文にる適合性に基づく分類（DA: Detailed Assessment)における適合性区分を記載。区分aの文献についてはKlimisch基準に準じた信頼性評価における分類も記載

１．成虫接触毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

２．成虫単回経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	同等条件の成虫を試験に用いている	○
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	○
3	試験期間	48時間以上である	○
4	温度	試験期間中23°C以上である	○
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	○
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が10%以下である	

３．成虫反復経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	羽化後最大2日齢の成虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	10日間以上である	
4	温度	試験期間中31°C以上である	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

４．幼虫経口毒性試験

No.	チェック項目		はい
1	試験生物	孵化後1日齢幼虫を試験に用いている	
2	被験物質	「原体」又は「有効成分」である	
3	試験期間	72時間以上である	
4	温度	試験期間中34～35°Cである	
5	対照区	被験物質を含まない試験区が設定されている	
6		被験物質を含まない試験区の死亡率が15%以下である	

文献整理番号６~１０：リスク評価パラメーター（LD_{50} 又は LDD_{50}）の設定又は見直しのために利用できないため、毒性指標の検討に用いないと分類した文献

（これらの文献について、その多くは、帰巣飛翔、嗅覚学習、運動機能や姿勢制御等の行動異常をエンドポイントした毒性試験に関する研究成果であった。）

文献整理番号	著　者	出版年	論文表題	掲載誌名、号、ページ等	分類の判断理由
6	Matsumoto, T.	2013	Reduction in homing flights in the honey bee *Apis mellifera* after a sublethal dose of neonicotinoid insecticides	Bulletin of Infectiology, 66 (1), 1-9	・致死をエンドポイントした試験ではない ・帰巣飛翔をエンドポイントとした試験の文献
7	Williamson, S.M.; Willis, S.J.; Wright, G.A.	2014	Exposure to neonicotinoids influences the motor function of adult worker honeybees	Ecotoxicology, 23 (8), 1409-1418	・致死をエンドポイントした試験ではない ・運動機能・姿勢制御をエンドポイントとした試験の文献
8	Yue, M.; Luo, S.D.; Liu, J.L.; Wu, J.	2018	*Apis cerana* is less sensitive to most neonicotinoids, despite of their smaller body mass	Journal of Economic Entomology, 111(1), 39-42	・LD_{50}の再解析ができない ・成虫経口毒性試験が実施され、LC_{50}の報告はあるが、摂餌量不明でLD_{50}を求めることはできない
9	Mustard, JA; Gott, A; Scott, J; Chavarria, NL; Wright, GA	2020	Honeybees fail to discriminate floral scents in a complex learning task after consuming a neonicotinoid pesticide	JOURNAL OF EXPERIMENTAL BIOLOGY, 223(5), jeb217174	・致死をエンドポイントした試験ではない ・嗅覚学習をエンドポイントとした試験の文献
10	Huang, MJ; Dong, J; Guo, HK; Xiao, MH; Wang, DQ	2021	Identification of long noncoding RNAs reveals the effects of dinotefuran on the brain in Apis mellifera (Hymenopptera: Apidae)	BMC GENOMICS, 22(1), 502	・致死をエンドポイントした試験ではない ・脳における長鎖ノンコーディングRNA（lncRNA）発現に与える影響をエンドポイントとした試験の文献

別添 3：暴露量の推計（ジノテフラン）

目　次

１．　登録番号 20805：スタークル粒剤、
登録番号 20806：アルバリン粒剤、
登録番号 20807：ホクコースタークル粒剤、
登録番号 20959：三井東圧アルバリン粒剤、
登録番号 22738：スターガード粒剤
（ジノテフラン 1.0 %粒剤） 5

２．　登録番号 20808：スタークル箱粒剤、
登録番号 20960：三井東圧アルバリン箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %粒剤） 23

３．　登録番号 20811：スタークル顆粒水溶剤、
登録番号 20812：アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 20813：ホクコースタークル顆粒水溶剤、
登録番号 20961：三井東圧アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 22130：わさび用緑風 SG
（ジノテフラン 20.0 %水溶剤） 24

４．　登録番号 20814：スタークル粉剤 DL、
登録番号 20815：アルバリン粉剤 DL、
登録番号 20816：ホクコースタークル粉剤 DL、
登録番号 20962：三井東圧アルバリン粉剤 DL
（ジノテフラン 0.50 %粉剤） 38

５．　登録番号 20836：スタークルトレボン粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.30 %・ジノテフラン 0.50 %粉剤） 39

６．　登録番号 21025：ホクコーラブサイドスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フサライド 2.5 %粉剤） 39

７．　登録番号 21027：ビームスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤） 40

８．　登録番号 21191：ビームバシスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・メプロニル 3.0 %粉剤） 40

９．　登録番号 21228：側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤
（ジノテフラン 4.0 %・プロベナゾール 48.0 %水和剤） 41

１０．登録番号 21248：スタークル L 粉剤 DL、
登録番号 21435：スタークルメイト L 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %粉剤） 41

１１．登録番号 21259：スタークル液剤 10、
登録番号 21260：スタークルメイト液剤 10、
登録番号 24582：アルバリン液剤 10
（ジノテフラン 10.0 %液剤） 42

１２．登録番号 21276：スタークル１キロ H 粒剤、
登録番号 21277：スタークルメイト１キロ H 粒剤

（ジノテフラン 3.0 %粒剤） 46

１３．登録番号 21496：ビルダースタークル箱粒剤、
登録番号 21497：ホクコービルダースタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤） 47

１４．登録番号 21607：スタークルエアー50、
登録番号 21608：スタークルメイトエアー50、
登録番号 24012：ファームスター顆粒水溶剤 50
（ジノテフラン 50.0 %水溶剤） 47

１５．登録番号 21710：ホクコーラブサイドスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0%・フサライド 12.0 %水和剤） 48

１６．登録番号 21801：ワイドナーエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・
フルトラニル 2.0 %粉剤） 48

１７．登録番号 21871：コラトップスタークル１キロ粒剤
（ジノテフラン 5.0 %・ピロキロン 15.0 %粒剤） 49

１８．登録番号 21886：イモチエーススタークル粒剤、
登録番号 21888：ホクコーイモチエーススタークル粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・メトミノストロビン 4.0 %粒剤） 49

１９．登録番号 21975：トレボンスター粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.40 %・ジノテフラン 0.20 %粉剤） 50

２０．登録番号 22036：ビームエイトスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤） 50

２１．登録番号 22037：トレボンスターフロアブル
（エトフェンプロックス 7.0 %・ジノテフラン 3.0 %水和剤） 51

２２．登録番号 22063：日農ビームアプロードスタークル粉剤５DL、
登録番号 22064：クミアイビームアプロードスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤） 51

２３．登録番号 22102：ビームモンセレンスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉剤） 52

２４．登録番号 22180：サジェスト微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉粒剤） 52

２５．登録番号 22268：ビームモンカットスタークル F 粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・フルトラニル 2.0 %粉剤） 53

２６．登録番号 22332：スタークル豆つぶ、
登録番号 22333：クミアイスタークル豆つぶ、
登録番号 22495：スタークルメイト豆つぶ
（ジノテフラン 12.0 %剤） 53

２７．登録番号 22416：Dr. オリゼスタークル箱粒剤、
登録番号 22417：明治 Dr. オリゼスタークル箱粒剤、
登録番号 23950：オリザエートスター箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 25.0 %粒剤） 54

２８．登録番号 22426：ビームスタークル微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉粒剤） 54

２９．登録番号 22479：ダブルカットスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.11 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤） 55

３０．登録番号 22642：ホクコートップジンスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・チオファネートメチル 2.0 %粉剤） 55

３１．登録番号 22660：MIC ビルダーフェルテラスタークル箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤） 56

３２．登録番号 22661：クミアイアプロードスタークルゾル、
登録番号 22662：アプロードスタークルゾル
（ジノテフラン 9.0 %・ブプロフェジン 18.0 %水和剤） 56

３３．登録番号 22725：キックオフ顆粒水和剤
（クロラントラニリプロール 4.0 %・ジノテフラン 15.0 %水和剤） 57

３４．登録番号 22784：アプロードモンカットスタークル F 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤） 58

３５．登録番号 22924：ホクコートップジンスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0 %・チオファネートメチル 20.0 %水和剤） 58

３６．登録番号 22981：ダブルカットバリダスタークル粉剤３DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン 0.30 %粉剤） 59

３７．登録番号 22995：ダブルカットスタークルフロアブル
（ジノテフラン 10.0 %・カスガマイシン 1.37 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤） 59

３８．登録番号 23074：アトラクトン箱粒剤、
登録番号 24075：スターダム箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %粒剤） 60

３９．登録番号 23076：Dr. オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23077：明治 Dr. オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23078：ロングリーチ箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・プロベナゾール 24.0 %粒剤） 61

４０．登録番号 23113：イッカツエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン 0.30 %粉剤） 62

４１．登録番号 23365：フェルテラスタークル箱粒剤 CU
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %粒剤） 62

４２．登録番号 23370：スケルカット顆粒水和剤、
登録番号 23371：スケルノック顆粒水和剤
（ジノテフラン 40.0 %水和剤） 63

４３．登録番号 23372：スターガードプラス AL
（ジノテフラン 0.010 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤） 64

４４．登録番号 23405：トライスタークル粉剤 DL、
登録番号 23407：クミアイトライスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフロキン 1.0 %粉剤） 66

４５．登録番号 23506：オールスタースプレー
（ジノテフラン 0.010 %液剤） 67

４６．登録番号 23624：ウッドスター、

登録番号 23676：ウッドセーバー
（ジノテフラン 8.0 %液剤） 70

４７．登録番号 23685：ハイポネックス原液 殺虫剤入り
（ジノテフラン 2.5 %複合肥料） 71

４８．登録番号 23705：サンブラススタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・トルプロカルブ 12.0 %粒剤） 71

４９．登録番号 23706：ガッツスター粒剤、
登録番号 23707：ゴウケツモンスター粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・シメコナゾール 1.5 %・トルプロカルブ 3.0 %粒剤） 72

５０．登録番号 23708：サントリプル箱粒剤、
登録番号 23840：サンフェスタ箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %・トルプロカルブ 4.0 %粒剤） 72

５１．登録番号 23833：ハイパーキック箱粒剤、
登録番号 23834：ゴウケツバスター箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・トルプロカルブ 9.0 %粒剤） 73

５２．登録番号 24316：アースガーデン４
（エトフェンプロックス 0.020 %・ジノテフラン 0.010 %・ミルベメクチン 0.00050 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤） 74

５３．登録番号 24344：スタートレボン W10
（エトフェンプロックス 10.0 %・ジノテフラン 10.0 %乳剤） 75

５４．登録番号 24346：ブレードスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・フェリムゾン 15.0 %・フサライド 15.0 %水和剤） 75

５５．登録番号 24347：ブレードスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フェリムゾン 2.0 %・フサライド 1.5 %粉剤） 76

５６．登録番号 24413：マグァンプ K 殺虫剤入り
（ジノテフラン 0.20 %複合肥料） 77

５７．登録番号 24530：オーケストラスタークルエアー
（ジノテフラン 9.0 %・ベンズピリモキサン 10.0 %水和剤） 78

５８．登録番号 24608：ブレードスタークル R ゾル
（ジノテフラン 9.0 %・フェリムゾン 13.5 %・フサライド 13.5 %水和剤） 78

１．登録番号 **20805**：スタークル粒剤、
登録番号 **20806**：アルバリン粒剤、
登録番号 **20807**：ホクコースタークル粒剤、
登録番号 **20959**：三井東圧アルバリン粒剤、
登録番号 **22738**：スターガード粒剤
（ジノテフラン **1.0 %**粒剤）

（１）スタークル粒剤、アルバリン粒剤、ホクコースタークル粒剤及び三井東圧アルバリン粒剤

（１）-１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花粉	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花蜜	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 平均値 花粉	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 平均値 花蜜	推計暴露量(μg/bee) 接触	推計暴露量(μg/bee) 経口 成虫 単回	推計暴露量(μg/bee) 経口 成虫 反復	推計暴露量(μg/bee) 経口 幼虫	推計暴露量/毒性指標 接触	推計暴露量/毒性指標 経口 成虫/単回	推計暴露量/毒性指標 経口 成虫/反復	推計暴露量/毒性指標 経口 幼虫	被害防止方法
稲	ｳﾝｶ類等	3 kg/10 a	収穫7日前まで	3000	散布	土壌処理	P	0.30	0.086				-	0.00083		0.00031	-	**0.064**	**0.083**	**0.000094**	不要
きゅうり	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2 g/株* (1100 株/10 a)	育苗期	1100	株元散布	土壌処理	PN	0.11	0.063				-	0.0095		0.0078	-	**0.73**	**0.95**	**0.0024**	要
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等		定植時		植穴土壌混和				0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		育苗期		株元散布																
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株 (1100 株/10 a)		1100			PN	0.11	0.032				-	0.0047		0.0039	-	**0.36**	**0.47**	**0.0012**	不要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等		生育期 但し､収穫開始 14 日前まで				ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)														要
		2 g/株* (1100 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和		PN	0.11	0.063				-	0.0095		0.0078	-	**0.73**	**0.95**	**0.0024**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
									最大値		平均値		接触	経口			接触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
うり類(漬物用)	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株(555 株/10 a)	定植時	1110	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.032				-	0.0048		0.0039	-	**0.37**	**0.48**	**0.0012**	不要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等								0.10	0.029	0.058	0.015		0.0051	0.0026	0.0039		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
ﾒﾛﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株(590 株/10 a)	育苗期	590	株元散布	土壌処理	PN	0.059	0.017				-	0.0025		0.0021	-	**0.19**	**0.25**	**0.00063**	不要
			定植時		植穴土壌混和																
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2g/株*(590 株/10 a)	育苗期	1100	株元散布			0.11	0.034				-	0.0051		0.0042	-	**0.39**	**0.51**	**0.0013**	要
			定植時		植穴土壌混和				0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類		育苗期		株元散布																
			定植時		植穴土壌混和																
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類																				
すいか	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ	2 g/株(460 株/10 a)	定植時	920	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.092	0.026				-	0.0040		0.0033	-	**0.30**	**0.40**	**0.0010**	不要
			生育期但し、収穫 21 日前まで		株元散布		PN	0.092	0.026				-	0.0040		0.0033	-	**0.30**	**0.40**	**0.0010**	不要
			育苗期				PN	0.092	0.026				-	0.0040		0.0033	-	**0.30**	**0.40**	**0.0010**	不要
かぼちゃ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2 g/株(380 株/10 a)	定植時	760	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.076	0.021				-	0.0033		0.0027	-	**0.25**	**0.33**	**0.00082**	不要

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花粉	最大値 花蜜	平均値 花粉	平均値 花蜜	推計暴露量(μg/bee) 接触	経口 成虫 単回	経口 成虫 反復	経口 幼虫	推計暴露量/毒性指標 接触	経口 成虫/単回	経口 成虫/反復	経口 幼虫	被害防止方法
にがうり	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2 g/株 (150 株/10 a)	定植時	300	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.030	0.0086				-	0.0013		0.0011	-	**0.10**	**0.13**	**0.00032**	不要
ｽﾞｯｷｰﾆ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2 g/株* (1110 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.064				-	0.0095		0.0079	-	**0.73**	**0.95**	**0.0024**	要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類								0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
		1 g/株 (1110 株/10 a)	生育期但し､収穫開始14 日前まで	-	株元散布		ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)														要
なす	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2 g/株 (1000 株/10 a)	育苗期	2000	株元散布	土壌処理	P	0.20	0.057				-	0.00055		0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株 (1000 株/10 a)	定植時		植穴土壌混和																
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類																				
			育苗期		株元散布																
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株 (1000 株/10 a)	定植時	1000	植穴土壌混和			0.10	0.029					0.00028		0.00010		**0.021**	**0.028**	**0.000031**	
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等		生育期但し､収穫前日まで		株元散布																

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花粉	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花蜜	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 平均値 花粉	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 平均値 花蜜	推計暴露量(μg/bee) 接触	推計暴露量(μg/bee) 経口 成虫 単回	推計暴露量(μg/bee) 経口 成虫 反復	推計暴露量(μg/bee) 経口 幼虫	推計暴露量/毒性指標 接触	推計暴露量/毒性指標 経口 成虫/単回	推計暴露量/毒性指標 経口 成虫/反復	推計暴露量/毒性指標 経口 幼虫	被害防止方法
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株*(1700 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.10				-	0.015		0.012	-	**1.1**	**1.5**	**0.0037**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株*(1700 株/10 a)		1100				0.11	0.049					0.0073		0.0060	-	**0.56**	**0.73**	**0.0018**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
		1 g/株(1700 株/10 a)	生育期但し、収穫前日まで	-	株元散布		ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用に限る)														要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	1 g/株*(1700 株/10 a)	育苗期	1100			PN	0.11	0.049				-	0.0073		0.0060	-	**0.56**	**0.73**	**0.0018**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
ﾄﾏﾄ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	培土 1 L 当り 10 g	は種前	1056	培土混和	土壌処理	P	0.11	0.030				-	0.00029		0.00011	-	**0.022**	**0.029**	**0.000033**	不要
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株(1900 株/10 a)	定植時	3800	植穴土壌混和			0.38	0.11					0.0010		0.00039		**0.081**	**0.10**	**0.00012**	
			育苗期		株元散布																
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	1 g/株(1900 株/10 a)	生育期但し、収穫前日まで	1900				0.19	0.055					0.00052		0.00020		**0.040**	**0.052**	**0.000060**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		定植時		植穴土壌混和																

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花粉	最大値 花蜜	平均値 花粉	平均値 花蜜	推計暴露量(μg/bee) 接触	経口 成虫 単回	経口 成虫 反復	経口 幼虫	推計暴露量/毒性指標 接触	経口 成虫/単回	経口 成虫/反復	経口 幼虫	被害防止方法
ミニトマト	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	培土1 L 当り 10 g	は種前	1167	培土混和	土壌処理	P	0.12	0.034				-	0.00032		0.00012	-	**0.025**	**0.032**	**0.000037**	不要
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株 (2100 株/10 a)	定植時	4200	植穴土壌混和			0.42	0.12					0.0012		0.00043		**0.089**	**0.12**	**0.00013**	
			育苗期		株元散布																
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	1 g/株 (2100 株/10 a)	生育期但し、収穫前日まで	2100				0.21	0.060					0.00058		0.00022		**0.045**	**0.058**	**0.000066**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		定植時		植穴土壌混和																
とうがらし類	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株* (2080 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.12				-	0.018		0.015	-	**1.4**	**1.8**	**0.0045**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株* (2080 株/10 a)		1100				0.11	0.060					0.0089		0.0074	-	**0.69**	**0.89**	**0.0022**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
		1 g/株 (2080 株/10 a)	生育期但し、収穫開始14 日前まで	-	株元散布	土壌処理	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)														要
		1 g/株* (2080 株/10 a)	育苗期	1100			PN	0.11	0.060				-	0.0089		0.0074	-	**0.69**	**0.89**	**0.0022**	要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類								0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10 a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量 (μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									最大値		平均値		接 触	経口			接 触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
とうが らし (葉)	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 等	1 g/株* (2080 株 /10 a)	定植時 但し、収 穫 30 日 前まで	1100	植穴 土壌 混和	土壌 処理	PN	0.11	0.060				-	0.0089		0.0074	-	**0.69**	**0.89**	**0.0022**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜 濃度(μg/g)		推計暴露量 (μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
								最大値	平均値	接 触	経口			接 触	経口			
											成虫		幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
											単回	反復						
ｷｬﾍﾞﾂ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2 g/株	育苗期	株元 散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
	ｱｵﾑｼ等	3 g/株	定植時	植穴 土壌 混和														
	ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ	3 g/株																
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2 g/株			ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
	ｱｵﾑｼ等	3 g/株																
	ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ	3 g/株																
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2 g/株			ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	6 kg/10 a	は種時	播溝 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
			定植時	株元 散布														
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等		生育期 但し、収 穫 3 日前 まで															
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	9 kg/10 a																
わけぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	6 kg/10 a	生育期 但し、収 穫 21 日 前まで	株元 散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
らっきょう	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等		生育期 但し、収 穫前日ま で	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜 濃度(μg/g)		推計暴露量 (μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
								最大値	平均値	接 触	経口			接 触	経口			
											成虫		幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
											単回	反復						
にんじん	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	9 kg/10 a	は種時	播溝 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
ｾﾙﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2 g/株	定植時	植穴 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
だいこん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	6 kg/10 a	は種時	播溝 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	6 kg/10 a																
		12 kg/10 a		全面 土壌 混和														
		6 kg/10 a	生育期但し､収穫30 日前まで	散布														
	ﾀﾈﾊﾞｴ																	
ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	6 kg/10 a	定植時	土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		は種時	播溝 土壌 混和														
非結球あぶらな科葉菜類(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲを除く)					ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
かぶ					ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
ほうれんそう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類				ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜 濃度(μg/g)		推計暴露量 (μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
								最大値	平均値	接 触	経口			接 触	経口			
											成虫		幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
											単回	反復						
ﾚﾀｽ 非結球ﾚﾀｽ	ﾅﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	培土 1 L 当り 15 g	は種前	培土 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
		1 g/株	育苗期後 半	株元 散布														
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2 g/株	定植時	植穴 土壌 混和														
しゅんぎく	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	9 kg/10 a	は種時	播溝 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
			定植時	植溝 土壌 混和														
いちご	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ	1 g/株		植穴 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)													要
かんきつ(苗木)	ﾐｶﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ	20 g/株	育苗期	株元 散布	閉鎖系施設栽培以外では、開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する													要
なし(苗木)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	20 g/株(但し、10 a 当り 110 kg まで)	育苗期	株元 散布	閉鎖系施設栽培以外では、開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する													要
くわい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3 kg/10 a	収穫 30 日前 まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
ふき		20 kg/10 a	定植後～ 生育期(草 丈 20 cm 頃まで)但 し、収穫 45 日前ま で	土壌 表面 散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜 濃度(μg/g)		推計暴露量 (μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
								最大値	平均値	接触	経口			接触	経口			
											成虫		幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
											単回	反復						
しょうが	ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類	9 kg/10 a	生育期 但し、収 穫 14 日 前まで	株元 散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
ｵｸﾗ さやいんげん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		生育期 但し、収 穫開始 14 日前まで		ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)													要
さやえんどう 実えんどう	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類				ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)													要
だいず えだまめ	ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ	6 kg/10 a	は種時	播溝 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)													要
さとうきび	ｶﾝｼｬｺﾊﾞﾈﾅｶﾞｶﾒﾑｼ	9 kg/10 a	生育期 但し、 収穫 45 日前 まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
	ﾒｲﾁｭｳ類	9kg/10a																
葉ごぼう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	6 kg/10 a	は種時	全面 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)													不要
			生育期 但し、収 穫 21 日 前まで	株元 散布														
しそ	ﾏﾃﾞｲﾗｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ	2 g/株 (但し、10 a 当り 25 kg まで)	定植時	植穴 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培以外で使用する場合、開花させない)													要

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用
病害虫名</th><th rowspan="3">使用量</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">暴露
シナ
リオ</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th colspan="2">推計花粉・花蜜
濃度(μg/g)</th><th colspan="4">推計暴露量
(μg/bee)</th><th colspan="4">推計暴露量/毒性指標</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th rowspan="2">最大値</th><th rowspan="2">平均値</th><th rowspan="2">接
触</th><th colspan="3">経口</th><th rowspan="2">接
触</th><th colspan="3">経口</th></tr>
<tr><th colspan="2">成虫</th><th rowspan="2">幼虫</th><th rowspan="2">成虫/
単回</th><th rowspan="2">成虫/
反復</th><th rowspan="2">幼虫</th></tr>
<tr><th>単回</th><th>反復</th></tr>
<tr><td rowspan="3">食用ぎく</td><td rowspan="2">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>1 g/株
(但し､10 a 当り 30 kg まで)</td><td>定植時</td><td>植穴
土壌
混和</td><td colspan="14" rowspan="3">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(閉鎖系施設栽培での使用に限る)</td><td rowspan="3">要</td></tr>
<tr><td>20 kg/10 a</td><td>生育期
但し、収穫前日まで</td><td>株元
散布</td></tr>
<tr><td>ﾏﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ</td><td>2 g/株
(但し､10 a 当り 30 kg まで)</td><td>定植時</td><td>植穴
土壌
混和</td></tr>
<tr><td>茶</td><td>ｸﾜｼﾛｶｲｶﾞﾗﾑｼ</td><td>12 kg/10 a</td><td>摘採 7 日前
まで</td><td>株元
土壌
混和</td><td colspan="14">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(ミツバチが暴露しないと想定される作物)</td><td>不要</td></tr>
<tr><td rowspan="3">きく
ｶﾞｰﾍﾞﾗ</td><td>ﾏﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ</td><td>2 g/株
(但し､10 a 当り 30 kg まで)</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">植穴
土壌
混和</td><td colspan="14" rowspan="3">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(閉鎖系施設栽培での使用に限る)</td><td rowspan="3">要</td></tr>
<tr><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等</td><td>1 g/株
(但し､10 a 当り 30 kg まで)</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>20 kg/10 a</td><td>生育期</td><td>株元
散布</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用
病害虫名</th><th rowspan="3">使用量</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">暴露
シナ
リオ</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">有効
成分
投下量
(kg ai/ha)</th><th colspan="2">推計花粉・花蜜
濃度(μg/g)</th><th colspan="4">推計暴露量
(μg/bee)</th><th colspan="4">推計暴露量/毒性指標</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th rowspan="2">最大値</th><th rowspan="2">平均値</th><th rowspan="2">接
触</th><th colspan="3">経口</th><th rowspan="2">接
触</th><th colspan="3">経口</th></tr>
<tr><th colspan="2">成虫</th><th rowspan="2">幼虫</th><th rowspan="2">成虫/
単回</th><th rowspan="2">成虫/
反復</th><th rowspan="2">幼虫</th></tr>
<tr><th>単回</th><th>反復</th></tr>
<tr><td rowspan="2">花き類･観葉植物(きく､ｶﾞｰﾍﾞﾗを除く)</td><td>ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等</td><td>1 g/株
(但し､10 a 当り 30 kg まで)</td><td>定植時</td><td>植穴
土壌
混和</td><td colspan="14">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(開花前に収穫する作物以外は、閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)</td><td rowspan="2">要</td></tr>
<tr><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>20 kg/10 a</td><td>生育期</td><td rowspan="3">株元
散布</td></tr>
<tr><td>つつじ類</td><td>ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ</td><td>6 kg/10 a</td><td rowspan="2">発生初期</td><td colspan="14">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(「閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽）~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」または「発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」)</td><td>要</td></tr>
<tr><td>いぐさ</td><td>ｲｸﾞｻｼﾝﾑｼｶﾞ</td><td>4kg/10 a</td><td>散布</td><td>土壌
処理</td><td>P</td><td>0.40</td><td>0.11</td><td>-</td><td>0.0011</td><td>0.00041</td><td>-</td><td>0.085</td><td>0.11</td><td>0.00013</td><td>不要</td></tr>
</table>

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

*被害防止方法として「1.1 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課した上で、実測値を用いた推計暴露量の精緻化を実施

（２）スターガード粒剤

（２）-１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
									最大値		平均値		接触	経口			接触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
きゅうり	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株*(1100 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.063				-	0.0095		0.0078	-	**0.73**	**0.95**	**0.0024**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	1 g/株(1100 株/10 a)	生育期但し､収穫開始 14 日前まで	-	株元散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用に限る)															要
ﾒﾛﾝ	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株*(590 株/10 a)	定植時	1100	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.034				-	0.0051		0.0042	-	**0.39**	**0.51**	**0.0013**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株(590 株/10 a)		590				0.059	0.017				-	0.0025		0.0021	-	**0.19**	**0.25**	**0.00063**	不要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2 g/株*(590 株/10 a)		1100				0.11	0.034				-	0.0095		0.0078	-	**0.73**	**0.95**	**0.0024**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
すいか	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ	2 g/株(460 株/10 a)	定植時	920	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.092	0.026				-	0.0040		0.0033	-	**0.30**	**0.40**	**0.0010**	不要
			生育期但し､収穫 21 日前まで		株元散布	土壌処理	PN	0.092	0.026				-	0.0040		0.0033	-	**0.30**	**0.40**	**0.0010**	不要

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
									最大値		平均値		接触	経口			接触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
かぼちゃ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2 g/株(380 株/10 a)	定植時	760	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.076	0.021				-	0.0033		0.0027	-	**0.25**	**0.33**	**0.00082**	不要
なす	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等	2 g/株(1000 株/10 a)	定植時	2000	植穴土壌混和	土壌処理	P	0.20	0.057				-	0.00055		0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類																				
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株(1000 株/10 a)	生育期但し、収穫前日まで	1000	株元散布			0.10	0.029					0.00028		0.00010		**0.021**	**0.028**	**0.000031**	
			定植時		植穴土壌混和																
ﾄﾏﾄ	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2 g/株(1900 株/10 a)	定植時	3800	植穴土壌混和	土壌処理	P	0.38	0.11				-	0.0010		0.00039	-	**0.081**	**0.10**	**0.00012**	不要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類																				
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株(1900 株/10 a)	生育期但し、収穫前日まで	1900	株元散布			0.19	0.055					0.00052		0.00020		**0.040**	**0.052**	**0.000060**	
			定植時		植穴土壌混和																
ﾐﾆﾄﾏﾄ	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	2 g/株(2100 株/10 a)	定植時	4200	植穴土壌混和	土壌処理	P	0.42	0.12				-	0.0012		0.00043	-	**0.089**	**0.12**	**0.00013**	不要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類																				
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株(2100 株/10 a)	生育期但し、収穫前日まで	2100	株元散布			0.21	0.060					0.00058		0.00022		**0.045**	**0.058**	**0.000066**	
			定植時		植穴土壌混和																

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	最大 使用 量 (g/10 a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量 (μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									最大値		平均値		接 触	経口			接 触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2 g/株* (1700 株 /10 a)	定植時	1100	植穴 土壌 混和	土壌 処理	PN	0.11	0.10				-	0.015		0.012	-	**1.1**	**1.5**	**0.0037**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株* (1700 株 /10 a)		1100				0.11	0.049				-	0.0073		0.0060	-	**0.56**	**0.73**	**0.0018**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
		1 g/株 (1700 株 /10 a)	生育期 但し、収 穫前日ま で	-	株元 散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)															要
とうがらし 類	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2 g/株* (2080 株 /10 a)	定植時	1100	植穴 土壌 混和	土壌 処理	PN	0.42	0.12				-	0.018		0.015	-	**1.4**	**1.8**	**0.0045**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1 g/株* (2080 株 /10 a)		1100				0.21	0.060				-	0.0089		0.0074	-	**0.69**	**0.89**	**0.0022**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
		1 g/株 (2080 株 /10 a)	生育期 但し、収 穫開始 14 日前まで	-	株元 散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)															要
ｷｬﾍﾞﾂ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2 g/株	定植時	-	植穴 土壌 混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
	ｱｵﾑｼ等	3 g/株																			
	ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ	3 g/株																			

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
									最大値		平均値		接触	経口			接触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2 g/株	定植時	-	植穴土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
	ｱｵﾑｼ等	3 g/株																			
	ﾊｲﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ	3 g/株																			
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2 g/株			植穴土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	6 g/m^2			株元散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
			生育期但し、収穫3日前まで	-																	
にんじん	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	9 g/m^2	は種時	-	播溝土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
だいこん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	6 g/m^2	は種時	-	播溝土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	6 g/m^2																			
		9 g/m^2			全面土壌混和																
		6 g/m^2	生育期但し、収穫30日前まで	-	散布																

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
									最大値		平均値		接触	経口			接触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	6 g/m^2	定植時	-	土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
非結球あぶらな科葉菜類(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		は種時	-	播溝土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
かぶ						ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
ほうれんそう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類					ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
だいずえだまめ	ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ					ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)															要
しゅんぎく	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	9 g/m^2				ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
			定植時	-	植溝土壌混和																
いちご	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ	1 g/株			植穴土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)															要
ｵｸﾗ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	9 g/m^2	生育期但し、収穫開始14日前まで	-	株元散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)															要
さやえんどう	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類					ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)															要

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	最大使用量(g/10 a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g)				推計暴露量(μg/bee)				推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
									最大値		平均値		接触	経口			接触	経口			
														成虫		幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
									花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
ﾚﾀｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2 g/株	定植時	-	植穴土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
しそ	ﾏﾃﾞｲﾗｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ	2 g/株 (但し、1 m^{2}当り 25 g まで)				ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培以外で使用する場合、開花させない)															要
きく ｶﾞｰﾍﾞﾗ	ﾏﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	2g/株 (但し､1 m^{2}当り 30 g まで)	定植時	-	植穴土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)															要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等	1 g/株 (但し､1 m^{2}当り 30 g まで)																			
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	20 g/m^2	生育期	-	株元散布																
花き類･観葉植物(きく､ｶﾞｰﾍﾞﾗを除く)		1 g/株 (但し､1 m^{2}当り 30 g まで)	定植時	-	植穴土壌混和	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (開花前に収穫する作物以外は、閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)															要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類																				
つつじ類	ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ	6 g/m^2	発生初期	-	株元散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (「閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽）~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」または「発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」)															要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

*被害防止方法として「1.1 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課した上で、実測値を用いた推計暴露量の精緻化を実施

２．登録番号 20808：スタークル箱粒剤、
登録番号 20960：三井東圧アルバリン箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲(箱育苗)	ｳﾝｶ類等	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約5 L) 1箱当り50 g	は種前	1000	育苗箱の 床土又は覆土に均一に混和する。	土壌 処理	P	0.20	0.057	-	0.00055	0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要
			は種時覆土前 ～ 移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。												
	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ		移植3日前 ～ 移植当日														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３．登録番号 **20811**：スタークル顆粒水溶剤、
登録番号 **20812**：アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 **20813**：ホクコースタークル顆粒水溶剤、
登録番号 **20961**：三井東圧アルバリン顆粒水溶剤、
登録番号 **22130**：わさび用緑風 **SG**
（ジノテフラン **20.0 %**水溶剤）

（１）スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、ホクコースタークル顆粒水溶剤及び三井東圧アルバリン顆粒水溶剤

（１）－１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量(µg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｶﾒﾑｼ類	2000	150 L/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価											
	ｳﾝｶ類等	3000																
未成熟とうもろこし	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布		ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
とうもろこし(子実)	ﾑｷﾞｸﾋﾞﾚｱﾌﾞﾗﾑｼ等																	
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布		ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000																
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等																	

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
ﾄﾏﾄ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	100	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5 L	鉢上時又は定植時	灌注	土壌処理	P	0.26	0.20	0.076	-	0.00073	0.00027	-	**0.056**	**0.073**	**0.000083**	不要
ﾐﾆﾄﾏﾄ								0.29	0.20	0.084	-	0.00080	0.00030	-	**0.062**	**0.080**	**0.000091**	不要
ﾄﾏﾄ ﾐﾆﾄﾏﾄ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｶﾒﾑｼ類	2000																
なす	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000																
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	2000																

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
とうがらし類	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000																
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	2000																
とうがらし(葉)	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000																
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000																
かぼちゃ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
かぼちゃ*	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	100	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5 L (380株/10 a)	定植前日~定植時	灌注	土壌処理	PN	0.076	0.20	0.022	-	0.0032	0.0027	-	**0.25**	**0.33**	**0.00082**	不要

*50 穴セル成型育苗トレイを使用した育苗を想定して有効成分投下量を算出

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
きゅうり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	2000																
すいか	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
ﾒﾛﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10 a	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000																
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000																
うり類(漬物用)	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000																
にがうり	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
ｽﾞｯｷｰﾆ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000																要
まくわうり	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
きゅうり(葉)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
きゅうり(花)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	100	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5 L	定植時	灌注	土壌処理												
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												不要
	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ等	2000																

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)				推定暴露量(μg/bee)				推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										最大値(μg/g)		平均値(μg/g)		接触	経口			接触	経口			
															成虫		幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
										花粉	花蜜	花粉	花蜜		単回	反復						
キャベツ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(ミツバチが暴露しないと想定される作物)															不要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	50	ﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約3 L)当り0.5 L	定植前日～定植時	灌注	土壌処理																
レタス非結球ﾚﾀｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布																
	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	50	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5 L	定植前日～定植時	灌注	土壌処理																
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等																					
非結球あぶらな科葉菜類(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ、畑わさびを除く)かぶ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布																
	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	2000																				
ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布																
	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	2000																				
畑わさび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布																
わさび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	畑育苗期	散布	茎葉散布	PN	0.30	0.010	29				-*	4.4		3.6	-*	340	440	1.1	不要
										0.02	0.01	0.02	0.01		0.0016	0.0016	0.0013		0.12	0.16	0.00039	

*畑育苗期には開花しないため

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
だいこん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
	ﾀﾞｲｺﾝﾊﾑｼ	2000																
	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ	1000																
ｸﾚｿﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	50	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱またはﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5 L	定植前日～定植時	灌注	土壌処理												
	ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類等	1000	1 L/m^2	生育期但し、収穫14日前まで	株元灌注													
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	400	0.4 L/m^2															
たまねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	50	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ1箱又はﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊(30×60 cm・使用土壌約1.5~4.0 L)当り0.5　L	定植前日～定植時	灌注	土壌処理												
にら	ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ等	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布												
	ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ	400	0.4 L/m^2	生育期但し、収穫14日前まで	株元灌注	土壌処理												
	ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類	1000	1 L/m^2															
わけぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等	400	0.4 L/m^2	生育期但し、収穫14日前まで	株元灌注	土壌処理												

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等	2000	800 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
らっきょう	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
さとうきび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布												
にんじん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布												
	ﾄﾋﾞｲﾛﾋｮｳﾀﾝｿﾞｳﾑｼ等	400	0.4 L/m^2	生育期但し、収穫21日前まで	株元灌注	土壌処理												
ｾﾙﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫14日前まで	散布	茎葉散布												
ほうれんそう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												
しゅんぎく	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布												
みつば	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	散布	茎葉散布												

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
だいず	ｶﾒﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ	3000																
あずき	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、未成熟ささげ、未成熟そらまめを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
えだまめ	ｶﾒﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ	3000																要
未成熟ささげ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
さやいんげん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
さやえんどう実えんどう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
未成熟そらまめ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
しょうが	ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
ｵｸﾗ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
ばれいしょ	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
かんしょ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
せり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布												
せり (水耕栽培)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												
すいぜんじな	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布												
ﾓﾛﾍｲﾔ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布												
なんてん(葉)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)											要
ふき	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
りんご	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	700 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)											要
もも ﾈｸﾀﾘﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等																	
おうとう	ｵｳﾄｳｼｮｳｼﾞｮｳﾊﾞｴ																	
なし	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等																	
かき	ｶﾒﾑｼ類等																	
ぶどう	ﾌﾀﾃﾝﾋﾒﾖｺﾊﾞｲ	3000																
	ｶﾒﾑｼ類等	2000																
	ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	1000																
ﾗｽﾞﾍﾞﾘｰ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	2000																
かんきつ	ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ等	1000																
	ｺﾞﾏﾀﾞﾗｶﾐｷﾘ	1000																
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000																
小粒核果類	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000																
ｷｳｲﾌﾙｰﾂ	ｶﾒﾑｼ類	1000																
ﾏﾝｺﾞｰ	ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	2000																
びわ	ｶﾒﾑｼ類等																	
あけび(果実)	ｶﾒﾑｼ類			収穫14日前まで														
ｵﾘｰﾌﾞ				収穫前日まで														
ｵﾘｰﾌﾞ(葉)				収穫14日前まで														
茶	ﾁｬﾉﾎｿｶﾞ	2000	400 L/10	摘採7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
てんさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	収穫7日前まで														
	ｶﾒﾉｺﾊﾑｼ	1000																
	ｶﾒﾉｺﾊﾑｼ等	100	5 L/ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ 6冊(2.5 L/ m2)	移植前	灌注	土壌処理												
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	100	6 L/ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ 6冊(3 L/m2)															

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
かんきつ(苗木)	ﾐｶﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ	50	100 mL/株	育苗期	株元灌注	土壌	ミツバチが暴露しないと想定されるため評価不要 (閉鎖系施設栽培以外では、開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する											要
えごま(種子)	ｶﾒﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
ｱﾏﾗﾝｻｽ(茎葉)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
しそ(花穂)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要
しそ科葉菜類 (しそ、ﾊﾞｼﾞﾙを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培以外で使用する場合、えごま(葉)については、開花させない、それ以外の作物については、発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)											要
しそ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培以外で使用する場合、開花させない)											要
ﾊﾞｼﾞﾙ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培以外で使用する場合、開花させない)											要
しょくようほおずき	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
食用ﾐﾆﾊﾞﾗ 食用ｶｰﾈｰｼｮﾝ 食用ﾊﾟﾝｼﾞｰ 食用金魚草 食用ﾄﾚﾆｱ 食用なでしこ 食用ﾌﾟﾘﾑﾗ 食用ｴｷｻﾞｶﾑ 食用せんにちこう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫3日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
食用ｺｽﾓｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要
食用ぎく	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	3000	300 L/10	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要
花き類・観葉植物(きくを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	発生初期	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (開花前に収穫する作物以外は、閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	1000	1 L/m^2		灌注	土壌処理	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (開花前に収穫する作物以外は、閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
きく	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	300 L/10	発生初期	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要
	ｶﾒﾑｼ類	2000	300 L/10		散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要
	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類	1000	1 L/m^2		灌注	土壌処理	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)											要
樹木類(つつじ類、つばき類を除く)	ｹﾑｼ類	2000	700 L/10	発生初期	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (「閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」または「発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」)											要

作物名	適用場所	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
												接触	経口		接触	経口			
													成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
つつじ類	―	ﾂﾂｼﾞｸﾞﾝﾊﾞｲ等	2000	300 L/10	発生初期	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (「閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽）~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」または「発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」)											要
つばき類		ｹﾑｼ類	2000	700 L/10	発生初期	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (「閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽）~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」または「発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」)											要
		ﾁｬﾄﾞｸｶﾞ	100	0.5~2 L/樹(但し、220 L /10 a まで)	発生初期	株元灌注	土壌処理	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (「閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽）~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」または「発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る」)											要
いぐさ		ｲｸﾞｻｼﾝﾑｼｶﾞ	1000	150 L/10	発生初期	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
いね科*牧草		ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	2000	300 L/10	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価											要
かき	―	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	1	40 g/樹	発芽前~発芽期	本剤1 g当り水1 mLの割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する。	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)											要
ぶどう		ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類		40 g/樹				ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)											要
		ｸﾋﾞｱｶｽｶｼﾊﾞ		40 g/樹	幼果期まで但し、収穫30日前まで														

＊：被害防止方法として「150 L/10 a を超えて使用した場合は、開花前に収穫する」を課した上で、第 2 段階評価を実施

（２）わさび用緑風 SG

（２）－１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
わさび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	2000	200 L/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	PN	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する)										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

４．登録番号 20814：スタークル粉剤 DL、登録番号 20815：アルバリン粉剤 DL、登録番号 20816：ホクコースタークル粉剤 DL、登録番号 20962：三井東圧アルバリン粉剤 DL（ジノテフラン 0.50 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｳﾝｶ類等	3 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
だいずえだまめ	ｶﾒﾑｼ類等		収穫7日前まで			PN	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)										要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５．登録番号 20836：スタークルトレボン粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.30 %・ジノテフラン 0.50 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｳﾝｶ類等	3 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

６．登録番号 21025：ホクコーラブサイドスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フサライド 2.5 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	ｲﾅｺﾞ類等	4 kg/10 a															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

７．登録番号 21027：ビームスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	4 kg/10 a															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

８．登録番号 21191：ビームバシスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・メプロニル 3.0 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)等	4 kg/10 a															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

９．登録番号 21228：側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤
（ジノテフラン 4.0 %・プロベナゾール 48.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量 (g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量 (kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	500 g/10 a	移植時	500	ﾍﾟｰｽﾄ肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	土壌処理	P	0.20	0.057	-	0.00055	0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１０．登録番号 21248：スタークル L 粉剤 DL、
登録番号 21435：スタークルメイト L 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量 (kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度 (µg/g)	推定暴露量 (µg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｳﾝｶ類等	3 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	ｶﾒﾑｼ類	4 kg/10 a															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１１．登録番号 21259：スタークル液剤 10、
登録番号 21260：スタークルメイト液剤 10、
登録番号 24582：アルバリン液剤 10
（ジノテフラン 10.0 %液剤）

（１）スタークル液剤 10 及びスタークルメイト液剤 10

（１）-１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｳﾝｶ類	30	3 L/10 a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	ｳﾝｶ類等	16	1.6 L/10 a		散布													
	ｳﾝｶ類等	1000	150 L/10 a		散布													
	ｳﾝｶ類等	300	25 L/10 a		散布													
	ｳﾝｶ類等	8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													
	ｳﾝｶ類等	30	3 L/10 a		空中散布													

<table>
<tr><th rowspan="2">作物名</th><th rowspan="2">適用
病害虫</th><th rowspan="2">最小
希釈
倍率
(倍)</th><th rowspan="2">最大
使用量</th><th rowspan="2">使用
時期</th><th rowspan="2">使用
方法</th><th rowspan="2">暴露
シナ
リオ</th><th rowspan="2">※</th><th rowspan="2">ha当たり
の有効成
分投下量
(kg ai/ha)</th><th rowspan="2">散布液/
粉中有
効成分
濃度(%)</th><th rowspan="2">推定花
粉・花
蜜濃度
(μg/g)</th><th colspan="3">推定暴露量
(μg/bee)</th><th colspan="4">推定暴露量/毒性指標</th><th rowspan="2">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th rowspan="2">接触</th><th colspan="2">経口</th><th rowspan="2">接触</th><th colspan="3">経口</th></tr>
<tr><th>成虫</th><th>幼虫</th><th>成虫/
単回</th><th>成虫/
反復</th><th>幼虫</th></tr>
<tr><td rowspan="2">小麦</td><td rowspan="5">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>1000</td><td>150 L/10 a</td><td rowspan="3">収穫7日
前まで</td><td>散布</td><td rowspan="8">茎葉
散布</td><td colspan="14" rowspan="7">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(ミツバチが暴露しないと想定される作物)</td><td rowspan="7">不要</td></tr>
<tr><td>8</td><td>0.8 L/10 a</td><td rowspan="6">無人航
空機
による
散布</td></tr>
<tr><td>だいこん</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="5">1.6 L/10 a</td></tr>
<tr><td>ｷｬﾍﾞﾂ</td><td rowspan="3">収穫3日
前まで</td></tr>
<tr><td>ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ</td></tr>
<tr><td>ねぎ</td><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類</td><td>10</td></tr>
<tr><td rowspan="2">さとうきび</td><td rowspan="2">ｶﾝｼｬｺﾊﾞﾈﾅ
ｶﾞｶﾒﾑｼ等</td><td>1000</td><td>300 L/10 a</td><td rowspan="2">収穫7日
前まで</td><td>散布</td></tr>
<tr><td>14</td><td>2.4 L/10 a</td><td rowspan="5">無人航
空機
による
散布</td></tr>
<tr><td>らっきょう</td><td>ｱｻﾞﾐｳﾏ類等</td><td rowspan="4">8</td><td rowspan="4">1.6 L/10 a</td><td>収穫前
日まで</td></tr>
<tr><td>かんしょ</td><td rowspan="3">ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td rowspan="3">収穫3日
前まで</td></tr>
<tr><td>はくさい</td></tr>
<tr><td>ﾚﾀｽ
非結球ﾚﾀｽ</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>ｶﾒﾑｼ類</td><td>20</td><td>8 L/10 a</td><td>収穫前
日まで</td><td>無人航
空機
による
散布</td><td colspan="14">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)</td><td>要</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用
病害虫</th><th rowspan="3">最小
希釈
倍率
(倍)</th><th rowspan="3">最大
使用量</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">暴露
シナ
リオ</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">ha当たり
の有効成
分投下量
(kg ai/ha)</th><th rowspan="3">散布液/
粉中有
効成分
濃度(%)</th><th rowspan="3">推定花
粉・花
蜜濃度
(μg/g)</th><th colspan="3">推定暴露量
(μg/bee)</th><th colspan="4">推定暴露量/毒性指標</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th rowspan="2">接触</th><th colspan="2">経口</th><th rowspan="2">接触</th><th colspan="3">経口</th></tr>
<tr><th>成虫</th><th>幼虫</th><th>成虫/単
回</th><th>成虫/
反復</th><th>幼虫</th></tr>
<tr><td>いね科牧草*</td><td>ｱﾌﾞﾗﾑｼ類</td><td>1000</td><td>300
L/10 a</td><td>収穫
7日前
まで</td><td>散布</td><td rowspan="4">茎葉
散布</td><td>P</td><td colspan="12">【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価</td><td>要</td></tr>
<tr><td rowspan="3">だいず
えだまめ</td><td rowspan="3">ｶﾒﾑｼ類等</td><td>1000</td><td>300
L/10 a</td><td rowspan="3">収穫
7日前
まで</td><td>散布</td><td rowspan="3">PN</td><td colspan="12">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)</td><td rowspan="3">要</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8</td><td rowspan="2">0.8
L/10 a</td><td>無人航
空機
による
散布</td></tr>
<tr><td>空中
散布</td><td colspan="12">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(開花期終了後の使用に限る)</td></tr>
</table>

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花)

＊：被害防止方法として「150 L/10 a を超えて使用した場合は、開花前に収穫する」を課した上で、第 2 段階評価を実施

（以下の適用はスタークルメイトのみ）

<table>
<tr><th rowspan="3">作物名</th><th rowspan="3">適用病害虫</th><th rowspan="3">最小希
釈倍率
(倍)</th><th rowspan="3">最大使用量</th><th rowspan="3">使用
時期</th><th rowspan="3">使用
方法</th><th rowspan="3">暴露
シナ
リオ</th><th rowspan="3">※</th><th rowspan="3">ha当たりの
有効成分投
下量(kg
ai/ha)</th><th rowspan="3">散布液/
粉中有
効成分
濃度(%)</th><th rowspan="3">推定花
粉・花
蜜濃度
(μg/g)</th><th colspan="3">推定暴露量
(μg/bee)</th><th colspan="4">推定暴露量/毒性指標</th><th rowspan="3">被害
防止
方法</th></tr>
<tr><th rowspan="2">接触</th><th colspan="2">経口</th><th rowspan="2">接触</th><th colspan="3">経口</th></tr>
<tr><th>成虫</th><th>幼
虫</th><th>成虫/
単回</th><th>成虫/
反復</th><th>幼虫</th></tr>
<tr><td>そてつ</td><td>ｿﾃﾂｼﾛｶｲｶﾞﾗﾑｼ</td><td>5</td><td>800 mL/株</td><td>新葉
展開前</td><td>株元
灌注</td><td>土壌
処理</td><td>P</td><td colspan="12">ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要
(開花している場合は摘花してから使用し、使用後は開花期終了まで摘花する)</td><td>不要</td></tr>
</table>

（２）アルバリン液剤 10
（２）－１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量(µg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
小麦	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	8	0.8 L/10 a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
だいこん		8	1.6 L/10 a															
ｷｬﾍﾞﾂ				収穫3日前まで														
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ																		
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	10																
かんしょ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	8																
はくさい																		
ﾚﾀｽ 非結球ﾚﾀｽ																		
かき	ｶﾒﾑｼ類	20	8 L/10 a	収穫前日まで			ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)											要

１２．登録番号 21276：スタークル１キロ H 粒剤、
登録番号 21277：スタークルメイト１キロ H 粒剤
（ジノテフラン 3.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ｳﾝｶ類等	1 kg/10 a	出穂5日前まで	1000	散布 無人航空機 による散布	土壌 処理	P	0.30	0.086	-	0.00083	0.00031	-	**0.064**	**0.083**	**0.000094**	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１３．登録番号 21496：ビルダースタークル箱粒剤、
登録番号 21497：ホクコービルダースタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲(箱育苗)	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ等	育苗箱(30×60×3 cm 使用土壌約5 L) 1箱当り50 g	移植3日前～移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌処理	P	0.20	0.057	-	0.00055	0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要
	ｳﾝｶ類等		緑化期～移植当日														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１４．登録番号 21607：スタークルエアー50、
登録番号 21608：スタークルメイトエアー50、
登録番号 24012：ファームスター顆粒水溶剤 50
（ジノテフラン 50.0 %水溶剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｶﾒﾑｼ類等	40	0.8 L/10 a	収穫7日前まで	無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
					空中散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１５．登録番号 21710：ホクコーラブサイドスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0%・フサライド 12.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	500	150 L/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	いもち病等	150	25 L/10 a															
	いもち病等	4	0.8 L/10 a		無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布													
		原液	0.2 L/10 a		空中散布			ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (開花期終了後の使用に限る)										要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１６．登録番号 21801：ワイドナーエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量(μg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	紋枯病等	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１７．登録番号 **21871**：コラトップスタークル１キロ粒剤
（ジノテフラン **5.0 %**・ピロキロン **15.0 %**粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	いもち病等	1 kg/10 a	出穂5日 前まで	1000	散布 無人航空機 による散布	土壌 処理	P	0.50	0.14	-	0.0014	0.00052	-	**0.11**	**0.14**	**0.00016**	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１８．登録番号 **21886**：イモチエーススタークル粒剤、
登録番号 **21888**：ホクコーイモチエーススタークル粒剤
（ジノテフラン **1.67 %**・メトミノストロビン **4.0 %**粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	いもち病等	3 kg/10 a	収穫35日前まで	3000	湛水散布	土壌 処理	P	0.50	0.14	-	0.0014	0.00052	-	**0.11**	**0.14**	**0.00016**	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

１９．登録番号 21975：トレボンスター粉剤 DL
（エトフェンプロックス 0.40 %・ジノテフラン 0.20 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ等	4 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	ｳﾝｶ類等	4 kg/10 a															
だいず	ｶﾒﾑｼ類等	4 kg/10 a	収穫14日前まで			ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２０．登録番号 22036：ビームエイトスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	1000	150 L/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		250	25 L/10 a															
		8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２１．登録番号 22037：トレボンスターフロアブル
（エトフェンプロックス 7.0 %・ジノテフラン 3.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｶﾒﾑｼ類等	1000	150 L/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	ｶﾒﾑｼ類	300	25 L/10 a															
	ｶﾒﾑｼ類等	8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													
だいず	ｶﾒﾑｼ類							ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)										要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２２．登録番号 22063：日農ビームアプロードスタークル粉剤５DL、
登録番号 22064：クミアイビームアプロードスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｳﾝｶ類等	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２３．登録番号 22102：ビームモンセレンスタークル粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫21日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２４．登録番号 22180：サジェスト微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・ペンシクロン 1.5 %粉粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫21日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２５．登録番号 22268：ビームモンカットスタークル F 粉剤５DL
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２６．登録番号 22332：スタークル豆つぶ、
登録番号 22333：クミアイスタークル豆つぶ、
登録番号 22495：スタークルメイト豆つぶ
（ジノテフラン 12.0 %剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
									接触	経口		接触	経口			
										成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｶﾒﾑｼ類等	250 g/10 a	収穫7日前まで	散布	土壌処理	P	0.30	0.086	-	0.00083	0.00031	-	**0.064**	**0.083**	**0.000094**	不要
	ｳﾝｶ類等	500 g/10 a					0.60	0.17	-	0.0017	0.00062	-	**0.13**	**0.17**	**0.00019**	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２７．登録番号 22416：Dr．オリゼスタークル箱粒剤、
登録番号 22417：明治 Dr．オリゼスタークル箱粒剤、
登録番号 23950：オリザエートスター箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 25.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲(箱育苗)	いもち病等	育苗箱(30×60×3 cm 使用土壌約5 L) 1箱当り50 g	緑化期～移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌処理	P	0.20	0.057	-	0.00055	0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要
	ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ		移植3日前～移植当日														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２８．登録番号 22426：ビームスタークル微粒剤 F
（ジノテフラン 0.35 %・トリシクラゾール 0.50 %粉粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量(µg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

２９．登録番号 22479：ダブルカットスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.11 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	穂揃期まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	4 kg/10 a															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３０．登録番号 22642：ホクコートップジンスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・チオファネートメチル 2.0 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３１．登録番号 22660：MIC ビルダーフェルテラスタークル箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 2.0 %・プロベナゾール 10.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲(箱育苗)	白葉枯病等	育苗箱(30×60×3 cm 使用土壌約5 L) 1箱当り50 g	移植3日前～移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌処理	P	0.20	0.057	-	0.00055	0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要
	いもち病等		緑化期～移植当日														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３２．登録番号 22661：クミアイアプロードスタークルゾル、
登録番号 22662：アプロードスタークルゾル
（ジノテフラン 9.0 %・ブプロフェジン 18.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量(µg/bee)			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ｳﾝｶ類等	1000	150 L/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３３．登録番号 22725：キックオフ顆粒水和剤
（クロラントラニリプロール 4.0 %・ジノテフラン 15.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
なし	ｶﾒﾑｼ類等	2000	700 L/10 a	収穫前日まで	散布	茎葉散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)											不要
もも ﾈｸﾀﾘﾝ	ｼﾝｸｲﾑｼ類等			収穫3日前まで														
うめ	ｹﾑｼ類等			収穫14日前まで														
かき	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類等			収穫前日まで														
さとうきび	ｶﾝｼｬｺﾊﾞﾈﾅｶﾞｶﾒﾑｼ等		300 L/10 a	収穫30日前まで			ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)											不要
ｷｬﾍﾞﾂ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	100	ｾﾙ成型育ﾚｲ1箱またﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ1冊（30×cm・使用薬約1.5~4.0当り0.5 L	定植前日~定植時	灌注	土壌処理												
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等																	
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等																	
ﾚﾀｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等																	
非結球ﾚﾀｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等																	
ねぎ	ﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ類等																	

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３４．登録番号 22784：アプロードモンカットスタークル F 粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	紋枯病等	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３５．登録番号 22924：ホクコートップジンスタークルフロアブル
（ジノテフラン 5.0 %・チオファネートメチル 20.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	500	150 L/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		150	25 L/10 a															
	いもち病等	4	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													
		15	3 L/10 a		空中散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３６．登録番号 22981：ダブルカットバリダスタークル粉剤３DL
（ジノテフラン 0.35 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン 0.30 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	穂揃期まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	4 kg/10 a															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３７．登録番号 22995：ダブルカットスタークルフロアブル
（ジノテフラン 10.0 %・カスガマイシン 1.37 %・トリシクラゾール 8.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(μg/g)	推定暴露量（μg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	1000	150 L/10 a	穂揃期まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		300	25 L/10 a															
		8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													
					空中散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３８．登録番号 23074：アトラクトン箱粒剤、
登録番号 23075：スターダム箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲(箱育苗)	ｶﾒﾑｼ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌処理	P	1.2	0.34	-	0.0033	0.0012	-	**0.25**	**0.33**	**0.00038**	不要
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り50~100 g)															
	ｳﾝｶ類等		移植3日前～移植当日														
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

３９．登録番号 23076：Dr．オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23077：明治 Dr．オリゼスタークル箱粒剤 OS、
登録番号 23078：ロングリーチ箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・プロベナゾール 24.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲 (箱育苗)	ｶﾒﾑｼ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌 処理	P	1.2	0.34	-	0.0033	0.0012	-	**0.25**	**0.33**	**0.00038**	不要
	ｳﾝｶ類等		移植3日前 ~ 移植当日														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

４０．登録番号 23113：イッカツエース粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・カスガマイシン 0.34 %・トリシクラゾール 0.50 %・バリダマイシン 0.30 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	穂揃期まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

４１．登録番号 23365：フェルテラスタークル箱粒剤 CU
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲 (箱育苗)	ｳﾝｶ類等	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌処理	P	0.60	0.17	-	0.0017	0.00062	-	**0.13**	**0.17**	**0.00019**	不要
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)															
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時覆土前～移植当日														
	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	移植3日前～移植当日														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

４２．登録番号 23370：スケルカット顆粒水和剤、
登録番号 23371：スケルノック顆粒水和剤
（ジノテフラン 40.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

・スケルカット顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	適用作物の花粉・花蜜の有無	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
りんご	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	2000	700 L/10 a	収穫前日まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)												要
	ｼﾝｸｲﾑｼ類	2000																

・スケルノック顆粒水和剤

作物名	適用病害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	適用作物の花粉・花蜜の有無	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
りんご	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	2000	700 L/10 a	収穫前日まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)												要

４３．登録番号 23372：スターガードプラス AL
（ジノテフラン 0.010 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍数	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	適用作物の 花粉・ 花蜜の 有無	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									接 触	経口		接 触	経口			
										成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
なす	うどんこ病等	原液	収穫前日まで	散布	ｴｱｿﾞﾙ剤等、一度に広範囲かつ多量に使用されることがないため暴露量の推計不要											不要
ﾋﾟｰﾏﾝ	うどんこ病等															
ﾄﾏﾄ ﾐﾆﾄﾏﾄ	葉かび病等															
ｵｸﾗ さやいんげん さやえんどう 実えんどう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
きゅうり	うどんこ病等															
すいか	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫7日前まで													
ﾒﾛﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		収穫3日前まで													
ｷｬﾍﾞﾂ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
ﾚﾀｽ 非結球ﾚﾀｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等															
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、未成熟ささげを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫7日前まで													
えだまめ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫7日前まで													

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍数	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	適用作物の 花粉・ 花蜜の 有無	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									接 触	経口		接 触	経口			
										成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
未成熟ささげ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫前日まで													
かんきつ	ﾐｶﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ		収穫前日まで													
りんご	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
なし	ｹﾑｼ類等															
かき	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類															
ぶどう	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類等		収穫7日前まで													
うめ もも	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫前日まで													
おうとう	ｶﾒﾑｼ類															
ばら	うどんこ病等		発生初期													
花き類・観葉植物 (ばらを除く)	うどんこ病等															
樹木類(つつじ類、 つばき類を除く)	ｹﾑｼ類等															
つばき類	ｹﾑｼ類等															
つつじ類	ｹﾑｼ類等															

４４．登録番号 23405：トライスタークル粉剤 DL、
登録番号 23407：クミアイトライスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・テブフロキン 1.0 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

４５．登録番号 23506：オールスタースプレー
（ジノテフラン 0.010 %液剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍数	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	適用作物の 花粉・ 花蜜の 有無	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									接 触	経口		接 触	経口			
										成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等	原液	収穫前日まで	希釈せず そのまま 散布する	ｴｱｿﾞﾙ剤等、一度に広範囲かつ多量に使用されることがないため暴露量の推計不要											不要
ﾄﾏﾄ ﾐﾆﾄﾏﾄ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等															
なす	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等															
すいか	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫7日前まで													
とうがらし類	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等		収穫前日まで													
とうがらし(葉)			収穫14日前まで													
にがうり	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		収穫前日まで													
かぼちゃ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
ｽﾞｯｷｰﾆ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
ﾒﾛﾝ	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類等		収穫3日前まで													
きゅうり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫前日まで													
はくさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫3日前まで													
ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
ｷｬﾍﾞﾂ																
非結球あぶらな科葉菜類(ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ、畑わさびを除く) かぶ	ｷｽｼﾞﾉﾐﾊﾑｼ															
ﾁﾝｹﾞﾝｻｲ																
畑わさび	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
だいこん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫7日前まで													

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍数	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	適用作物の 花粉・ 花蜜の 有無	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									接 触	経口		接 触	経口			
										成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
ﾚﾀｽ 非結球ﾚﾀｽ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫3日前まで													
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類															
にら	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫前日まで													
ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類等															
らっきょう	ｱｻﾞﾐｳﾏ類															
未成熟とうもろこし	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
ｾﾙﾘｰ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		収穫14日前まで													
にんじん			収穫7日前まで													
だいず えだまめ	ｶﾒﾑｼ類等		収穫7日前まで													
実えんどう さやえんどう	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫前日まで													
さやいんげん	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
ｵｸﾗ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
しょうが	ｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類															
てんさい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫7日前まで													
ばれいしょ	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ															
かんしょ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫3日前まで													
すいぜんじな	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類															
ふき	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類		収穫7日前まで													
りんご	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		収穫前日まで													
もも ﾈｸﾀﾘﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
なし	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
かんきつ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
小粒核果類	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
ﾏﾝｺﾞｰ	ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ															
ｷｳｲﾌﾙｰﾂ	ｶﾒﾑｼ類															

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍数	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	適用作物の 花粉・ 花蜜の 有無	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									接 触	経口		接 触	経口			
										成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
かき	ｶﾒﾑｼ類等															
ぶどう	ｶﾒﾑｼ類等															
おうとう	ｵｳﾄｳｼｮｳｼﾞｮｳﾊﾞｴ等															
びわ	ｶﾒﾑｼ類等															
あけび(果実)	ｶﾒﾑｼ類		収穫14日前まで													
花き類・観葉植物(きくを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
きく	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
樹木類(つつじ類、つばき類を除く)	ｹﾑｼ類		発生初期													
つつじ類	ｹﾑｼ類等															
つばき類	ｹﾑｼ類															

４６．登録番号 23624：ウッドスター、
登録番号 23676：ウッドセーバー
（ジノテフラン 8.0 %液剤）

（１）ウッドスター

（１）－１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	適用作物の花粉・花蜜の有無	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
樹木類(つばき類を除く)	ｹﾑｼ類	原液	*	幼虫発生前~発生初期 但し新葉展開後	樹幹注入	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)												要
くすのき	ｸｽﾍﾞﾆﾋﾗﾀｶｽﾐｶﾒ			幼虫発生前~発生初期														
ｱﾒﾘｶﾌｳ	ｲﾗｶﾞ類			幼虫発生前~発生初期 但し新葉展開後														
さくら																		
	ｸﾋﾞｱｶﾂﾔｶﾐｷﾘ		**	新葉展開後~落葉前まで														
つばき類	ﾁｬﾄﾞｸｶﾞ			幼虫発生前~発生初期														
ﾌﾟﾗﾀﾅｽ	ﾌﾟﾗﾀﾅｽｸﾞﾝﾊﾞｲ			新葉展開後														
ぶな	ﾌﾞﾅﾊﾊﾞﾁ			新葉展開直前														
ひのき	ﾁｬﾊﾞﾈｱｵｶﾒﾑｼ		***	成虫飛来前														

*：胸高直径6 cm~10 cm : 8~12 mL、10 cm~20 cm : 12~24 mL、20 cm~30 cm : 24~36 mL、30 cm~40 cm : 36~48 mL、40 cm~50 cm : 48~60 mL、50 cm~60 cm : 60~72 mL、以降、直径が10 cm増す毎に12 mLを追加する
**：注入部直径6 cm~10 cm : 2 mL、10 cm~20 cm : 2~12 mL、20 cm~30 cm : 12~18 mL、30 cm~40 cm : 18~24 mL、40 cm~50 cm : 24~30 mL、50 cm~60 cm : 30~36 mL、以降、直径が10 cm増す毎に6 mLを追加する
***：注入部直径 6 cm~8 cm :8 mL、8 cm~11 cm : 12 mL、11 cm~14 cm :16 mL、14 cm~17 cm : 20 mL、17cm～20cm : 24 mL、以降、 直径が 3 cm 増す毎に 4 mL を追加する

（２）ウッドセーバー

（２）－１スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最小希釈倍率(倍)	最大使用液量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	適用作物の花粉・花蜜の有無	有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
ﾃﾞｲｺﾞ	ﾃﾞｲｺﾞﾋﾒｺﾊﾞﾁ	原液	*	成虫発生前又は虫えい形成期	樹幹注入	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (発芽(萌芽)~落花(開花終了)までを除く期間の使用に限る)												要
	ﾍﾞﾆﾓﾝﾉﾒｲｶﾞ			発生前~発生初期														
ｶﾞｼﾞｭﾏﾙ	ｵｷﾅﾜｲﾁﾓﾝｼﾞﾊﾑｼ																	

*：胸高直径 6 cm~10 cm :15~30 mL、10 cm~20 cm :30~60 mL、以降、直径が 10 cm 増す毎に 30~60 mL を追加する

４７．登録番号 23685：ハイポネックス原液 殺虫剤入り
（ジノテフラン 2.5 %複合肥料）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接 触	経口		接 触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
花き類･観葉植物	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	250	2000	発生初期	灌注	土壌 処理	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (開花前に収穫する作物以外は、閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

４８．登録番号 23705：サンブラススタークル箱粒剤
（ジノテフラン 2.0 %・トルプロカルブ 12.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲(箱育苗)	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ等	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約5 L) 1箱当り50 g	移植3日前 ～ 移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌 処理	P	0.20	0.057	-	0.00055	0.00021	-	**0.042**	**0.055**	**0.000063**	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

４９．登録番号 23706：ガッツスター粒剤、
登録番号 23707：ゴウケツモンスター粒剤
（ジノテフラン 1.67 %・シメコナゾール 1.5 %・トルプロカルブ 3.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ｶﾒﾑｼ類等	3 kg/10 a	出穂5日前まで 但し､収穫30日前まで	3000	湛水散布	土壌 処理	P	0.50	0.14	-	0.0014	0.00052	-	**0.11**	**0.14**	**0.00016**	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５０．登録番号 23708：サントリプル箱粒剤、
登録番号 23840：サンフェスタ箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75 %・ジノテフラン 6.0 %・トルプロカルブ 4.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲 (箱育苗)	ｳﾝｶ類等	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	移植3日前 ~ 移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌 処理	P	0.60	0.17	-	0.0017	0.00062	-	**0.13**	**0.17**	**0.00019**	不要
稲	いもち病等	1 kg/10 a	移植時		側条施用												

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５１．登録番号 23833：ハイパーキック箱粒剤、
登録番号 23834：ゴウケツバスター箱粒剤
（ジノテフラン 12.0 %・トルプロカルブ 9.0 %粒剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	最大使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(µg/g)	推計暴露量(µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲(箱育苗)	ｶﾒﾑｼ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植当日	1000	育苗箱の上から均一に散布する。	土壌処理	P	1.2	0.34	-	0.0033	0.0012	-	**0.25**	**0.33**	**0.00038**	不要
	ｳﾝｶ類等	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	移植3日前~移植当日														
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g															
稲	いもち病等	1 kg/10 a	移植時		側条施用												

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５２．登録番号 24316：アースガーデン４
（エトフェンプロックス 0.020 %・ジノテフラン 0.010 %・ミルベメクチン 0.00050 %・ペンチオピラド 0.010 %水和剤）

（１）－１スクリーニング段階

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍数	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	適用作物の 花粉・ 花蜜の 有無	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
									接 触	経口		接 触	経口			
										成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
花き類･観葉植物（ばら、ひまわりを除く）	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	原液	発生 初期	希釈せず そのまま 散布する	ｴｱｿﾞﾙ剤等、一度に広範囲かつ多量に使用されることがないため暴露量の推計不要											不要
ばら	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
ひまわり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
樹木類(つつじ類､つばき類、ひいらぎもくせい、まさきを除く)	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
つばき類 （さざんかを除く）	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
さざんか	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
まさき	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
ひいらぎもくせい	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															
つつじ類	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等															

５３．登録番号 24344：スタートレボン W10
（エトフェンプロックス 10.0 %・ジノテフラン 10.0 %乳剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	1000	150 L/10 a	収穫14日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													
だいずえだまめ	ｶﾒﾑｼ類	1000	150 L/10 a	収穫14日前まで	散布		ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)											要
		8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５４．登録番号 24346：ブレードスタークルゾル
（ジノテフラン 10.0 %・フェリムゾン 15.0 %・フサライド 15.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	1000	150 L/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		300	25 L/10 a															
		8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５５．登録番号 24347：ブレードスタークル粉剤 DL
（ジノテフラン 0.35 %・フェリムゾン 2.0 %・フサライド 1.5 %粉剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	4 kg/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５６．登録番号 24413：マグァンプ K 殺虫剤入り
（ジノテフラン 0.20 %複合肥料）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	最大使用量(g/10a)	使用方法	暴露シナリオ	※	有効成分投下量(kg ai/ha)	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花粉	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 最大値 花蜜	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 平均値 花粉	推計花粉・花蜜濃度(μg/g) 平均値 花蜜	推計暴露量 (μg/bee) 接触	推計暴露量 (μg/bee) 経口 成虫 単回	推計暴露量 (μg/bee) 経口 成虫 反復	推計暴露量 (μg/bee) 経口 幼虫	推計暴露量/毒性指標 接触	推計暴露量/毒性指標 経口 成虫/単回	推計暴露量/毒性指標 経口 成虫/反復	推計暴露量/毒性指標 経口 幼虫	被害防止方法
なす	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	5g/株 (1000株/10 a)	定植時	5000	植穴土壌混和	土壌処理	P	0.10	0.029				-	0.00028		0.00010	-	**0.021**	**0.028**	**0.000031**	不要
	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等		生育期 但し、収穫前日まで		株元散布																
ﾋﾟｰﾏﾝ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	5g/株* (1700株/10 a)	定植時	5500	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.049				-	0.0073		0.0060	-	**0.56**	**0.73**	**0.0018**	要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
ﾋﾟｰﾏﾝ		5g/株 (1700株/10 a)	生育期 但し、収穫前日まで	-	株元散布		【ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)														要
きゅうり	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	5g/株 (1100株/10 a)	定植時	5500	植穴土壌混和	土壌処理	PN	0.11	0.032				-	0.0047		0.0039	-	**0.36**	**0.47**	**0.0012**	不要
									0.10	0.029	0.058	0.014		0.0050	0.0026	0.0038		**0.39**	**0.26**	**0.0012**	
きゅうり			生育期 但し、収穫開始14日前まで		株元散布		【ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)														要
ﾄﾏﾄ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	5g/株 (1900株/10 a)	定植時	9500	植穴土壌混和	土壌処理	P	0.19	0.055				-	0.00052		0.00020	-	**0.040**	**0.052**	**0.000060**	不要
			生育期 但し、収穫前日まで		株元散布																
ﾐﾆﾄﾏﾄ	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類等	5g/株 (2100株/10 a)	定植時	10500	植穴土壌混和	土壌処理	P	0.21	0.060				-	0.00058		0.00022	-	**0.045**	**0.058**	**0.000066**	不要
			生育期 但し、収穫前日まで		株元散布																
いちご	ﾜﾀｱﾌﾞﾗﾑｼ	5g/株	定植時		植穴土壌混和	土壌処理	【ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (閉鎖系施設栽培での使用に限る)														要
花き類・観葉植物	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	5g/株	生育期		株元散布	土壌処理	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (開花前に収穫する作物以外は、閉鎖系施設栽培での使用または開花期終了後の使用に限る)														要
		100 g/m^2																			

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

*被害防止方法として「5.5 kg/10 a を超える場合は、閉鎖系施設栽培での使用に限る」を課した上で、実測値を用いた推計暴露量の精緻化を実施

５７．登録番号 24530：オーケストラスタークルエアー
（ジノテフラン 9.0 %・ベンズピリモキサン 10.0 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ等	1000	150 L/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		250	25 L/10 a															
		16	1.6 L/10 a		無人航空機による散布													
		8	0.8 L/10 a															

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

５８．登録番号 24608：ブレードスタークル R ゾル
（ジノテフラン 9.0 %・フェリムゾン 13.5 %・フサライド 13.5 %水和剤）

（１）スクリーニング段階

作物名	適用病害虫	最小希釈倍率(倍)	最大使用量	使用時期	使用方法	暴露シナリオ	※	ha当たりの有効成分投下量(kg ai/ha)	散布液/粉中有効成分濃度(%)	推定花粉・花蜜濃度(µg/g)	推定暴露量（µg/bee）			推定暴露量/毒性指標				被害防止方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/単回	成虫/反復	幼虫	
稲	いもち病等	1000	150 L/10 a	収穫7日前まで	散布	茎葉散布	P	【第2段階評価】「ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはない」と評価										不要
		300	25 L/10 a															
		8	0.8 L/10 a		無人航空機による散布													

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)